

# ANNUAL REPORT

2021 – 2022

No. 45



Department of Policy and Planning Sciences,  
Faculty of Engineering, Information and Systems,  
University of Tsukuba



## まえがき

筑波大学システム情報系社会工学域は、社会問題（経済、経営、都市・地域等に関わる諸問題）を理工学的（分析的、数理的、計量的）アプローチによって解明し、政策的および計画的な意味合いを見出すという研究上の共通目標をもつ研究者の組織である。2021年4月現在の本域所属の教員は、教授17名、准教授20名、講師1名、助教10名の合計48名、連携大学院教員8名（教授6名、准教授2名）を加えると56名である。それぞれの構成員は、国際的に認められる質の高い研究成果を上げるように、また良き教育者であるように努めている。本専攻教員の2020年度中の研究・教育活動は、以下のように総括できる。

### (1) 研究活動

本域の研究活動は、2020年度も全分野（社会経済、経営工学、都市計画）にわたって活発に展開した。論文・著書に関しては、最も重視している審査付論文数が高水準を維持している。競争的研究資金の積極的導入にも努め、外部研究資金を着実に獲得している。2020年度の科学研究費の新規採択本数は15件（基盤(B)3件、基盤(C)6件、若手2件、新学術領域研究(公募研究)1件、挑戦的研究(開拓)1件、挑戦的研究(萌芽)2件）であり、継続34件と合わせると49件となる。

また、研究教育活動をさらに加速させるために組織力を保持するグループ研究を促進している。2021年7月現在、リサーチユニット7件、リサーチグループ7件にて本域教員が代表者となっている。

2015年度には、多目的データバンクプロジェクトをリニューアルし、社会工学コモンズの一部としてデータベースのネット公開を開始した。その数は、2020年度末で44件に上っている。2020年度からは、社会工学データサイエンス・ケースバンクプロジェクトも開始し、ネット公開を始めている。その数は2020年度末で21件である。

### (2) 教育

本域の教員が関連する大学院教育組織に関する大きな動きとして、本学大学院全体の改組に伴い2020年度より新設された理工情報生命学術院・システム情報工学研究群の中に、社会工学学位プログラム（博士前期・後期課程）、サービス工学学位プログラム（博士前期課程）の二つの独立した学位プログラムが発足し、大学院教育・研究指導を進めることになった。ただし、既に2014年度より、社会システム・マネジメント専攻、社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻を改組し、社会工学専攻が発足しており、その中で上記の二つの学位プログラムは活動を開始していた。また、同じくシステム情報工学研究群の中のリスク・レジリエンス工学学位プログラム（博士前期・後期課程）、理工情報生命学術院・生命地球科学研究群内の環境科学学位プログラム（博士前期課程）・環境学学位プログラム（博士後期課程）においても教育研究活動を行っている。さらに本域では、理工学群社会工学類、および社会・国際学群国際総合学類の学類教育も担っている。

これら教育組織ではカリキュラム等教育体制を定期的に見直してきた。社会工学学位プログラムでは前々身の組織時代の2007年度より、博士後期課程で「社会人のための博士後期課程早期修了プログラ

ム」を通じて社会人を継続的に受け入れている。2008 年度からは院生活動支援プロジェクトを実施し、学位プログラム独自の予算で学生の国内外の研究発表を経済的に支援している。さらに 2017 年には社会工学学位プログラム内に社会連携講座「地域未来社会創生教育コース」が開設された。また、本学に 2017 年 4 月に開設された未来社会工学開発研究センターと人工知能科学研究センターの活動に貢献する体制が整えられている。

かねてより社会工学・サービス工学学位プログラムならびに社会工学類では、教育の高度化を目指し、アクティブ・ラーニング、フィールドワーク、インターンシップなどを積極的に取り入れている。これらの教育では卒業生による協力も大きい。社会工学同窓会、社工都市計画同窓会等を通じた卒業生との交流も本学では最も活発である。特に、2007 年から社会工学類の優秀な卒業生 3 名に与えられる倉谷賞は社会工学類生の研究活動を大いに鼓舞している。

### (3) 国際交流などの社会貢献

教育や研究以外にも、様々な学内外貢献を行っている。本域教員が責任者となっている国際交流協定は、清華大学、香港理工大学（中国）、漢陽大学校、弘益大学校、韓国国土研究院、ソウル市立大学校（韓国）、ウィーン経済・経営大学（オーストリア）、交通通信大学（ベトナム）、ルール大学ボーフム校（ドイツ）、フリンダース大学（オーストラリア）、パリ・ラ・ヴィレット大学、ポール・ヴァレリーモンペリエ第 3 大学（フランス）、アル・アハワイン大学（モロッコ）、ヨルダン科学技術大学（ヨルダン）等、多岐にわたっている。特に 2016 年 9 月にベトナムの首都ハノイにおいて開学した「日越大学」、ならびに筑波大学における世界展開力強化事業では、本域の教員が多数協力を行っている。

また実学も重視しており、国、自治体、企業などとの連携も含め多様な社会貢献、地域貢献を行っている。国における都市計画制度の改革や、茨城県内 5 市（北茨城市、高萩市、神栖市、潮来市、鹿嶋市）と東日本大震災からの復興に関する協定締結において、本域教員が中心的役割を果たした。また、多数の出張講義・公開講座、本学主催の高大連携シンポジウム開催、自治体からの受託研究の実施、国・自治体の各種委員への就任など社会連携活動へ大いに貢献した。上述のように 2017 年 4 月からは社会連携講座「地域未来社会創生教育コース」も開設され、産官学連携活動もきわめて活発に行われている。

### (4) 組織

本域教員の流動性が高く、それに伴い審査付学術論文を重視する採用・昇任人事が経常的に行われてきた。しかし、昨今の採用人事制度の変更に伴い、優秀な人材を確保・維持していくためには、組織力のより一層の強化が求められる。

本域教員は、様々な研究分野・職歴・国籍をもち、工学系の域としては女性比率も高い。構成員の中で助教の構成比を高めることで、若手教員の比重も高めている。多様な教員間の活発な交流が、相乗効果により研究成果の向上をもたらしている。本域の更なる成長のためには、研究・教育意欲を刺激するような環境と開かれた運営体制を整備し、中長期的視野に立ち有能な人材を確保することが必要である。同時に、研究、教育、学内外の貢献に関して定期的な記録と自己評価・点検により、社会的説明責任を果たさなければならない。特に本学に 2017 年 4 月から開設された未来社会工学開発研究センターならびに人工知能科学研究センターとの連携では、本域が伝統的に有していた強みを発揮するとともに、本域の研究・教育両面での新たな飛躍が期待されている。組織力を生かした運営を通じ、社会的知識・論

理的思考力・各種の工学スキルを持って社会問題を解決できる、豊かな人間性を兼ね備えた視野の広い人材を育成していきたい。

本報告書が構成員及び関係者の意識向上に貢献するとともに、本域の活動を知っていただく上で有効に活用されれば幸いである。

2021年9月13日

社会工学域長、社会システム・マネジメント専攻長、社会工学専攻長、社会工学学位プログラム・リーダー  
藤川 昌樹

## 大学・大学院の歴史

1973年	筑波大学開学
1976年	大学院、経営・政策科学研究科が発足する。
1977年	学部組織、第三学群社会工学類が発足する。
1978年	大学院として、博士課程（5年一貫制）の研究科である社会工学研究科が発足する。計量計画学専攻、経営工学専攻、都市・地域計画学専攻の3専攻から構成された。
1994年	社会工学研究科の都市・地域計画学専攻で、連携大学院方式が発足する。
1997年	社会工学研究科の改編がなされ、社会経済システム専攻、システム情報数理専攻、都市・環境システム専攻、計量ファイナンス・マネジメント専攻の4専攻体制となる。
2000年	社会工学研究科がシステム情報工学研究科に編入され、社会システム工学専攻と計量ファイナンス・マネジメント専攻の2専攻に改編される。社会システム工学専攻は社会経済システム分野、システム情報数理分野、都市・環境システム分野の3分野で構成される。
2001年	経営・政策科学研究科が従来の経営科学分野と政策科学分野を、MBA、ビジネス情報数理、社会経済システム、都市計画の4コース制に改編する。
2005年	5年一貫制博士課程が区分制博士課程（2年の博士前期課程と3年の博士後期課程）に移行し、社会システム工学専攻と計量ファイナンス・マネジメント専攻は博士前期課程の社会システム工学専攻と博士後期課程の社会システム・マネジメント専攻に改編される。社会システム工学専攻は、社会経済システム分野、システム情報数理分野、都市・環境システム分野、計量ファイナンス・マネジメント分野の4分野で構成されることになる。
	経営・政策科学研究科は、博士課程前期課程の1専攻としてシステム情報工学研究科に編入され、経営・政策科学専攻となる。同年度の入学者から、修士（ビジネス）を取得するMBAコースまたは修士（公共政策）を取得するMPPコースのいずれかを選択することになる。
2006年	社会システム工学専攻が、社会経済システム分野、経営工学分野、都市計画分野の3分野に再構成される。
2007年	理工学群社会工学類へと改編される。
2013年	社会システム・マネジメント専攻、社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻が、1つの専攻へと改編されることが決まる。
2014年	社会工学専攻（社会工学学位プログラム、サービス工学学位プログラム）が発足する。
2017年	社会工学学位プログラム内に、地域未来創生教育コースが開設される。
2020年	社会工学学位プログラム・サービス工学学位プログラムが、新設の理工情報生命学術院・システム情報工学研究群の内部に位置付けられる。

## I. リサーチユニット

筑波大学リサーチユニット・社会工学域教員代表者(2021/6/30 現在)

課題名(領域)	概要	代表者
サービス資源の最適配分(理工系)	最適化モデル, 確率モデル等の数理モデルを用いて, サービス産業および自治体における, 人・モノ・情報等のサービス資源の最適な配分方法に関する研究を行い, サービス事業者が提供するサービスの品質とその効率性の向上を目指す.	吉瀬 章子
コンパクトシティ(理工系)	人口減少や環境問題への対応に向け、都市をコンパクト化することの必要性が広く認知されるようになってきた。本研究グループはその研究上、および実務上の課題に応えるため、本学内外の幅広い専門家より構成されている。	谷口 守
都市・地域の経営とデザイン(理工系)	分野横断的・国際的な視点から、従来までの都市計画・地域経営・まちづくり分野等の再構築を図り、都市・地域の経営・デザインに係る新たな方法論を創出するとともに、関連研究・教育の成果の発信・共有に係る国際的拠点を形成することを目的とする。	有田 智一
都市のOR(複合系)	本ユニットは、都市のORを研究領域とする。都市現象に関する諸課題など社会的・地球規模的な課題解決にオペレーションズ・リサーチ手法を駆使して取り組む研究者に対し、研究発表の機会や議論の場を提供するのである。	大澤 義明
東アジアの伝統的民家・集落と環境(複合系)	日本を含む東アジアにおける伝統的民家・集落・環境の相互関係についての学際的フィールド研究を実施する。現状での共時的な相互関係の理解を出発点として、東アジア全域にわたる木造文化の歴史的展開過程に関する知見を得る。	藤川 昌樹
経済実験・社会シミュレーション(複合系)	相互依存的意思決定状況の下で生じる社会現象をどの程度予測できるかという問いは、研究の健全性を確保するために重要である。本プロジェクトの目的は、経済実験や社会シミュレーションによって、人間の経済行動とそこから生じる社会現象の予測に対するゲーム理論の適用可能性を探ることである。	秋山 英三



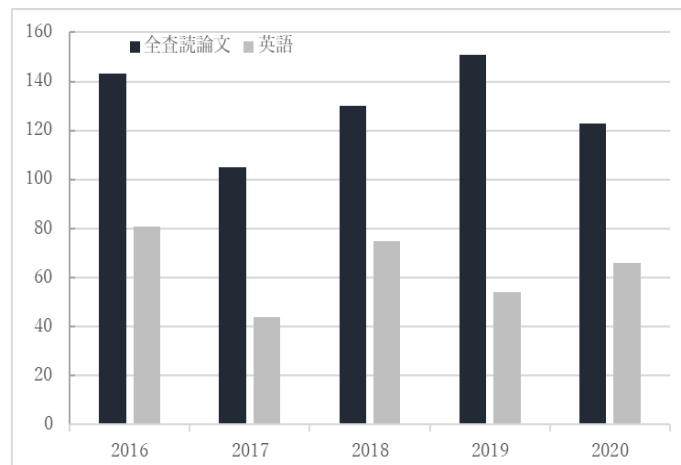
空間情報の社会的活用(複合系)	<p>地理情報はビッグデータの時代を迎えて、IoT 化の進展や ICT 技術により大量化・高度化しているが、近年重要性を増している情報技術の社会実装と政策展開の課題のなかで、有効かつ的確に活用する可能性が広がっているにも関わらず、いまだその活用は不十分である。本リサーチユニットは、未来社会の空間設計に向けて、地理情報ビッグデータの集約と活用方法の開発、そして、数理モデリング技法による空間意思決定方法への応用の研究を推進することを目的とする。この活動により、犯罪・災害などのリスクに対する安全研究、安全・効率的で環境負荷の少ない交通体系の研究、老朽化する都市基盤施設の維持更新や集約型のコンパクト・アンド・ネットワーク型の都市計画の研究等において、これまでの方法では見えてこなかった空間データを応用した意思決定の社会実装方法や、即効性の高い政策展開を支える社会的な仕組みを提示することができるようになることを目指す。</p>	鈴木 勉
-----------------	---	------

筑波大学システム情報系リサーチグループ・社会工学域教員 (2021/6/30 現在)

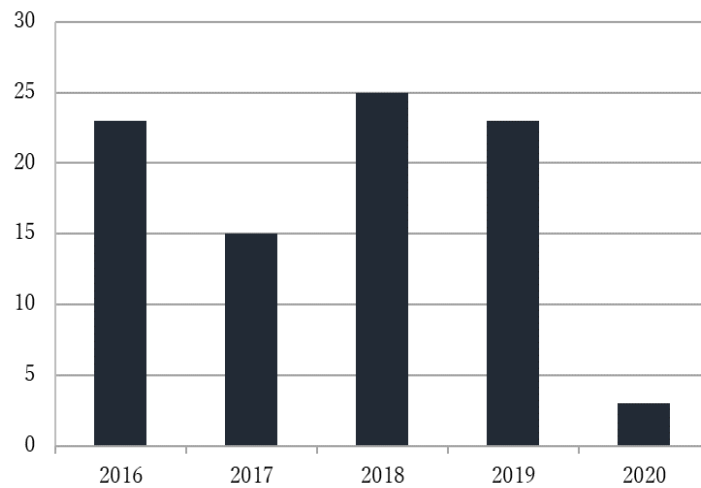
課題名	概要	代表者
マネジメント・サイエンス・経済学・心理学にわたる学際研究	社会工学域所属の6(昨年度までは4名)名の教員によるマネジメント・サイエンス(組織行動論・産業組織論・マーケティング)および経済学(ミクロ経済学・産業組織論)分野の共同学際研究	渡辺 真一郎
持続可能な社会構築のための政策	東日本大震災、ポスト京都等の様々な難題のもと、持続可能な社会構築のための政策設計は喫緊の課題である。当政策には、単なる経済効率性や環境保全の観点を超えた視点が求められている。以上の問題意識から、本リサーチグループでは、環境経済学、都市環境計画、社会基盤計画、交通計画等の立場から、持続可能な社会を実現するための政策について分析を行う。	奥島 真一郎
ビッグデータと地理空間情報を活用した我が国の産業・企業研究	我が国の信用調査会社の企業間取引データや位置などの各種の地理空間情報を活用することで、我が国の様々な産業について、これまで見ることの出来なかった事業所間取引やその階層構造、事業所立地の動向など、経済再生・地方創生・国土強靱化に資する産業・企業研究を行う。	堤 盛人
情報ネットワーク	デジタル・コンテンツ著作権保護やグループ検査技術の開発、通信のための符号や系列の性能解析や構成法、携帯電話を利用した位置情報システムの開発と構築、無線通信ネットワークにおける効率的な経路決定と資源管理、GPSタクシー配車歴データの可視化及びその分析、モバイルクラウドにおけるデータ処理手法の開発、顧客の再試行と途中放棄を考慮したコールセンターのモデル化と性能解析、省エネ型データセンターのモデル化と性能評価を行う。	繆 瑩
都市・地域リスクマネジメントと被災地復興支援	都市リスク研究グループは、都市・地域に潜む様々なリスクを対象としてその適切なマネジメントに関する研究を行うとともに、自治体及び市民への政策提言や啓発活動を通じて被災地復興支援や交通安全教育など都市・地域の現実問題解決のための社会貢献を果たす。	谷口 綾子
地理情報の解析と視覚化	数理科学、都市計画、地理情報システムの専門家が計算幾何学、まちづくり、データマイニング、最適化などの多様な切り口から地理情報について横断的に情報交換し、研究手法の社会への普及を図る。	大澤 義明

<p>社会メカニズム工学</p>	<p>複雑な社会・経済・経営現象のメカニズムを工学的にモデル化、可視化、シミュレーションし、制度設計に活かす新たな学際研究分野を創出する。  ・キーワード:マーケット・デザイン、複雑ネットワーク解析、社会シミュレーション、可視化、マネジメント・サイエンス</p>	<p>秋山 英三</p>
<p>マイクロ計量経済学的分析手法の開発と応用</p>	<p>本研究は、個人や家計の選好パラメータを推定する新たなマイクロ計量経済学的手法の開発とその応用、及び実証モデルの基礎となる経済理論モデルの構築を行うことを目的としている。</p>	<p>大久保 正勝</p>
<p>都市・地域の経営とデザイン</p>	<p>分野横断的・国際的な視点から、従来までの都市計画・地域経営・まちづくり分野等の再構築を図り、都市・地域の経営・デザインに係る新たな方法論を創出するとともに、研究・教育の成果の発信に係る国際的拠点を形成する。</p>	<p>有田 智一</p>

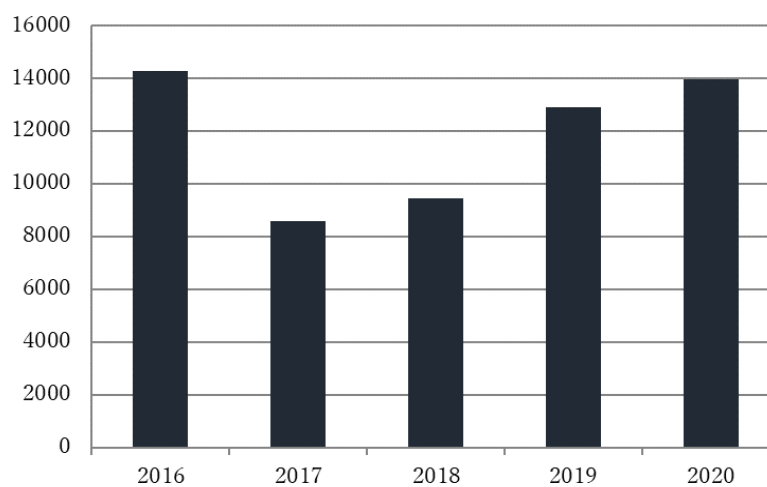
### 教員過去5年間の論文数



### 教員過去5年間の著書数



### 科研費合計額（単位：万円、直接+間接経費、代表者が社工教員）



## II. 教員一覽

2022/6/1 現在

教授		
氏名	専門分野	研究テーマ
秋山 英三	進化ゲーム論、力学系、エージェントシミュレーション、行動実験	資産市場取引におけるバブル発生機構の研究、協力行動の進化の研究、力学系としてのゲームの研究
有田 智一	地域科学、都市計画	産業集積、都市・地域政策、都市計画制度
イリチュ(佐藤) 美佳	統計科学、多次元データ解析	類似度の潜在構造モデルに基づくクラスタリング、ファジィクラスタリング、多相・多元データ理論
大澤 義明	都市計画、地域科学	MaaS と都市計画、公共施設マネジメント、災害復興、住民投票の意義、税競争と調和、夜景、世界の研究学園都市、立地論
岡本 直久	交通計画、観光計画	道路パフォーマンス指標の開発、コンテナ港湾機能配分に関する研究、観光交通の需要分析
川島 宏一	公共経営、オープンデータ、自治体情報戦略	公共情報共有による問題解決、都市開発分野の国際協力
繁野 麻衣子	数理計画、組合せ最適化	組合せ最適化、ネットワーク最適化のアルゴリズム開発
鈴木 勉	都市解析、立地科学、地理情報科学	計画数理、立地分析、施設配置計画、都市形態、公共サービス、公共交通計画、都市リスク管理、地理情報の応用
谷口 綾子	都市交通計画、態度・行動変容研究、リスクコミュニケーション	都市交通計画における態度・行動変容研究、モビリティ・マネジメント、リスクコミュニケーション、新技術の社会的受容
谷口 守	都市計画・交通計画・環境計画、保全型都市計画	社会・交通基盤整備に関する研究、都市の環境に関する研究、都市・地域計画制度に関する研究
張 勇兵	分散システム、通信ネットワーク、性能評価	WDM 光通信ネットワークにおけるルーティング方式、移動エージェントによる分散処理システムの構築、移動通信システムにおける周波数資源の最適割り当て方式に関する研究
堤 盛人	空間計量経済学、空間統計学、地理情報科学、土木計画学	空間計量経済学、空間統計学、組成データ解析、不動産の価格・資料・空室率、産業立地、社会資本のストック推計、道路の維持管理、応用都市経済モデル
藤川 昌樹	日本建築史・都市史	歴史的市街地の保存、前近代東アジアの居住環境史、日本近世都市・住宅の空間構成に関する研究

繆 瑩	組合せ論、離散数学、符号理論、暗号理論、通信方式	デジタル指紋符号・グループ検査方式・多元接続通信符号・分散ストレージシステム符号・プライバシー保護方式の構成及びアルゴリズムの開発
村上 暁信	都市計画、緑地計画、環境シミュレーション	ランドスケープ・プランニング、緑地の環境保全機能、都市化と環境変化、都市と農村の一体的整備、気候風土と景観
吉瀬 章子	数理最適化、オペレーションズ・リサーチ	錐最適化問題に対するアルゴリズムの理論と応用、サービス工学における最適化モデルの構築
渡辺 俊	建築情報学、都市情報学、空間情報学、デザイン科学	ポスト定住化社会に関する研究、設計方法論に関する研究、地理情報システムに関する研究、建築CADシステムに関する研究

准教授		
氏名	専門分野	研究テーマ
雨宮 護	都市計画、犯罪学、空間情報科学、環境心理学	犯罪の空間統計学的分析と防犯まちづくりに関する研究、人口減少下における郊外の将来像に関する研究、環境の認知と評価・認知地図・回復環境・場所愛着・領域性など環境心理学研究全般、GIS/GPS/センシング技術を用いた人間行動や社会問題の解析
上市 秀雄	意思決定論、認知心理学、社会心理学	個人の意思決定問題全般：後悔状況におけるメタ認知能力と適応的行動の関連性、環境保全行動、更生支援活動などの社会貢献・支援活動を促進・抑制する要因の分析、ギャンブル行動、サービス提供側と受け手側とのインタラクションに関する研究、慢性ストレスが生理・心理状態に及ぼす影響など
梅本 通孝	都市・地域の低頻度リスク対策	住民避難、災害時情報伝達、施設周辺地域の原子力災害対策、災害リスク認知
大久保 正勝	マクロ経済学、計量経済学	異時点間の消費決定に関する実証研究
太田 充	地域科学、都市経済学、都市計画	通信技術革新と都市空間構造の自己組織化
岡田 幸彦	会計学、サービス工学	サービス原価企画の理論的・実証的研究、サービス科学教育のための”知の体系”の創造
奥島 真一郎	環境経済学、エネルギー経済学、政策分析	エネルギーと環境に関する脆弱性と貧困、モラルモチベーションと環境政策、環境とエネルギーに関する新たな指標の開発

甲斐田 直子	環境経済学、環境心理学	環境配慮行動・環境価値観・態度の分析、行動変容方略の検討、環境自然資源価値の経済評価
作道 真理	応用計量経済学	
澤 亮治	進化ゲーム理論、協力ゲーム、行動ゲーム理論	進化ゲーム理論を利用した社会慣習・社会制度・メカニズムの安定性分析
高野 祐一	数理最適化、金融工学、機械学習	ポートフォリオ選択、統計的モデル選択、商品推薦アルゴリズム、数理最適化技法（数理モデル・アルゴリズム）の開発と応用
Stephen John, Turnbull,	ゲーム論、情報経済、実験経済	オープンソース及びフリーソフトウェアのマイクロ経済学的分析、コンピュータネットワークの経済学的効果
Phung-Duc, Tuan	応用確率論、確率モデル、待ち行列理論、性能評価、オペレーションズ・リサーチ	サービス・社会・情報システムの確率モデルに関する研究
八森 正泰	離散数学、組合せ論	トポロジー的組合せ論、組合せ論におけるトポロジー的手法
原田 信行	中小企業経済学、計量経済学	中小企業の動態および政策に関する理論・実証分析、日本経済・産業の実証分析、計量経済学
藤井 さやか	都市計画、建築規制・まちづくり法制、地区まちづくり、住環境整備	都市計画制度の活用効果と課題、地域独自のルール・仕組みづくり、地域住民等の発意を活かした地区まちづくり、既成・郊外住宅地や住宅団地の再生、地域資源を活用したまちづくり
松原 康介	都市保全計画、都市計画史、地中海都市論	中東・北アフリカ地域の都市計画史
山本 幸子	建築計画、地域計画	建築ストックの管理・活用手法の検討、地域施設計画、都市・農村交流によるまちづくりに関する研究
和田 健太郎	交通工学、土木計画学	



講師		
氏名	専門分野	研究テーマ
有馬 澄佳	生産システム工学、オペレーション管理、技術経営、コンピューターデバイス	QCDR モデルに基づく装置および生産ラインの設計・運用方法、超受注生産システム、技術経営と地域活性化（経営管理 DMAIC-PDCA サイクルを念頭においた IoT・ビッグデータ解析と計画最適化の応用研究を含む）

助教		
氏名	専門分野	研究テーマ
阿武 秀和	理論経済学	ミクロ経済学、マーケットデザイン
牛島 光一	応用計量経済学、健康の経済学、教育の経済学	様々な政策や暴力紛争が人的資本（教育水準や健康）の蓄積に与える影響に関する実証研究
Eom, Sunyong	都市解析、空間情報科学、都市計画	土地利用計画、都市のリスク管理、持続可能型都市構造、施設立地計画、ビッグデータを用いた都市の診断
折原 正訓	企業金融・企業統治、税制、法と経済学	税制・法制度など公共政策と企業金融・企業統治との関係の実証分析
金澤 輝代士	金融データ解析、経済物理、統計物理、確率過程	
木下 陽平	測地学、気象学、リモートセンシング	
黒瀬 雄大	統計、計量経済学	ベイズ統計学、状態空間モデル
讃井 知		
佐野 幸恵	社会経済物理、ネットワーク科学、ウェブサイエンス、計算社会科学	社会現象の数理モデル、ソーシャルメディア分析、学術ネットワーク分析
Tran Lam Anh, Duong	国際経済学、経済成長、所得分配	国際貿易が経済成長と富の分配に与える影響の分析
三崎 広海	統計学、計量経済学、計量ファイナンス	高頻度データ解析、資産価格の分散・共分散、金融リスク管理、状態空間モデル、粒子フィルタ

氏名	秋山 英三	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	進化ゲーム理論、エージェント・ベースド・シミュレーション		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
  - 学類 社会工学実習／プログラミング実習／進化ゲーム理論
  - 大学院 社会シミュレーション
- ◆ 指導学生数：
  - 社会工学類 4人
  - 社会工学学位 P (前期) 5人
  - 社会工学学位 P (後期) 3人
  - ポスドク 1人

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
  - 基盤研究 (C) 市場参加者の価格予測の異質性と市場の振る舞いの関係について (代表)
  - 基盤研究 (B) 経験財消費のための情報収集行動とその支援情報提供システム (代表者：石川竜一郎)
  - 基盤研究 (B) 情報コストゼロ社会における過剰懲罰とリスク軽減のための社会制度設計 (代表者：鳥海不二夫)
  - 基盤研究 (B) 新しい肺移植制度の構築と評価：ドナー交換移植の可能性 (代表者：栗野盛光)
  - 基盤研究 (B) 信用スコア社会に対応可能な評判管理システムの設計 (代表者：岡田勇)
  - 基盤研究 (B) ゲーム理論・意思決定理論への理性制約・準理性制約の導入とその影響 (代表者：金子守)
  - 国際共同研究強化(B) 情報の非対称性と多様な期待形成がもたらす金融市場への影響とその安定化政策について (代表者：船木由喜彦)
- ◆ 著書・論文等：
  - ・ Katahira, K., Y. Chen, Akiyama, E., Self-organized Speculation Game for the spontaneous emergence of financial stylized facts, Physica A, 852, 126227,

November (2021). 査読有

<https://doi.org/10.1016/j.physa.2021.126227>

- Okada, I., Yamamoto, H., Akiyama, E., and Toriumi, F., "Cooperation in spatial public good games depends on the locality effects of game, adaptation, and punishment," Scientific Reports 11, 7642, April (2021). 査読有  
<https://doi.org/10.1038/s41598-021-86668-3>
- 石田雄大, 秋山英三, 時間制約を導入したゴミ箱モデル, 人工知能学会論文誌, 36(5), AG21-J\_1-8, (2021). 査読有
- 謝凡, 秋山英三, 情報入手時間の差異がある市場の振る舞いに値幅制限が与える影響: 人工市場によるアプローチ, 人工知能学会論文, 36(5), AG21-A\_1-8, (2021). 査読有

◆ 学会発表等:

◆ その他:

### 3. 学内運営

- ◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献:
  - 総合学域群 第二類 類長
  - 全学学群教育課程委員会 (委員長)
  - 全学学群教育課程委員会 専門導入科目等部会 (部会長)
  - 全学移行統括委員会 委員
  - 全学移行統括専門部会 (部会長)
  - 全学教育戦略会議 (副学長補佐)
  - 全学入試検討タスクフォース 委員
  - 全学学群教育会議
  - 全学学群共通科目部会
  - 理工学群 総合政策室 室員
  - 総合学域群 運営委員会 委員
  - 全学学群教職課程委員会 委員 (総合学域群類長として)
  - 情報環境委員会ネットワーク管理委員会 委員 (総合学域群類長として)
  - キャンパス情報ネットワークシステム仕様策定委員会 (総合学域群類長として)
- ◆ 学位プログラム等組織の業務への貢献 (委員会等):
  - 社会工学類運営委員
  - 社会工学/サービス工学学位プログラム運営委員

- ・ 社会工学域人事懇談会 世話人
- ・ 社会工学類データサイエンス委員会

#### 4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

- JAWS (Joint Agent Workshops and Symposium) プログラム委員

氏名	有田 智一	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任 地球規模課題学位プログラム 分担		
研究分野	都市・地域政策, 都市計画制度、産業集積		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
- ◆ 社会工学類：都市と地域の経営行政論、社会工学演習、都市計画マスタープラン策定演習、現代まちづくりの理論と実践、建築関連法規（世話人教員）、建築経済（世話人教員）
- ◆ 社会工学学位プログラム：制度・政策決定論、都市開発プロジェクトマネジメント/地域経営論、社会工学ワークショップ・社会工学ファシリテーター（ULIワークショップ）、美しい国土づくりへの挑戦1（世話人教員）
- ◆ 地球規模課題学位プログラム：Seminars on Global Issues A-II
- ◆ 指導学生数：
  - 社会工学類 3名
  - 社会工学学位プログラム（博士前期） 6名
  - 社会工学学位プログラム（博士後期） 1名

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
  - ・基盤研究 C「オープンデータを踏まえた市民セクター主体の ICT 協働まちづくりに関する研究」（研究代表者）
  - ・基盤研究 B「豪雨災害から避難弱者を守る共助的な避難行動計画づくりシステムに関する学際的研究」（研究分担者）
- ◆ 著書・論文等：
  - ・鈴木 賢人；有田 智一「東京都区部における開発実態の評価を踏まえた開発拠点誘導政策の課題に関する研究」都市計画論文集/56(3)/pp.881-888, 2021-10-25
  - ・阿部 俊介；有田 智一「公民連携による空き家・空き地対策組織の展開と運営実態」都市計画論文集/56(3)/pp.1268-1274, 2021-10-25
  - ・藤田 修平；川島 宏一；有田 智一；岡本 正「避難行動要支援者名簿活用に向けた制度設計・運用プロセスにおける課題に関する研究」地域安全学会論文集/39(0)/pp.145-153,

2021-11-01

・野村敦子;川島 宏一;有田智一「地方自治体のオープンデータ施策の実態と取り組み内容に影響を与える要因に関する研究」情報通信学会誌, 2021-09

・野村敦子;川島 宏一;有田智一「オープンデータ施策に総合的に取り組む地方自治体の動因に関する研究」自治体学/35(2), 2022-03

◆ 学会発表等：

◆ その他：

### 3. 学内運営

◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献：

システム情報系戦略委員

地球規模課題学位プログラム運営委員会委員

日越大学公共政策プログラム担当

筑波大学によるつくば市消防署跡地利用計画事業審査委員会委員

◆ 学位プログラム等組織の業務への貢献（委員会等）：

教学マネジメント委員会委員長（授業評価・FD）（大学院・学類）  
建築士受験資格運営委員会委員長

### 4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

東京都住宅政策審議会委員

東京都住宅政策審議会企画部会部会長代理

東京都建築審査会委員

東京都江戸川区都市計画審議会委員

東京都練馬区都市計画審議会委員

川崎市建築等紛争調停委員会委員

埼玉県八潮市まちづくり・景観推進会議委員

千葉県松戸市建築審査会委員

守谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議座長

守谷市空家等対策協議会座長

土浦市空き家等審議会委員長

土浦市建築審査会委員

神栖市立地適正化計画策定委員会委員長  
つくばみらい市立地適正化計画策定委員会委員長  
古河市空き家等審議会委員長  
桜川市市有財産跡地等利活用審議会会長  
桜川市都市計画審議会委員  
阿見町都市計画審議会委員  
日本建築学会建築法制委員会委員  
日本建築学会建築法制委員会近代建築法制100周年記念出版対応WG主査  
日本建築学会建築法制委員会人口減少時代のゾーニング検討小委員会委員  
日本都市計画学会理事  
日本都市計画学会学術委員会副委員長  
不動産学会論文著作賞選考委員会委員  
都市住宅学会関東支部常議員  
都市住宅学会学術委員会委員  
都市住宅学会学会賞委員会委員  
応用地域学会学術委員会委員  
財団法人再開発コーディネーター協会試験講習委員会委員  
Journal:” Planning Theory and Practice (Royal Town Planning Institute),” Editorial Board(Taylor & Francis)

氏 名	イリチュ（佐藤）美佳	職 名	教授
学位プログラム（博士後期課程）	リスク・レジリエンス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担		
学位プログラム（博士前期課程）	リスク・レジリエンス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	統計科学, データマイニング, ソフトコンピューティング		

## 1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 数理統計学/統計学/卒業研究

大学院前期課程 データマイニング/リスク・レジリエンス工学修士特別演習 I/リスク・レジリエンス工学修士特別演習 II/リスク・レジリエンス工学修士特別研究 I/リスク・レジリエンス工学修士特別研究 II/リスク・レジリエンス工学概論（分担）/リスク・レジリエンス工学グループ PBL 演習（分担）/社会工学修士特別演習 I /社会工学修士特別演習 II/社会工学修士特別研究 I/社会工学修士特別研究 II

大学院後期課程 リスク・レジリエンス工学博士 PBL 演習（分担）/ リスク・レジリエンス工学博士特別研究

◆ 指導学生数：

社会工学類 7人/リスク・レジリエンス工学学位プログラム 3人/社会工学学位プログラム 3人

## 2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C))

「高次計量による高次元小標本型ビックデータ解析とその社会的応用」（代表）

◆ 著書・論文等：

(1)M. Sato-Ilic, Indicator for Individuality of Subjects based on Similarity of Objects, Procedia Computer Science, Elsevier, Vol. 185, pp. 193-202, 2021 (Best Paper Award (Third Prize) 受賞)

(2)M. Sato-Ilic, Cluster-Scaled Principal Component Analysis, Wiley Interdisciplinary Reviews-Computational Statistics, pp. 1-13, 2021

(3)M. Sato-Ilic, Clustering-based Scaling for Healthcare Data, Handbook on Artificial Intelligence-Empowered Applied Software Engineering, Vol. 2, Smart Software Applications in Cyber-Physical Systems, Springer, 2022



- (4) M. Sato-Ilic, Advances in Fuzzy Clustering Used in Indicator for Individuality, Advances in Selected Artificial Intelligence Areas - World Outstanding Women in Artificial Intelligence -, Springer, pp.57-75, 2022
- (5) Y. Toko, M. Sato-Ilic, Autocoding based Multi-Class Support Vector Machine by Fuzzy c-Means, Romanian Statistical Review, Vol. 1, pp.27-39, 2021
- (6) Y. Toko, M. Sato-Ilic, Efficient Autocoding Method in High Dimensional Space, Romanian Statistical Review, Vol. 1, pp.3-16, 2021
- (7) K. Miyazawa, M. Sato-Ilic, A Classification Method based on Ensemble Learning of Deep Learning and Multidimensional Scaling, Intelligent Decision Technologies, Smart Innovation, Systems and Technologies, Vol. 238, pp.379-390, 2021
- (8) K. Nitta, M. Sato-Ilic, Individual Difference Assessment Method based on Cluster Scale using a Data Reduction Method, Intelligent Decision Technologies, Smart Innovation, Systems and Technologies, Vol. 238, pp.415-426, 2021
- (9) Y. Toko, M. Sato-Ilic, A Hybrid Method of Multi-class SVM and Classification Method based on Reliability Score for Autocoding of the Family Income and Expenditure Survey, Intelligent Decision Technologies, Smart Innovation, Systems and Technologies, Vol. 238, pp.403-413, 2021
- (10) M. Sato-Ilic, Discrimination of the Labeled High-Dimension Low-Sample Data for Healthcare, Proceedings of International Conference on FIM-IMIP-UMSO, pp.61-62, 2021
- (11) 益居 秀, 佐藤 美佳, ファジィ区間データに対する主成分分析, 第 37 回ファジィシステムシンポジウム講演論文集, pp.393-398, 2021
- (12) 床 裕佳子, 佐藤 美佳, Hybrid Autocoding Method for the Family Income and Expenditure Survey, 日本分類学会第 40 回大会予稿集, 08, pp.1-4, 2021
- (13) 藤本 聖, 佐藤 美佳, 区間組成データに対する重み付き回帰分析, 日本分類学会シンポジウム予稿集, 19, pp.1-4, 2021

◆ 学会発表等：

特別講演：

- (1) M. Sato-Ilic, Fusion of Statistical and Computational Thinking and Its Application to Fuzzy Cluster-Scaled Statistical Analysis, International Conference on FIM-IMIP-UMSO, 2021
- (2) M. Sato-Ilic, Cluster-Scaled Statistical Data Science, 5th International Conference on Computational Intelligence, Cyber Security and Computational Models, 2021

招待講演：

- (3) M. Sato-Ilic, Clustering Models based on Cluster-Scales, Global Summit and Expo on Robot Intelligence Technology and Applications, 2021
- (4) M. Sato-Ilic, Discrimination of the Labeled High-Dimension Low-Sample Data for Healthcare, International Conference on FIM-IMIP-UMSO, 2021
- (5) 佐藤 美佳, データサイエンスにおける機械学習とその発展, 第6回DSの世界, 立正大学データサイエンス学部, 2021

一般研究発表：

- (6) M. Sato-Ilic, Indicator for Individuality of Subjects based on Similarity of Objects, Complex Adaptive Systems 2021, 2021
- (7) K. Miyazawa, M. Sato-Ilic, A Classification Method based on Ensemble Learning of Deep Learning and Multidimensional Scaling, 13th Knowledge-based and Intelligent Information & Engineering Systems - Intelligent Decision Technologies, 2021
- (8) K. Nitta, M. Sato-Ilic, Individual Differences Assessment Method based on Cluster Scale using a Data Reduction Method, 13th Knowledge-based and Intelligent Information & Engineering Systems - Intelligent Decision Technologies, 2021
- (9) Y. Toko, M. Sato-Ilic, A Hybrid Method of Multi-Class SVM and Classification Method based on Reliability Score for Autocoding of the Family Income and Expenditure Survey, 13th Knowledge-based and Intelligent Information & Engineering Systems - Intelligent Decision Technologies, 2021
- (10) Y. Toko, M. Sato-Ilic, Autocoding based on Multi-Class Support Vector Machine by Fuzzy c-means Method, The Annual Conference on the Use of R in Official Statistics, 2021
- (11) 益居 秀, 佐藤 美佳, ファジィ区間データに対する主成分分析, 第37回ファジィシステムシンポジウム, 2021
- (12) 床 裕佳子, 佐藤 美佳, Hybrid Autocoding Method for the Family Income and Expenditure Survey, 日本分類学会第40回大会, 2021
- (13) 藤本 聖, 佐藤 美佳, 区間組成データに対する重み付き回帰分析, 2021年度日本分類学会シンポジウム, 2021

◆ その他：

Best Paper Award (Third Prize) (準優秀論文賞) 受賞, M. Sato-Ilic, Indicator for Individuality of Subjects based on Similarity of Objects, CAS2021, Philadelphia, USA, 2021年6月24日

### 3. 学内運営

- ◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献：
  - ・理工学群理工学群長特別補佐
  - ・全学入試実施委員
  - ・全学ハラスメント防止対策委員会委員
  - ・全学ダイバーシティ・アクセシビリティ担当委員
  - ・システム情報系コンプライアンス推進委員会委員
  - ・システム情報工学研究群コンプライアンス推進委員会委員
  - ・システム情報工学研究群内部進学制度入学試験書面審査員
- ◆ 学位プログラム・学群・学類組織の業務への貢献：
  - ・リスク・レジリエンス工学学位プログラム予算委員会委員長
  - ・リスク・レジリエンス工学学位プログラム達成度評価チェック委員会委員長
  - ・リスク・レジリエンス工学学位プログラム研究企画委員会委員
  - ・リスク・レジリエンス工学学位プログラムダイバーシティ・アクセシビリティ担当教員
  - ・社会工学類入試実施委員会副委員長
  - ・社会工学類教学マネジメント委員会委員
  - ・社会工学類クラス担任（2年）
  - ・ビジネス科学研究群講義「知識・情報技術総論」（機械学習とその発展），2021

### 4. 学外の社会貢献

- ・独立行政法人 統計センター 特別参与
- ・公認会計士試験出題委員（内閣府任命・金融庁）
- ・第25期日本学術会議連携会員
- ・文部科学省統計エキスパート人材育成プロジェクト推進委員会委員

#### 海外業務：

- ・国際統計協会選出会員：International Statistical Institute Elected Member
- ・国際学術誌(英国出版)編集長：Editor in Chief of International Journal of Knowledge Engineering and Soft Data Paradigms, Published by Inderscience Publishers, UK
- ・国際統計協会女性委員会日本国代表：Country Representative for International Statistical Institute (ISI) Committee for Women in Statistics
- ・IEEE 計算知能学会ファジィシステム技術委員会副委員長：Vice Chair for Fuzzy Systems Technical Committee of the IEEE Computational Intelligence Society
- ・Special Session Chair (特別セッション委員長), the IEEE World Congress on Computational Intelligence (WCCI) 2024
- ・Panel Sessions Chair (パネルセッション委員長), FUZZ-IEEE2021

- Member of the 2022 IEEE CIS Fuzzy Systems Pioneer Award Sub-Committee
- Associate Editor of the IEEE Transaction on Fuzzy Systems (TFS), USA
- Regional Editor of International Journal on Intelligent Decision Technologies, IOS Press, Netherlands
- Associate Editor of Neurocomputing, Elsevier, Netherlands
- Associate Editor of Information Sciences, Elsevier, Netherlands
- Associate Editor of Japanese Journal of Statistics and Data Science, Japan
- Member of Editorial Board for Source Code for Biology and Medicine, BioMed Central, UK
- Member of Editorial Board for the International Journal of Hybrid Intelligent Systems, IOS press, Netherlands
- Member of Editorial Board for Journal of Advanced Computational Intelligence and Intelligent Informatics (JACIII)
- IEEE Senior Member
- Member of IEEE Women in Computational Intelligence Committee

その他:

- 日本分類学会幹事（渉外担当）, 評議員
- 種々の日本学術振興会科学研究費助成事業審査委員業務
- 学術論文の査読や国際会議座長等多数

氏名	大澤 義明	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市計画、地域科学、社会工学		

## 1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：都市解析／都市計画マスタープラン実習／都市計画事例講義および実習／微積分 I

大学院：都市地域解析学

◆ 指導学生数：

社会工学専攻（前期）10人／社会工学専攻（後期）4人／社会工学類 1人

## 2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

[1] 走行税課金による道路インフラ維持管理－EV化と車両認証のデジタル時代を迎えて－。挑戦的研究(開拓)，研究代表者

[2] デジタル時代の施設配置の理論－自己完結，個人情報保護，民主的決定による非効率性－。基盤研究B，研究代表者

[3] 空間移動・輸送ルート設計の最適戦略に関する理論・応用研究。科研費・基盤研究(B)，研究分担者

[4] モビリティイノベーションの社会応用と未来社会工学研究(トヨタ自動車株式会社)，研究分担者

[5] 相続工学に関する共同研究(株式会社LeLien)，共同研究，研究代表者

[6] デジタル・ガバメント/スマートシティ連携のフレームワークと教育プログラム研究(PWCコンサルティング合同会社)，共同研究，研究代表者

[7] 農業に関する課題解決に向けた共同研究事業(つくばみらい市)，受託事業，研究代表者

[8] 令和3年度官学連携事業(つくばみらい市)，受託事業，研究代表者

[9] 潮来市連携事業(潮来市)，受託事業，研究代表者

[10] 夕日景観の優位性及び資源化検証と関連する地域公共財に関する研究(天塩町)，受託研究，研究代表者

[11] 令和3年度坂城高等学校地域連携事業業務(坂城町)，受託事業，研究代表者

- [12]MaaSに関する研究(関東鉄道株式会社), 共同研究, 研究代表者
- [13]地方並行在来線のあり方検討に関する共同研究～長野県しなの鉄道を事例として～(しなの鉄道), 受託事業, 研究代表者
- [14]茨城版SDGsを推進する産学研究(関彰商事株式会社), 共同研究, 研究代表者
- [15]施設配置における民意と費用対効果との齟齬ーインフラ維持負担増とデジタル化を踏まえてー。(公益財団法人大林財団), 研究助成, 研究代表者

◆ 著書・論文等：

- [1]川口明子, 小林隆史, 大澤義明(2021):訪日観光客による消費の地方分散に関する研究ー個人観光時代に求められる方策の立案に向けてー, *計画行政*, 44(3), pp. 63-74.
- [2]西美佳, 石井儀光, 大澤義明(2021):樹林地俯瞰シークエンス景観の解析. *都市計画論文集*, 56(3), pp. 1137-1143.
- [3]鮑星宇, 小林隆史, 大澤義明(2021):電柱と山との重なりに着目した沿道シークエンス景観の数理的考察. *都市計画論文集*, 56(3), pp. 1184-1190.
- [4]根本裕都, 藤井さやか, 佐野雅人, 鈴木勉, 雨宮護, 大澤義明(2021):OVID-19による外出制限が人口流動に及ぼす影響. *都市計画論文集*, 56(3), pp. 1207-1214.
- [5]高瀬陸・小林隆史・大澤義明(2022):デジタル化が医療施設集約に及ぼす影響ー民意と社会的最適との齟齬に着目してー. *応用地域学研究*, 25, pp. 15-26.

◆ 学会発表等：

- [1]幸坂麻琴, 小林隆史, 大澤義明(2021):トワイライト景観の地域性ー西天北地域の活性化を目指してー. *ホ°レーションズ°・リサーチ学会 2021年秋季研究発表会*, pp. 104-105.
- [2]田宮圭祐, 川辺怜, 鈴木勉, 大澤義明(2021):平成の大合併で消滅した旧自治体隣接関係. *ホ°レーションズ°・リサーチ学会 2021年秋季研究発表会*, pp. 100-101.
- [3]泉谷晃人, 石井儀光, 大澤義明(2021):介護の労働生産性の地域間比較. *日本計画行政学会第44回全国大会*, pp. 63-66.
- [4]岩政大樹, 櫻井一宏, 大澤義明(2021):半島化する離島での移住に関する研究ー周防大島を対象にー. *日本計画行政学会第44回全国大会*, pp. 93-96
- [5]西村詩央里, 鈴木勉, 大澤義明(2022):キャンパスバスのダイヤ改正が利用者へ与える影響の予測. *ホ°レーションズ°・リサーチ学会 2022年春季研究発表会*, pp. 154-155.
- [6]一井直人, 大澤義明(2022):行政区域内々率に着目した茨城鹿行地域人流分析. *ホ°レーションズ°・リサーチ学会 2022年春季研究発表会*, pp. 174-175
- [7]任伊哈, 小林隆史, 大澤義明(2022):山容借景の作庭条件の理論化と実証. *ホ°レーションズ°・リサーチ学会 2022年春季研究発表会*, pp. 188-189.
- [8]幸坂麻琴, 松原千波, 大澤義明(2022):オロロンルート公共温泉施設はなぜ供給過剰になるのか. *ホ°レーションズ°・リサーチ学会 2022年春季研究発表会*, pp. 190-191

[9]岩政大樹, 櫻井一宏, 川辺怜, 大澤義明 (2022) : 離島の半島化と移住 -周防大島町を中心に-.ホ°レーションズ°・リサーチ学会 2022 年春季研究発表会, pp. 192-. 193

◆ その他 :

[1]第20回社工都市計画同窓会賞・修士論文最優秀賞 : 幸坂麻琴, 指導教員 : 大澤義明 (2022/2/19)

[2]第20回社工都市計画同窓会賞・卒業論文最優秀賞 : 阿部くらん, 指導教員 : 大澤義明 (2022/2/19)

[3]2021年度筑波大学校友会賞 : 阿部くらん, 指導教員 : 大澤義明 (2022/3/25)

### 3. 学内運営

- ◆ 学位プログラム等組織の業務への貢献 (委員会等) :  
社会学関連就職委員会委員長

### 4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動 :

[1]日本都市計画学会・会長アドバイザー (日本都市計画学会)

◆ 自治体等 :

[1]県立カシマサッカースタジアム周辺渋滞対策協議会・会長 (茨城県)

[2]筑波山周辺渋滞対策協議会・会長 (茨城県)

[3]筑波研究学園都市における街路樹の維持・再生に係る有識者会議・委員長(茨城県)

[4]つくば市建築審査会・会長 (つくば市)

[5]つくば市ホテル等建築建築審議会・会長 (つくば市)

[6]水戸市都市景観審議会・会長 (水戸市)

[7]水戸市都市景観専門委員会・委員 (水戸市)

[8]常総市立地適正化計画策定検討会議・委員長 (常総市)

[9]鹿嶋市総合計画審議会・会長(鹿嶋市)

[10]鹿嶋市洋上風力発電事業推進ビジョン策定委員会・委員長 (鹿嶋市)

[11]つくばみらい市総合計画審議会・会長(つくばみらい市)

[12]ひたちなか市スポーツ推進審議会・委員長(ひたちなか市)

[13]潮来市まち・ひと・しごと創生有識者会議・委員長 (潮来市)

[14]潮来市日本一の水路のまち基本計画策定協議委員会・会長(潮来市)

[15]茗溪会・理事 (一般社団法人茗溪会)

[16]筑波学都資金財団評議委員会・理事 (一般社団法人筑波学都資金財団)

[17]中川育英会・評議員 (公益財団法人中川育英会)

[18]茨城県立土浦第一高等学校・評議員(茨城県教育委員会)

[19]学校法人茗溪学園・評議員(学校法人茗溪学園)

[20]つちうら MaaS(土浦市新モビリティサービス)推進協議会・委員(関東鉄道株式会社)

◆ 高大連携まちづくりワークショップ事業：

[1]坂城高等学校 (2021年7月)

[2]天塩高等学校 (2021年11月)

[3]つくば秀英高等学校 (2021年11月)

[4]潮来高等学校 (2022年1月)



氏名	岡本直久	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	サービス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	交通、観光学、社会基盤、プロジェクト評価、港湾・物流		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
  - 学類 交通計画, 都市計画マスタープラン実習
  - 大学院 観光の科学[サービス工学学位プログラム]
  - 美しい国土づくりへの挑戦 (I) / 同 (II) [システム情報研究群共通科目]
- ◆ 指導学生数：
  - 社会工学類 3人
  - 大学院 社会工学学位プログラム 3人

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
  - ・ 科学研究費・一般研究(C)：意識分析にもとづく国外旅行意向の国際比較研究（研究代表者）
- ◆ 著書・論文等：
  - ・ Zhongdi PEI, Naohisa OKAMOTO, Kota TANAKA: A Study of Recovery from Shocks Lead by Crisis 1 in the Field of Tourism; Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, vol. 13, 2021-09
  - ・ Yoshinobu KATAGATA, Haruo ISHIDA, Naohisa OKAMOTO: Examination of A Risk Management Through Technical Transitions in The Railway ATS System; Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol.13, 2021-09
- ◆ 学会発表等： 上記2編
- ◆ その他：なし

## 3. 学内運営

- ◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献：

システム情報工学研究群 入試実施委員会 委員

日越大学公共政策プログラム運営委員会 委員

◆ 学位プログラム組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学学位プログラム／サービス工学学位プログラム入試実施委員会委員長

#### 4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

- ・ 国土交通省関東地方整備局コンプライアンス・アドバイザー委員会 委員
- ・ 国土交通省関東地方整備局茨城県移動性・安全性向上委員会 委員長
- ・ 土木研究所契約監視委員会 委員
- ・ 茨城県公共交通活性化会議 代表幹事
- ・ 茨城県茨城県地方港湾審議会 副会長
- ・ 茨城県土木部公共事業等事前評価委員会 委員
- ・ 土浦市公共交通活性化協議会 会長
- ・ 牛久市地域公共交通会議 副会長
- ・ 牛久市総合戦略推進会議 委員
- ・ 牛久市行政改革推進委員会 副会長
- ・ 牛久市都市計画審議会 会長
- ・ つくば市第3次観光基本計画策定委員会 委員長
- ・ つくば市公共交通活性化協議会 委員長
- ・ つくばモビリティロボット実証実験推進協議会 アドバイザー兼監事
- ・ 下妻市地域公共交通会議 副会長
- ・ 取手市都市計画審議会 委員
- ・ 潮来市地域公共交通活性化協議会 委員
- ・ 佐野市専門委員
- ・ 独立行政法人国際協力機構ベトナム事務所・ベトナム持続可能な運輸交通開発戦略に係る情報収集・確認調査にかかる有識者委員会 委員長
- ・ 東日本高速道路株式会社 茨城地域技術懇談会 委員
- ・ 茨城新聞 論説委員

氏名	川島 宏一	職名	教授
学位プログラム(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
学位プログラム(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	オープンデータ、自治体情報戦略、都市開発戦略		

## 1. 教育

### ◆ 担当授業科目:

社会工学類: 専門英語(都市計画)、都市と地域の経営行政論、現代まちづくりの理論と実践、都市計画演習、

サービス工学学位プログラム: 公共インフラ設計

サービス工学ファシリテーター育成プログラム

社会工学学位プログラム: モビリティ・イノベーションの社会応用

社会工学ファシリテーター育成プログラム

### ◆ 指導学生数:

社会工学類 3名

地球規模課題学位プログラム 2名

社会工学専攻社会工学学位プログラム 5名(うち社会人 1名)

社会工学専攻博士後期課程(社会人)2名

## 2. 研究

### ◆ 当該年度の研究活動概要:

- ・ 科学研究費 基盤(B)「豪雨災害から避難弱者を守る共助的な避難行動計画づくりシステムに関する学際的研究」(代表)
- ・ 科学研究費 基盤(B)「水害時の住民避難をより安全にする広域避難対策の社会的実装を図る計画技術の構築」(分担)
- ・ 科学研究費 基盤(C)「警察の情報発信における「信頼」—行動科学・倫理学・政策科学からの学際的問題解」(分担)
- ・ 科学研究費 基盤(C)「オープンデータを踏まえた市民セクター主体の ICT 協働ま

ちづくりに関する研究」(分担)

- ・ トヨタ共同研究「地方での生活空間データ連携」 (分担)
- ・ 内閣府 モデル事業(常総市・つくばみらい市)(分担)
- ・

◆ 著書・論文等:

(査読付学術雑誌掲載論文)

- ・ 野村敦子、川島 宏一、有田智一「オープンデータ施策に総合的に取り組む地方自治体の動因に関する研究」、自治体学会誌、35(2)、51-57、2022-03
- ・ 野村敦子、川島 宏一、有田智一「地方自治体のオープンデータ施策の実態と取り組み内容に影響を与える要因に関する研究」、情報通信学会誌、39(2)、71-82、2021
- ・ 藤田修平、川島宏一、有田智一、岡本正「避難行動要支援者名簿活用に向けた制度設計・運用プロセスにおける課題に関する研究」、地域安全学会論文集 No.39(0)、145-153、2021-11

(ガイドブック)

- ・ 川島宏一他(編集協力)「地方創生オープンデータ利活用サイクル構築ガイドブック」内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局、内閣府地方創生推進室、2021年6月

◆ 学会発表:

- ・ 川島宏一(討論者)大前裕輝(名古屋大学情報学部)、浦田真由、遠藤守、安田孝美(名古屋大学)「都市 OS 実装に向けた検討と課題—高山市役所窓口における混雑状況可視化の実践—」、情報通信学会春季学会個人研究発表会、オンライン、2021.6.26

◆ その他:

講演等

- ・ 川島宏一「データで人を繋げるまちづくり」、香川大学 FD 講習会、香川大学、オンライン、2022.3.14
- ・ 川島宏一「2刀流で独特なレシピを現場と共に作り共有を」、地域アドバイザー春の全国会議 2021、オンライン、2022.3.11
- ・ 川島宏一「地域における DX 推進と地方創生」地方創生カレッジ、内閣府、オンライン、2022.2.18

- ・ 川島宏一「助け合いのまち 常総 を目指して」、個別避難計画作成リーダー研修会、常総市、2021.11.27
- ・ 川島宏一「助け合いのまち 常総・つくばみらい を目指して」、個別避難計画作成リーダー研修会、常総市・つくばみらい市、2021.10.03
- ・ 川島宏一「自治体における地域情報化施策」、2021 情報通信月間講演会総務省 沖縄総合通信事務所、オンライン、2021.6.24
- ・ 川島宏一「データの価値を生かしたこれからの行政のあり方」、千葉市職員向け 行政改革講演、千葉市、オンライン、2021.6.14
- ・ 川島宏一(討論者)「スマートシティの成否を握るオープンデータ・エコシステム」、オープンデータ関連パネルセッション、G20 Global Smart Cities Alliance、2021.4.8

#### 寄稿等

- ・ 川島宏一「ラーニング・シティ(学び合う都市)～IoT時代の都市コンセプト～」、ほくとう総研情報誌 NETT、No.112、1-1、2021-04

### 3. 学内運営

- ◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献：
  - ・ 社会工学類データサイエンス委員会事務局長
  - ・ 社会工学類オンライン担当教員
  - ・ BPGI 入試委員会委員
  - ・ BPGI カリキュラム委員会委員
  - ・ BPGI 定例会委員
  - ・ BPGI 教育会議委員
  - ・ BPGI 運営委員会委員委員
- ◆ 学位プログラム等組織の業務への貢献(委員会等)：
  - ・ 日越大学公共政策プログラム(修士課程)教育プログラム副リーダー
  - ・ 日越大学 公共政策プログラム運営委員会(委員)
  - ・

### 4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動  
(学外組織からの委嘱委員等)
  - ・ 内閣府 地方創生推進交付金 Society5.0 タイプモデル性審査委員会

- ・ 経済産業省 地方創生推進交付金 Society5.0 タイプモデル性審査委員会 委員
- ・ 経済産業省 地域 DX 推進ラボの在り方等に関する検討会/座長
- ・ 経済産業省 地域デジタル人材育成・確保推進事業(現場研修プログラム 候補の案件組成事業)の公募における事業者選定委員会/審査委員長
- ・ 内閣府 スマートシティ関連事業に係る合同審査会/委員
- ・ 経済産業省 ふるさと Co-Lead プログラム地域選定委員会/委員
- ・ 外務省 旅券行政問題研究会 委員
- ・ 内閣府 スマートシティ関連事業合同審査会/未来技術社会実装事業主査 委員
- ・ 一般社団法人日本プロジェクト産業協議会(JAPIC) JAPIC 広域地域経営委員会 委員
- ・ 日立市 日立市デジタル化推進委員会 副委員長
- ・ かすみがうら市 かすみがうら市総合計画審議会 座長
- ・ 内閣府 PRISM 建設インフラ データ連携検討会/委員
- ・ 土浦市 土浦市行財政改革推進委員会/委員長
- ・ 総務省 令和3年度 関東総合通信局 地域情報化アドバイザー会議/座長
- ・ つくば市 データ活用意見交換会/モデレーター
- ・ 千葉市 千葉市行政改革推進委員会/副座長
- ・ 東京都 民間空き家対策東京モデル支援事業に係る事業者選定委員会(TOKYO Data Highway 等を活用した先端技術を駆使した空き家対策)/委員
- ・ 内閣府地方創生推進事務局 2020年度地方創生推進交付金 第2回 Society5.0 タイプのモデル性に関する有識者審査会/座長
- ・ 内閣府官民研究開発投資拡大プログラム(PRISM)「革新的建設・インフラ維持管理技術/革新的防災・減災技術」研究開発推進のための実態調査」データ連携検討 委員
- ・ 潮来市 潮来市都市計画審議会/会長
- ・ 総務省 ローカル5G地域課題実証評価会 委員
- ・ つくば市 つくば Society 5.0 社会実装トライアル支援事業審査委員会/委員
- ・ 内閣官房オープンデータ伝道師
- ・ 水戸市 景観審議会委員
- ・ 総務省 テレワーク先駆者百選・同総務大臣賞審査委員会 委員
- ・ 総務省 地域情報化アドバイザー(アドバイザーリーダー)
- ・ 総務省 総務省地域情報化アドバイザー幹事会 座長
- ・ 経済産業省 地方版 IoT 推進ラボ審査委員会 委員

- ・ 大阪市 特別参与
- ・ 水戸市 都市計画審議会 会長
- ・ つくば市 顧問
- ・ つくば市 情報公開・個人情報保護審査会 委員
- ・ かすみがうら市 まち・ひと・しごと創生有識者会議 委員長
- ・ オープンガバナンスチャレンジ実行委員会 委員

(以上)

氏名	繁野麻衣子	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	最適化, ネットワーク理論		

## 1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 数理最適化法／数理工学モデル化実習／計算機科学／情報リテラシー（演習）／社会と最適化／経営工学概論

大学院 応用最適化／離散数理/地域未来創生概論

◆ 指導学生数：

社会工学類 8人

社会工学学位プログラム(後期) 4人

社会工学学位プログラム(前期) 15人 サービス工学学位プログラム 6人

## 2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究 (B) 「大規模データ時代のネットワーク最適化に対する実用に向けた説明力のある手法開発」(代表)

科学研究費 基盤研究 (B) 「錐最適化技術の実社会における利活用を加速させる基礎理論の整備と深化」(分担)

科学研究費 基盤研究 (B) 「新しい肺移植制度の構築と評価：ドナー交換移植の可能性」(分担)

科学研究費 基盤研究 (B) 「デジタル時代の施設配置の理論－自己完結, 個人情報保護, 民主的決定による非効率性－」(分担)

共同研究(経費無し) 産業総合研究所 「リソース最適化に関する研究」

共同研究 松田電機工業所 「中小企業における Big Data 解析の方法論の確立」

共同研究 株式会社 READ 「生産管理自動化及び DigitalTransformation 推進」

共同研究 株式会社サイゼリヤ 「外食産業における DX に向けた取り組み」

◆ 著書・論文等：

Wu Qian, Wang Jiading, Shigeno Maiko, A novel channel-based model for the problem of routing, space, and spectrum assignment, Optical Switching and Networking, 43, 100636, 2022



Wang Jiading, Shigeno Maiko, Wu Qian, ILP models and improved methods for the problem of routing and spectrum allocation, *Optical Switching and Networking*, 45, 100675, 2022

臼井 颯汰, 栗野 盛光, 大藤 剛宏, 繁野 麻衣子, 交換移植制度におけるドミナントマッチングの適用可能性, *日本オペレーションズ・リサーチ学会和文論文誌*, 65, 1-21, 2022

◆ 学会発表等 :

Hiroto Ueda, Yunfei Chen, Ken Sato, Maiko Shigeno, Ushio Sumita, A comparison of integer programming based models for parallel machine batch scheduling, *International Symposium on Scheduling 2021*

Fei Xue, Haijunfu Ma, Maiko Shigeno, Minimizing carry-over effect values under restricted breaks for round-robin tournament, *International Symposium on Scheduling 2021*

Yiliu Tan, Qian Wu, Yoshiki Nakano, Jiading Wang, Maiko Shigeno, Network design models with partial protection schemes against multiple failures under optical-channel data unit constraints, *IEEE 6th Optoelectronics Global Conference*, 2021

Yuxuan Yang, Maiko Shigeno, Analysis of changes in the daily smartphone usage during the COVID-19 pandemic period, *The 22nd Conference of the International Federation of Operational Research Societies*, 2021

中野 祥旗, 繁野 麻衣子, 光ネットワークにおける光データユニットに対する 耐障害モデルの比較, *スケジューリング・シンポジウム 2021*

安田 拓未, 繁野 麻衣子, 松田 悠揮, 河村 繁, 宮島 拓也, 高田 陽平, プラスチック製部品製造工場における成形工程の生産スケジューリングモデル化と実応用, *スケジューリング・シンポジウム 2021*

王家鼎, 繁野 麻衣子, 呉 謙, ILP models for the problem of routing and spectrum allocation in EONs, *日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会*, 2021

橋上 英宣, 小林 凌太郎, 中野 祥旗, LI YU, 繁野 麻衣子, 通勤カープールの広島県内の小規模実証実験, *サービス学会国内大会*, 2022

小島 康至, 中野 祥旗, 大野 康明, 陳 星言, 繁野 麻衣子, 住田 潮, バイアスを持つサンプル標本からスマートフォンアプリケーション市場全体を捉えるための新たな方法論の開発, 第 137 回数理解モデル化と問題解決研究会, 2022

李 煜, 中野 祥旗, 小林 凌太郎, 橋上 英宜, 繁野 麻衣子, 安全性を重視した通勤カープールモデルの提案と評価, 第 137 回数理解モデル化と問題解決研究会, 2022

馬 海俊夫, 薛 菲, 繁野 麻衣子, ホーム・アウェイ方式の総当たり戦における移動回数を考慮した公平なスケジュール作成, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会, 2022

上田 寛人, 繁野 麻衣子, バッチサイズをもつ並列機械スケジューリングに対するヒューリスティックアルゴリズム, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会, 2022

大木 聖太, 安田 拓未, 橋爪 朝子, 繁野 麻衣子, 資源制約を考慮したプラスチック成形工程の生産スケジューリング問題に対するメタヒューリスティック, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会, 2022

有澤 瑠利子, 繁野 麻衣子, 外国人居住者向け Web サイトのアクセスログ解析による主要な行政サービス情報の特定, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会, 2022

- ◆ その他：  
なし

### 3. 学内運営

- ◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献：  
全学学群教育課程委員
- ◆ 学位プログラム等組織の業務への貢献（委員会等）：  
大学院 カリキュラム委員・地域未来創生教育コース担当／学類 カリキュラム委員・  
教学マネジメント委員・マッチング委員

### 4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：  
数理モデル高大連携  
スケジューリング学会理事

氏名	鈴木 勉	職名	教授
社会工学学位プログラム (博士後期課程)	リスク・レジリエンス工学学位プログラム (専任), 社会工学学位プログラム (分担)		
社会工学学位プログラム (博士前期課程)	リスク・レジリエンス工学学位プログラム (専任), 社会工学学位プログラム (分担), サービス工学学位プログラム (分担)		
担当学類	社会工学類, 地球規模課題学位プログラム (学士) (分担)		
研究分野	立地科学, 都市空間構造, 持続可能型都市形態, 都市リスク分析, 地理情報の都市計画への応用		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目 :
  - 理工学群 数学リテラシー 1
  - 社会工学類 線形代数 1 / 都市数理 / 都市計画演習 / 都市解析
  - 地球規模課題 Seminars on Global Issues A-I/A-II
  - 学位 P (学士) Practical Training on Global Issues A-I/A-II
  - 博士前期課程 リスク・レジリエンス工学概論 / 都市・地域解析学 / 地域データ解析 / レジリエント都市計画演習
- ◆ 指導学生数 :
  - 社会工学類 0 人 / リスク・レジリエンス工学学位 P 5 人 / リスク工学専攻 2 人

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要 :
  - 日本学術振興会科学研究費 (基盤研究(B)) 「空間移動・輸送ルート設計の最適戦略に関する理論・応用研究」 (代表)
  - 日本学術振興会科学研究費 (基盤研究(B)) 「水害時の住民避難をより安全にする広域避難対策の社会的実装を図る計画技術の構築」 (分担)
  - 日本学術振興会科学研究費 (基盤研究(B)) 「デジタル時代の施設配置の理論—自己完結, 個人情報保護, 民主的決定による非効率性—」 (分担)
  - 東京大学空間情報科学研究センター共同研究 「都市の拠点集約と拠点間ネットワークの空間分析」
  - トヨタ自動車共同研究 「次世代社会システムとモビリティの在り方研究」 (分担)
  - 関東鉄道株式会社 共同研究 「つちうら MaaS 実証実験に関する研究」 (分担)
- ◆ 著書・論文等 :
  - 定梶圭・巖先鏞・鈴木勉: 施設集積に基づいた鉄道駅の類型化と拠点性に関する研究, 都市計画論文集, Vol.56, No.2, pp.397-402, 2021.

根本裕都・藤井さやか・佐野雅人・鈴木勉・雨宮護・大澤義明：COVID-19による外出制限が人口流動に及ぼす影響，都市計画論文集，Vol.56, No.3, pp.1207-1214, 2021.

Lan Yang, Sunyong Eom and Tsutomu Suzuki: Measuring railway network performance considering accessibility levels in cities worldwide, Journal of Transport Geography, Vol.96, 2021. DOI: 10.1016/j.jtrangeo.2021.103211

◆ 学会発表等：

Lan Yang, Sunyong Eom and Tsutomu Suzuki: Measuring Transit-Oriented Development Degree Based on the Railway Transit Network Performance Considering Population and Facility Distribution, presented at 13th World Congress of the Regional Science Association International, May 25-28, 2021. (online)

Yumeng Huang, Sunyong Eom and Tsutomu Suzuki: Selecting jogging routes considering joggers' preference: Evidence from Downtown Tokyo, presented at International Conference on Transport & Health 2021, June 14-30, 2021. (online)

朱黙儒・嚴先鏞・鈴木勉：生活習慣病に着目した通院アクセシビリティの評価，都市のORワークショップサマーセミナー2021，筑波大学，2021年8月6日（オンライン）。

Bingying Lu・佐野雅人・鈴木勉・嚴先鏞：Simulating traffic congestion around the JAXA Tsukuba Space Center, 都市のORワークショップサマーセミナー2021，筑波大学，2021年8月6日（オンライン）。

榎本俊祐・鈴木勉・嚴先鏞：時間価値とコスト単価比に着目した拠点と路線配置の同時最適化，都市のORワークショップサマーセミナー2021，筑波大学，2021年8月6日（オンライン）。

Bingying Lu, Sunyong Eom and Tsutomu Suzuki: Evacuees Flow Management Simulation in the Underground Shopping Streets, presented at the 2021 International Conference of Asia-Pacific Planning Societies (ICAPPS 2021), Aug. 21, 2021.

田宮圭祐・川辺怜・鈴木勉・大澤義明：平成の大合併で消滅した旧自治体隣接関係，日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集，2021.

榎本俊祐・嚴先鏞・鈴木勉：社会コストに着目した拠点と路線配置の同時最適化に関する研究，日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集，2021.

一井直人・鈴木勉・大澤義明：受益者負担原則による道路管理-携帯電話人口統計を用いた人口統計の時空間分析-，地理情報システム学会講演論文集，2021.

末松菜々子・嚴先鏞・鈴木勉：センサ付き計測自転車による自転車走行空間の評価，地理情報システム学会講演論文集，2021.（ポスター）

佐野雅人・嚴先鏞・鈴木勉：都市計画・行政サービス広域圏の分布から見た圏域の空間単位，地理情報システム学会講演論文集，2021.（ポスター）

榎本俊祐・嚴先鏞・鈴木勉：社会コストを最小化する拠点と公共交通路線の同時配置，地理情報システム学会講演論文集，2021.

佐野雅人・巖先鏞・鈴木勉：広域サービス圏の分布から見た圏域の空間単位, 2021年度 東京大学空間情報科学研究センター全国共同利用研究発表大会(CSIS DAYS 2021), 2021.

川辺怜・田宮圭祐・鈴木勉・大澤義明：平成の大合併による市町村隣接関係の変化, 第35回応用地域学会研究発表大会, 2021.

一井直人・佐野雅人・鈴木勉・大澤義明：携帯電話人流データによる道路利用者と管理者の関係, 第35回応用地域学会研究発表大会, 2021.

西村詩央里・鈴木勉・大澤義明：キャンパスバスのダイヤ改正が利用者へ与える影響の予測, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集, 2022.

◆ その他：

日本都市計画学会 2020 年年間優秀論文賞（共同）

第30回地理情報システム学会研究発表大会ポスターセッション賞（共同, 2件）

### 3. 学内運営

◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献：

社会工学類長

理工学群運営委員会委員

全学学群教育会議委員

地球規模課題学位プログラム（学士）運営委員会委員

地球規模課題学位プログラム（学士）カリキュラム委員会委員

◆ 学位プログラム等組織の業務への貢献（委員会等）：

リスク・レジリエンス工学学位プログラム東京キャンパス委員会委員

### 4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

応用地域学会応用地域学研究編集委員

日本都市計画学会学術委員会委員

茨城県都市間高速バス増便実証実験協議会会長

茨城県西地域公共交通確保対策協議会委員長

常総市公共交通活性化協議会会長

神栖市地域公共交通会議委員

筑西市地域公共交通会議委員

板東市地域公共交通会議委員

八千代町地域公共交通会議委員

鉾田市地域公共交通会議委員

つちうら MaaS（土浦市新モビリティサービス）推進協議会委員

氏名	谷口綾子	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	リスク・レジリエンス工学 社会工学	専任 兼任	
学位プログラム (博士前期課程)	リスク・レジリエンス工学 社会工学	専任 兼任	
担当学類	社会工学類		
研究分野	都市交通計画, 態度行動変容研究, リスク・コミュニケーション		

## 1. 教育

◆ 担当授業科目：

【学類】都市計画演習, 都市計画インターンシップ, 交通計画, 都市計画入門, 情報リテラシー演習, BPGI 地球規模課題発見, TSUKUBA ポスト・コロナ学

【大学院前期課程】リスク・コミュニケーション, レジリエント都市計画実習, リスク/レジリエンス工学グループ PBL 演習, リスク工学特別演習, リスク工学基礎, リスクマネジメント序論,

◆ 指導学生数：リスク・レジリエンス学位 P4 名, 社会工学学位 P4 名, 社会工学類 3 名

## 2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 科学研究費(挑戦的開拓)(代表) 「クルマ」と「自動化するクルマ」に対する社会的受容の包括的理解に向けた学際研究
2. 科学研究費(基盤 B(代表)) ASEAN 諸国におけるモビリティ・マネジメントの実行可能性に関する実証分析
3. 科学技術振興機構 社会技術研究開発 RISTEX, 技術の倫理的・法制度的・社会的課題 (ELSI)への包括的実線研究開発プログラム, 「ELSI を踏まえた自動運転技術の現場に即した社会実装手法の構築」(分担代表)
4. 日本損害保険協会 自賠償運用益抛出事業研究助成金(代表) 「高齢運転者向け認知機能検査の負の効用とその緩和策の検討」
5. 交通事故総合分析センター(ITARDA), 茨城県警との共同研究 「茨城県における効果的な高齢運転者の交通事故低減方策に関する調査研究」

◆ 著書・論文等：

■ 査読付き原著論文

- (1) 宮谷台香純, 谷口綾子:自動運転システムの導入目的の変遷に関する新聞報道の質的分析, 土木学会論文集 D3(土木計画学), Vol.78(6), pp.II\_798-II\_811, 2022.  
[https://doi.org/10.2208/jscejipm.78.6\\_II\\_798](https://doi.org/10.2208/jscejipm.78.6_II_798)

- (2) 浅見知秀, 谷口綾子, 石田東生: 地方都市の路線バスにおけるサブスクリプション型運賃の導入プロセスと効果の実証分析, 土木学会論文集 F5, Vol.xx, No.xx, pp.xx-xx, 2022. 印刷中
- (3) 溝口哲平, 谷口綾子: 心理要因と都市規模が「中心市街地訪問による精神的充足への期待」に及ぼす影響の探索的検討, 都市計画論文集, Vol. 57, No.1, pp.7-19, 2022. <https://doi.org/10.11361/journalcpj.57.7>
- (4) 河北拓人, 根本美里, 谷口綾子, 小菅英恵: 運転頻度等問診票を用いた高齢ドライバーの事故ヒヤリ体験の規定因に関する研究, 土木学会論文集 D3(土木計画学), Vol.78, No.6, pp. II\_252-II\_261, 2022. [https://doi.org/10.2208/jscejpm.78.6\\_II\\_252](https://doi.org/10.2208/jscejpm.78.6_II_252).
- (5) 中川権人, 谷口綾子: 互助型輸送サービスの導入プロセスと実務的課題, 土木学会論文集 D3(土木計画学), Vol.78, No.6, 78 巻, 6 号, pp. II\_19-II\_34, 2022. [https://doi.org/10.2208/jscejpm.78.6\\_II\\_19](https://doi.org/10.2208/jscejpm.78.6_II_19).
- (6) 河合晃太郎, 谷口綾子, 小西信義, 宮川愛由, 佐藤真人: 地元店舗での買い物促進に向けたコミュニケーション 施策の効果検証—北海道豊頃町の町民・店舗主を対象として—, 土木学会論文集 D3(土木計画学), Vol.78, No.6, pp. II\_522-II\_534, 2022. [https://doi.org/10.2208/jscejpm.78.6\\_II\\_522](https://doi.org/10.2208/jscejpm.78.6_II_522).
- (7) 浅見知秀, 谷口綾子, 片桐暁, 斎藤綾, 上原泰典, 内田直人, 全市民対象のMM ツール開発とその効果-ブランディング及びコストダウンのプロセスに着目して-, 土木学会論文集 D3(土木計画学), Vol.78, No.6, pp. II\_1-II\_18, 2022. [https://doi.org/10.2208/jscejpm.78.6\\_II\\_1](https://doi.org/10.2208/jscejpm.78.6_II_1).
- (8) 小菅英恵, 谷口綾子, 佐々木邦明: 地域高齢者の実車評価による不安全な運転行動の特徴, 土木学会論文集 DX3(土木計画学), 第 39 巻(77 巻) No.5(土木計画学研究・論文集 39 巻), pp.I\_603-I\_613, 2022. [https://doi.org/10.2208/jscejpm.77.5\\_I\\_603](https://doi.org/10.2208/jscejpm.77.5_I_603)
- (9) 谷口綾子, 根本美里, 渡邊芳樹: 高齢ドライバー向け認知機能検査結果通知書のメタ・メッセージ効果緩和策の提案, 交通工学論文集, 第 8 巻第 1 号(2022 年 1 月発行), pp. 59-67, 2022. DOI: [https://doi.org/10.14954/jste.8.1\\_59](https://doi.org/10.14954/jste.8.1_59)
- (10) Azami, T., Nakagawa, K., Taniguchi, A. (2021) Effect of low-cost policy measures to promote public transport use: A Case study of Oyama City, Japan, Sustainability, Vol.13, 6160. DOI: <https://doi.org/10.3390/su13116160>.
- (11) 石橋拓海, 谷口綾子: 政府による COVID-19 対策への新聞報道と首都圏市民の満足度, 実践政策学(Policy and Practice Studies), 第 7 巻, 第 1 号, pp.49-61, 2021.

#### ■査読付きプロシーディングス

- (1) Nemoto, M., Taniguchi, A., (2021) Qualitative analysis of newspaper of traffic safety for older drivers, Proceedings of 6th International Conference on Transport and Health, held online (virtual), June 2021.

- (2) Ohmori, N., Taniguchi, A. and Dobashi, Y. (2021) Which Do You Like Going Out for Drinking or Drinking at Home? Investigating Relationships Between Drinking Activities and Subjective Well-Being, Proceedings of 6th International Conference on Transport and Health, held online (virtual), June 2021.
- (3) Daisuke Inagaki<sup>1</sup>, Supawich Korsakul, et al., Shinji Nakahara, Ayako Taniguchi (計 30 名の連名)(2021) Online Workshop between Japan and Thailand to Change Travel Behaviors in Thai University Campus, Proceedings of 6th International Conference on Transport and Health, held online (virtual), #2963, June 2021.
- (4) Fleischer, T., Schippl, J., Yamasaki, Y., Taniguchi, A. (2021) Social Acceptance of Automated Driving: Some Insights from Comparative Research in Japan and Germany, ITS World Congress 2021.

■ 著書 :

- (1) モビリティ・イノベーションの社会的受容 技術から人へ, 人から技術へ, 上出寛子編著, 2 章「自動運転システムの社会的受容」担当, コロナ社, 2022 年 4 月.  
ISBN:9784762831850
- (2) ポスト・コロナ学 — パンデミックと社会の変化・連続性、そして未来, 秋山肇編, 8 章「蔓延初期の日本・英国・ドイツ市民の行動変容」担当, 明石書店, 2022 年 4 月.  
ISBN 9784750353746

◆ 学会発表等 :

- (1) 後藤りえ, 谷口綾子 : 諸外国における電動キックボードの導入実態と社会的受容, 第 64 回土木計画学研究・講演集(CD-ROM), 2021.
- (2) 岩田剛弥, 谷口綾子, 中野公彦, 松山桃世 : 柏の葉市民を対象とした自動運転フォーラムの概要と参加者の行動変容, 第 64 回土木計画学研究・講演集(CD-ROM), 2021.
- (3) 溝口哲平, 谷口綾子 : 移動中の活動の主観的意味に着目した活動の価値に関する一考察 — 自動運転で移動の価値は変容するか? —, 第 64 回土木計画学研究・講演集(CD-ROM), 2021.
- (4) 渡辺健太郎, 谷口綾子, 中川由賀 : 自動運転車の事故回避を企図した交通ルール違反は許されるのか? — 人々の評価とその理由に着目した事例研究, 第 64 回土木計画学研究・講演集(CD-ROM), 2021.
- (5) 宮谷台香純, 谷口綾子 : 自動運転車は歩行者の交通ルール違反を想定すべきか? — 信頼の原則に対する大学生の評価とその理由, 第 64 回土木計画学研究・講演集(CD-ROM), 2021.
- (6) 谷口綾子, 石橋拓海 : 政府の COVID-19 対策に対する首都圏住民の評価, 第 64 回土木計画学研究・講演集(CD-ROM), 2021.



- (7) 石橋拓海, 谷口綾子, Giancarlo Parady, 高見淳史: COVID-19による首都圏市民の行動変容と心理状態の時系列変化—2020年4月~2021年7月の5時点調査より—, 第64回土木計画学研究・講演集(CD-ROM), 2021.
- (8) 奥井良子, 中原慎二, 白水真理子, 間瀬由紀, 安藤里恵, 谷口綾子: 血糖測定フェアへの参加が身体活動および健康関連 QOL に与える影響, 駒沢女子大学紀要, 2021.
- (9) 石橋拓海, 谷口綾子, Giancarlo Parady, 高見淳史: COVID-19 蔓延初期の行動変容と要因の日英独三カ国比較, 第63回土木計画学研究・講演集(CD-ROM), 2021.
- (10) 浅見知秀, 谷口綾子: バス定期券の大幅値下・市内全線乗り放題化が運行収入・利用者にも与えた影響分析, 第63回土木計画学研究・講演集(CD-ROM), 2021.
- (11) 河合晃太郎, 谷口綾子, 小西信義, 宮川愛由, 佐藤真人: 地元店舗での買い物促進に向けたコミュニケーション施策の効果検証-北海道豊頃町の町民・店舗主を対象として-, 第63回土木計画学研究・講演集(CD-ROM), 2021.
- (12) 前川凜, 樋崎恵一, 吉田悠乃, 林佑香, 戸井田風音, 小濱幸平, 渡辺健太郎, 谷口綾子: COVID-19 感染者数・リスク認知・不安度の関係—高速道路と鉄道に着目して—, 第63回土木計画学研究・講演集(CD-ROM), 2021.
- (13) 河北拓人, 谷口綾子: カーシェアリングの普及と金銭的自己負担に注目したクルマ利用意向の規定因の研究, 第63回土木計画学研究・講演集(CD-ROM), 2021.
- (14) 中川権人, 谷口綾子: 互助型輸送サービスの導入プロセスに関する事例研究, 第63回土木計画学研究・講演集(CD-ROM), 2021.

◆ その他:(論説)

- (1) 日本都市計画学会 70 周年記念鼎談 時代に合わせた「公共」を追求, 建設通信新聞, 2021年11月4日 (東京大 出口敦先生, 千葉大 秋田典子先生と3名の鼎談記事)
- (2) 谷口綾子: 自動運転システムの社会的受容—新聞報道, 導入目的, NIMBY, 自動車交通研究 (最近の調査研究から), 日本交通政策研究会, pp.20-21, 2021.
- (3) 全国都市問題会議 文献集 「再考: コミュニケーションとマネジメントの重要性」 寄稿 2021年8月

### 3. 学内運営

◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献:

全学リスク管理室 新型コロナウイルス感染症リスク対応チーム

社会工学類入試実施委員長 / 筑波大学交通安全会 理事

つくば 3E フォーラム 都市構造タスクフォース座長

つくばエコシティ推進グループ: キャンパス交通システムの利用促進

筑波大学カーシェアリングシステム「カーシェアつくば」の導入, マネジメントと利用促進

◆ 学位プログラム等組織の業務への貢献 (委員会等):

#### 4. 学外の社会貢献

##### ◆ 講演・パネルディスカッション

- (1) 交通エコモ財団 第45回EST創発セミナーin小山 特別講演 「モビリティ・マネジメントのココロ」, 2022年3月30日(水)
- (2) 千葉県庁 令和3年度千葉県JR線複線化等促進期成同盟及び常磐線輸送力整備・新線建設促進期成同盟 合同研修会 基調講演「モビリティ・マネジメントのココロと事例」 2022年3月16日(水)
- (3) JICA 集団研修 講師「Mobility Management」 11月, 12月, 1月, 2月の計4回
- (4) SIP-adus Breakout Workshop\_Impact Assessment: 話題提供 「How public opinion was changed by the world's first Autonomous Vehicle - caused pedestrian fatality」 2021年11月11日
- (5) SIP-adus Workshop2021 話題提供「Social acceptance of Autonomous Vehicles: A qualitative analysis of Japanese newspaper articles on AVs」 2021年11月9日
- (6) 国土交通省 国土交通大学校 道路計画(機能・活用) 講師「モビリティ・マネジメントの概要とポイント」 2021年10月25日
- (7) 東京大学 全学自由研究ゼミナール: 新モビリティから考えるスマートシティ〜技術・政策・ビジネスの実践へ向けて〜 話題提供「自動運転システムの社会的受容: NIMBY/新聞報道/AVsを巡る論点の経年変化」 2021年10月15日
- (8) 運輸総合研究所 第76回運輸政策セミナーモビリティ・マネジメント×MaaS: 最強タグで人々の行動が変わる 講演「モビリティ・マネジメントのココロ」, 基調講演, パネルディスカッション モデレーター 2021年8月31日
- (9) 産業技術総合研究所ヒューマンモビリティ研究センター「モビリティを考えよう会」における講演「自動運転システムの社会的受容—賛否意識の規定因/新聞報道/NIMBY/クルマ受容の歴史」 2021年8月30日
- (10) 日本エネルギー学会 第30回大会 基調講演「人々に行動を変えてもらうためには? まちづくり・交通問題への社会心理学の応用事例」 2021年8月5日
- (11) 藤沢市 モビリティマネジメント教育研修講座 講師「校外学習に新たな視点を: やってみよう! モビリティ・マネジメント教育 クルマ問題を考えてみよう」, 藤沢市教育文化センター, 2021年8月5日 BMW Group Japan, 株式会社富士通総研: 自動車産業・市場の未来をつくるフューチャーダイアログプログラム #3における話題提供と講評 2021年3月25日

##### ◆ 委員会(政府・地方自治体等)

- (1) 国土交通省 交通政策審議会陸上交通分科会鉄道部会 鉄道運賃・料金制度のあり方に関する小委員会 委員 2022年2月~
- (2) 目黒区役所都市計画審議会都市計画マスタープラン検討委員会 委員 2021年8月~

- (3) 東京都庁 臨海部 地域公共交通会議 委員 2021年8月～
- (4) 日本学術会議 課題別委員会「自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会 自動運転企画分科会 自動運転と共創する未来社会検討小委員会」(25期) 委員 2021年7月～
- (5) 国土交通省 関東地方整備局 首都圏道路ネットワークの整備効果検討会 2020年12月～
- (6) 国土交通省 道路局「新道路技術会議」委員 2020年12月～
- (7) 国土交通省 大臣官房 基本政策懇談会 委員 2020年8月～
- (8) 運輸総合研究所 新しいモビリティサービス研究会 委員 2020年7月～
- (9) 運輸総合研究所 評議員 2020年7月～
- (10) 守谷市 地域公共交通活性化協議会 委員 2020年4月～
- (11) 国土交通省 社会資本整備審議会 本委員 2020年3月～
- (12) 国土交通省 社会資本整備審議会 環境部会 委員 2020年3月～
- (13) 国土交通省 社会資本整備審議会 計画部会 委員 2020年3月～
- (14) 国土交通省 社会資本整備審議会 道路分科会 委員 2020年3月～
- (15) 国土交通省 社会資本整備審議会 技術部会 委員 2020年3月～
- (16) 内閣府 規制改革推進委員会 委員 2019年10月～
- (17) 藤沢市都市計画審議会 委員 2019年8月～
- (18) 国土交通省 青森国道事務所・青森県庁 奥入瀬溪流・十和田湖周辺交通マネジメント検討委員会 委員 2017年12月～
- (19) 国土交通省総合政策局 エコ通勤等承認・普及促進委員会 委員 2017年8月～
- (20) 防衛省 防衛施設整備に関する有識者会議委員 2017年4月～
- (21) 国土交通省関東地方整備局 社会資本整備審議会道路分科会関東地方小委員会 臨時委員 2016年11月～
- (22) 国土交通省 国立研究開発法人審議会土木研究所部会 委員 2015年7月～
- (23) 国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部 札幌千歳間交通円滑化懇談会 委員 2014年9月～
- (24) 国土交通省 総合政策局 交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰選考委員会 委員 2014年6月～
- (25) 内閣府 民間資金等活用事業推進委員会委員 2012年1月～2022年3月
- (26) 静岡県 道路技術審議会 委員 2012年10月～
- (27) 交通エコロジー・モビリティ財団 モビリティ・マネジメント教育普及検討委員会 委員 2009年1月～
- (28) 茨城県かすみがうら市 総合交通会議 委員 2008年10月～
- (29) 交通エコロジー・モビリティ財団 EST普及推進委員会 委員 2005年～

以上

氏名	谷口 守	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市地域計画、交通計画、環境計画		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 

学類 都市計画演習／都市計画原論／地球規模課題基礎演習A－II  
 大学院前期課程 都市と環境／公共インフラ計画／美しい国土づくりへの挑戦（I）、（II）  
 ／モビリティ・イノベーションの社会応用／地域未来創生概論
- ◆ 指導学生数：
 

社会工学類 5人／社会工学専攻（博士後期）1人／社会工学専攻（博士前期）6人／  
 研究生 1人

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 

科学研究費 基盤研究(B)「バイオミメティックスに学ぶスマートな都市退化  
 マネジメント」(代表)

科学研究費 挑戦的研究(萌芽)「インビジブルシティ(見えない都市)の  
 エモーショナルな『見える化』まちづくり」(代表)

科学研究費 新学術領域研究「西アジア地域の都市空間の重層性に関する計画論的研究」  
 (分担)

共同研究 トヨタ自動車(株)「モビリティ・イノベーションの社会応用と  
 未来社会工学研究 フェーズIV」(分担)

寄付金 (公財)住友財団「コンパクトシティ政策の棚卸し集大成評価と  
 そのDX時代への新展開研究」(代表)

令和3年度リサーチユニット強化事業 「コンパクトシティ(CCTU)」(代表)
- ◆ 著書・論文等：
- ◆ 査読付き論文：
 

森本瑛士・下山悠・滝澤善史・谷口守(2021) 交通利便性からみる拠点階層計画の現状と  
 課題、一公共交通と自動車の利用状況に着目して一、土木学会論文集 D3、Vol.76、No.5.

I\_639-I\_647.

- 御手洗陽・小松崎諒子・谷口守(2021) モビリティ・イノベーションの普及を見据えた都市機能の新たな提供手段の可能性、一機能搭載型自動運転車(ADVUS)に着目して一、土木学会論文集 D3、Vol.76、No.5. I\_657-I\_666.
- 相馬佑成・森本瑛士・谷口守(2021) 医療 MaaS 等を含むコネクティッド・メディシンの導入に向けた一考察、一通院行動・意識とコロナ禍の影響に着目して一、土木学会論文集 D3、Vol.76、No.5. I\_945-I\_955.
- 清水宏樹・武田陸・奥村蒼・谷口守(2021) 人口減少・少子高齢化に伴う都市問題進行過程のパターン分析、土木学会論文集 D3、Vol.76、No.5. I\_359-I\_368.
- 小松崎諒子・御手洗陽・谷口守(2021) 自動運転車内における活動意向の決定要因に関する構造的把握、土木学会論文集 D3、Vol.76、No.5,I\_729-I\_737.
- 管野貴文・安藤慎悟・谷口守(2021) 大都市圏発訪問型関係人口の活動実態 一個人のライフスタイルに着目して一、土木学会論文集 D3、Vol.76、No.5. I\_51-I\_59.
- 片山茜・菊池雅彦・清水宏樹・谷口守(2021) : 都市計画行政における評価の変遷に関する一考察、土木学会論文集 D3、Vol.77、No.5. pp.42-51.
- 谷口守・武田陸・小松崎諒子(2021) : かしこいオンラインの使い方を考える、一「ゆっくり来る津波」回避のための外出 MM のすすめ一、実践政策学、Vol.7、No.1、pp.71-78.
- 相馬佑成・小松崎諒子・安藤慎悟・谷口守(2021) : COVID-19 がコネクティッド・メディシンの利用意向に及ぼす影響、一医療における ICT・MaaS の活用可能性一、土木学会論文集 D3、Vol.77、No.2、COVID-19 特別企画、pp.113-122.
- 谷口守・岡野圭吾(2021) : 分散型国土とコンパクトシティのディスタンス、一COVID-19 下の国土・都市計画に対する試論一、土木学会論文集 D3、Vol.77、No.2、COVID-19 特別企画、pp.123-128.
- 岡野圭吾・清水宏樹・谷口守(2021) : 購買環境に対する主観的評価と意識・行動の関連性、一レトロスペクティブ調査を通じた 20 年前からの比較一、都市計画論文集、No.56-3、pp.889-896.
- 小松崎諒子・石橋澄子・宗健・谷口守(2021) : COVID-19 による業務活動のオンラインシフトの要因分析、一勤務先の制度的裏付けの有無に配慮して一、都市計画論文集、No.56-3、pp.547-554.
- 清水宏樹・安藤慎悟・谷口守(2021) : トリップ集中から見た都市機能誘導区域の実態、一移動手段・目的施設に着目して一、都市計画論文集、No.56-3、pp.804-810.
- 石橋澄子・武田陸・谷口守(2021) : COVID-19 が子育て有職者のジェンダー・ギャップに及ぼした影響、一緊急事態宣言前・中・後 3 断面での家事・育児時間に着目して一、都市計画論文集、No.56-3、pp.641-648.
- 武田陸・小松崎諒子・谷口守(2021) : COVID-19 流行がもたらした有職者の生活時間変革、一ダイアリーデータに基づく緊急事態宣言 (2020 年 4 月) の前・中・後の分析一、

都市計画論文集、No.56-3、pp.1191-1198.

Taichi Murooka, Hiroshi Shimizu, and Mamoru Taniguchi: Networked Compact City Policy Status and Issues—Hierarchy and Human Mobility in Tokyo, Japan, Sustainability, 2021, 13, 13107, <https://doi.org/10.3390/su132313107>, (IF:3.251)

菅野貴文・安藤慎悟・谷口守(2021)：関係人口の実態に基づく地方ブロックの逆推定、土木学会論文集 D3、Vol.77、No.4、pp.346-354.

安藤慎悟・菅野貴文・室岡太一・谷口守(2022)：都道府県に着目した非訪問型・訪問関係人口の獲得実態、一活動内容を踏まえた COVID-19 収束後の訪問意向に着目して一、実践政策学、Vol.7、No.2、pp.181-190.

◆ 論説等：

谷口守・武田陸：COVID-19 に強い都市構造への課題、一都市・交通計画の立場から一、公衆衛生、特集：COVID-19 が流行しない社会を目指す、Vol.85、No.6、pp.369-373、2021.6.

谷口守：(書評) Frontiers of Real Estate Sciences in Japan, Springer, 2021. 不動産学会誌、Vol.35、No.1、p.136、2021.6.

谷口守・武田陸：COVID-19 感染拡大が招く行動変化の実態と都市の危機、都市計画、Vol.70、No.4、pp.84-85、2021.7.

谷口守：これからのコンパクトシティと都市モビリティ、ガバナンス、No.243、pp.29-37、2021.7.

谷口守：県都の未来、「識者に聞く」、①市街地活性化、欠かせない合意形成、山陽新聞、2021年7月30日、第29面

谷口守：Beyond コロナの交通行動と都市アセットを考える、一ニュードライブがもたらした影響から一、新都市、Vol.75、No.8、pp.27-30、2021.8.

谷口守・東智徳・柏尾哲哉：分散&デジタルを実現する都市構想、月間事業構想、2021.9.、pp.116-117、2021.9.

谷口守：カーボンニュートラルをめぐる状況と今後の展望、道路建設、No.788、pp.11-17、2021.9.

谷口守・安藤慎悟：今、改めて関係人口を考える、一アフターコロナにおける非訪問型関係人口のステップアップの視点から一、特集：今改めて関係人口を考える、ECPR (Ehime Center for Policy Research)、Vol.47、pp.3-12、2021.10.

谷口守：まちづくりを通じた健康格差の解消、特集：格差が及ぼす子どもへの影響、子どもと発育発達、Vol.19、No.3、pp.198-202、2021.10.

谷口守：カーボンニュートラルとインフラ、dec monthly、Vol.435、pp.0-2、2021.12.

久保田尚・井料美帆・黒林寛治・谷口守・山本浩之：道路空間活用の新展開、特集：道路空間活用の新展開、交通工学、Vol.57、No.1、pp.9-20、2022.1.

谷口守：ポストコロナにおける都市の持続可能性、－SDGs 普及の流れの中で－、  
特集：都市計画における持続可能性の再定義、都市計画、Vol.71、No.1、pp.12-15、2022.1.  
谷口守監修・小野寺佑紀執筆：知能を持つ都市－スマートシティ、Newton、2022.2月号、  
pp.112-121、2022.2.  
谷口守：ワンマイルタウンから考えるファーストワンマイル、～未来のモビリティの  
ために今考えなければいけないこと～、特集：広がるラストワンマイル、  
運輸と経済、No.896、pp.41-45、2022.2.  
谷口守・安藤慎悟：かながわにおけるポストコロナの都市づくり、－関係人口を  
手掛かりにして－、かながわ政策研究ジャーナル、Vol.15、pp.71-76、2022.3.  
谷口守：都市計画から考える With・After コロナの都市の姿、不動産学会誌、Vol.35、  
No.4、pp.33-36、2022.3.  
谷口守：持続可能なまちづくり、特集：「住み続けられるまちづくり」SDGs が未来を  
変える、MINTO、Vol.49、pp.10-14、2022.3.

◆ 学会発表等：

石井儀光・谷口守・他 24 名：高校地理教育における都市構造可視化の活用についての  
研究、都市計画報告集、No.20、pp.146-153、2021.5.  
岡野圭吾・室岡太一・安藤慎吾・谷口守：購買環境に対する主観的評価の地域間比較、  
－全国における都道府県別満足率の推定－、土木計画学研究・講演集、Vol.63、P109、  
7pages、2021.6.  
小松崎諒子・武田陸・宗健・谷口守：COVID-19 が活動場所の選択に及ぼした影響、  
－活動満足度の差異に着目して－、土木計画学研究・講演集、Vol.63、P124、7pages、  
2021.6.  
安藤慎吾・管野貴文・清水宏樹・谷口守：全国を対象とした非訪問型関係人口の活動実態、  
－COVID-19 収束後の訪問型への移行可能性に着目して－、土木計画学研究・講演集、  
Vol.63、P117、9pages、2021.6.  
武田陸・石橋澄子・谷口守：COVID-19 がもたらした一日の生活行動の変化、－行動弾性  
図による把握を通じて－、土木計画学研究・講演集、Vol.63、P129、9pages、2021.6.  
室岡太一・岡野圭吾・武田陸・谷口守：買い物行動における主観的重視項目の時代・年代・  
世代による差異、土木計画学研究・講演集、Vol.63、P112、8pages、2021.6.  
清水宏樹・安藤慎吾・谷口守：移動時間による TTB 生活圏の提案とその実態、－徒歩に  
基づく住まいからの 15-minute city の可能性－、土木計画学研究・講演集、Vol.63、P202、  
9pages、2021.6.  
谷口守・石橋澄子：どこに住み、どう働くのか、－居住地の変化とテレワークの影響から  
考える健康な国土・都市づくり－、第 31 回日本産業衛生学会全国協議会、  
メインシンポジウム第二部、ポストコロナの現状と今後の産業衛生の展望、2021.12.5.

◆ その他：

受賞：文部科学大臣表彰（科学技術賞）

指導学生受賞（森本瑛士：都市計画学会論文奨励賞／片山茜・岡野圭吾：都市計画学会年間優秀論文賞／清水宏樹：土木計画学研究発表会優秀ポスター賞／安藤慎悟：土木計画学研究発表会優秀ポスター賞／小松崎諒子：土木計画学研究発表会優秀ポスター賞／石橋澄子：茗溪会賞／室岡太一：学長表彰／清水宏樹：システム情報工学研究群長賞／小松崎諒子：社会工学学位プログラムリーダー賞／石橋澄子：社会工学都市計画同窓会優秀賞（卒業論文）／清水宏樹：社会工学都市計画同窓会優秀賞（修士論文）

### 3. 学内運営

◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献：

学務・カリキュラム委員、早期修了プログラム実施委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

論文委員長、地域未来創生コース担当

### 4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

◆ 学会活動（役員／委員）：

交通計画協会 代表理事  
交通計画協会 代表理事

日本不動産学会 理事

日本都市計画学会 都市構造評価特別委員会 委員

日本交通政策研究会 理事

◆ 学外から委嘱された委員、兼業など：

国土交通省 「社会資本整備審議会 都市計画・歴史的風土分科会」 分科会長

国土交通省 「社会資本整備審議会 都市計画・歴史的風土分科会 都市計画部会

都市計画基本問題小委員会」 委員長

国土交通省 「社会資本整備審議会 建築分科会」 委員

国土交通省 「社会資本整備審議会 住宅宅地分科会」 委員

国土交通省 「交通政策審議会」 臨時委員

国土交通省 「交通政策審議会 技術部会 グリーン社会ワーキンググループ」 委員

国土交通省 「社会資本整備審議会・交通政策審議会 技術部会 国土交通技術行政の  
基本政策懇談会」 委員

国土交通省 「新たな都市交通調査体系のあり方に関する検討会」 座長



国土交通省 「スマートシティ海外展開に関する有識者会議」 委員  
国土交通省 「ライフスタイルの多様化等に関する懇談会」 委員  
国土交通省 「交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰選考委員会」 委員  
国土交通省 「多様なニーズに応える道路空間」のあり方に関する検討会」 委員  
国土交通省 「河川技術評価委員会 流域計画・流域管理課題評価分科会」 委員  
国交省・公共交通利用推進等マネジメント協議会 「エコ通勤認証・普及等委員会」 委員  
国交省・(一財)計量計画研究所 「全国都市交通特性調査検討会」 委員  
環境省 「CO<sub>2</sub>排出削減対策技術評価委員会 交通低炭素化技術開発分野分科会」 委員  
環境省・(一社)地域循環共生社会連携協会 「LRT・BRT 導入利用促進事業審査委員会」 委員  
(一社)国土技術研究センター 「地球環境問題を踏まえた都市・地域形成  
における技術政策に関する勉強会」 委員  
都市再生機構 「独立行政法人都市再生機構 事業評価監視委員会」 委員  
東京都市圏交通計画協議会 「東京都市圏総合都市交通体系調査技術検討会」 委員長  
(公財)日本都市センター 「ポストコロナの都市交通・まちづくりに関する検討WG」 座長  
(一財)運輸総合研究所 「ポストコロナの公共交通のあり方検討委員会  
地域内交通小委員会」 委員  
(一社)持続可能な地域社会総合研究所 「地域社会の未来像を描く全国研究フォーラム」  
総括アドバイザー

茨城県 「茨城県都市計画審議会」 副委員長  
茨城県 「茨城県国土利用計画審議会」 委員長  
茨城県 「茨城県土地利用審査会」 委員  
茨城県 「茨城県大規模小売店舗立地審議会」 委員  
和歌山県 「和歌山県都市計画審議会」 会長  
福岡県 「福岡県都市計画審議会 持続可能な都市づくり専門委員会」 委員  
石岡市 「石岡市都市計画審議会」 委員長  
八潮市 「八潮市都市計画マスタープラン策定委員会」 委員長  
千葉市 「モノレールを賢く活用した地域づくりを進めるための方策検討委員会」  
専門委員

静岡市 「静岡市次期みちづくり計画有識者検討会議」 委員  
倉敷市 「倉敷市地域公共交通会議」 議長  
境町 「境町都市計画審議会」 会長  
大磯町 「大磯町まちづくり審議会」 委員  
都市計画コンサルタント協会 「認定都市プランナー評価委員会」 委員  
積水インテグレートドリサーチ 「積水化学自然に学ぶものづくり研究助成  
プログラム審査委員会」 委員

氏名	張 勇兵	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム、サービス工学学位プログラム		
担当学類	社会工学類		
研究分野	情報処理、通信ネットワーク、性能評価		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
  - 社会工学類：情報ネットワーク／情報リテラシー（講義）／情報技術演習／プログラミング実習
- ◆ 大学院：情報ネットワーク
- ◆ 指導学生数：
  - 社会工学類生：5名
  - 社会工学専攻博士後期課程：3名
  - 社会工学専攻博士前期課程：9名
  - 社会工学専攻博士前期課程研究生：4名

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
  - モバイルクラウドにおけるデータの配置に関する研究、移動端末負荷の効率的なオフローディングに関する研究、エスティック光通信ネットワークにおける波長・分波器・コア割り当て方式に関する研究
- ◆ 著書・論文等：
  - [1] W. Zheng, M. Yang, C. Zhang, Y. Zheng, Y. Wu, Y. Zhang, and J. Li: Application-aware QoS routing in SDNs using machine learning techniques, *Springer Peer-to-Peer Networking and Applications*, Vol. 15, pp. 529-548, (Jan. 2022). DOI: 10.1007/s12083-021-01262-8
  - [2] Y. Wu, W. Zheng, Y. Zhang, and J. Li: Reliability-aware VNF placement using a probability-based approach, *IEEE Transactions on Network and Service Management*, Vol. 18, No. 3, pp. 2478-2491 (Sept. 2021). DOI: 10.1109/TNSM.2021.3093199
  - [3] C. Zhang, M. Yang, W. Zheng, Y. Zheng, and Y. Zhang: Analysis of Wavelength Deployment Schemes in Terms of ONUs Cost and Upstream Transmission Performance in NG-EPONs, *OSA/IEEE J. Optical Communications and Networking*, Vol. 13, No. 9, pp. 214-223 (July 2021). DOI: 10.1364/JOCN.425722
  - [4] Y. Lin, J. Li, S. Kimura, Y. Zhang, Y. Ji, and Y. Yang: Blockchain based Public Auditing Outsourcing for

Cloud Storage, Proc. IEEE Int. Conf. Parallel and Distributed Systems (ICPADS), pp. 482-489, Dec. 14-16, 2021, Beijing, China.

◆ 学会発表等：

- [1] W. Zheng, Z. Guo, and Y. Zhang: Time-Aware Machine Learning-based Traffic QoS Classification, 情報処理学会インターネットアーキテクチャ研究会(IA)第 56 回研究会、7 ページ、京都(2022 年 3 月 7-8 日).
- [2] Y. Zheng and Y. Zhang: Routing and Spectrum Assignment in MCF-SDM Networks, 情報処理学会インターネットアーキテクチャ研究会(IA)第 56 回研究会、7 ページ、京都(2022 年 3 月 7-8 日).

◆ その他：

### 3. 学内運営

◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献：

システム情報系運営委員、システム情報工学研究群運営委員

◆ 学位プログラム等組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学・サービス工学学位プログラム・社会工学類コンピュータ委員、社会工学・サービス工学学位プログラム・社会工学類運営委員、サービス工学学位プログラムリーダー

### 4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

- 1) **Associate Editor** (2007～), Journal of Peer-to-Peer Networking and Applications, Springer.
- 2) **Japanese representative of IFIP Technical Committee 7** (System Modelling and Optimization) (2020～)
- 3) **Program Committee**, IEEE Int. Wireless Communications and Mobile Computing Conference (IWCMC2021), Harbin, China, June 28 – July 2, 2021 (Virtual Conference).
- 4) **Referee** for IEEE Trans. Vehicular Technology, Peer-to-Peer Networking and Applications

氏名	藤川 昌樹	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位 P (専任)		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム (専任)		
担当学類	社会工学類 (専任)		
研究分野	日本建築史・都市史、保全型都市計画		

## 1. 教育

◆ 担当授業科目：

学 類 都市計画の歴史／現代まちづくり論／住環境計画演習／設計演習Ⅱ  
 大学院 都市形成史/社会工学 WSⅠ・Ⅱ

◆ 指導学生数：

社会工学類 1人  
 社会工学学位プログラム 前期 11人 後期 7人  
 社会工学学位プログラム研究生 1人

## 2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・受託研究「石岡市歴史的景観及び里山景観調査研究」(代表)
- ・受託研究「健康・医療・介護政策の地域形成史」  
(モビリティイノベーションの社会応用と未来社会工学研究、トヨタ自動車、代表：大澤義明)
- ・基盤研究 (B)「江戸武家地の成熟過程に関する建築史・都市史的研究」(代表)
- ・基盤研究 (A)「大火からの復興を通して見た近代の町並みの再評価」(代表)

◆ 著書・論文等：

- ・藤川昌樹「茨城県の歴史的町並みの新たな展開—真壁・結城・太田・石岡・八郷」  
(『建築とまちづくり』506、pp.16-21、2021年4月)
- ・秋葉正美・藤川昌樹「旧真壁町「明治35年調製家屋台帳」間取図の図面特性—遺構資料参照による考察—」(『日本建築学会技術報告集』27巻66号、pp.1,068-1,073、2021年6月)
- ・余思奇・藤川昌樹「清代五台山的空間構成与其特質—基于城市史視点的考察」(『建築学報』学術論文増刊23、pp.55-60、2021年6月)
- ・藤川昌樹「桜川市真壁伝統的建造物群保存地区—登録有形文化財の集積から重伝建地区へ、そしてその後—」(『歴史を活かしたまちづくり—伝建制度創設半世紀にむけて』日本

- 建築学会大会建築歴史・意匠部門パネルディスカッション資料、pp.7-14、2021年9月)
- ・藤川昌樹「真壁のこれから：過去・現在・未来」(『かわら版』21号(ディスカバー真壁)、p.1、2021年12月)
  - ・馮雨喬・藤川昌樹「土屋浩一邸の建築的特徴-石岡市旧市街地における歴史的建造物の研究 その3-」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp.799-800、2021年9月
  - ・蘇澤瑩・藤川昌樹「「冷水酒造」の建築的特徴-石岡市旧市街地における歴史的建造物の研究 その4-」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp.801-802、2021年9月
  - ・余思奇・藤川昌樹「五台山大華嚴寺の構成と僧侶集団」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp.159-160、2021年9月
  - ・宋宇辰・藤川昌樹「《全黄図》からみた京杭大運河沿い集落の分布とその特徴-清代長江以北に着目して-」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp.163-164、2021年9月
  - ・呂夢琦・藤川昌樹「明治期の横浜外国人居留地における中国系事業所と公共施設の立地と特徴-Japan Directory の分析から-」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠 pp.485-486、2021年9月
  - ・陳穎・藤川昌樹「民国期福建霞浦県城の「境」の構成とその成立過程-福建沿海地域共同体「境」「社」の研究」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp.515-516、2021年9月
  - ・徐暢・藤川昌樹「近代中国青島市における日本資本の民間会社による住宅建設-1928年の大日本麦酒株式会社青島工場の社宅増設を事例に-」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp.519-520、2021年9月
  - ・アリミナ・シャキラ、藤川昌樹「清代新疆の地域構造と都市群の立地-軍政中心地イリを対象に-」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp.525-516、2021年9月
  - ・酒巻裕作・藤川昌樹「商店街アーケードの空間の変容:十条銀座商店街を対象に」『日本建築学会大会学術講演梗概集』都市計画、pp.147-148、2021年9月
- ◆ 学会発表等：
- ・「研究計画のカタチ」(藤川昌樹、科研費申請セミナー、筑波大学システム情報系 2021年7月6日)
  - ・「桜川市真壁伝統的建造物群保存地区—登録有形文化財の集積から重伝建地区へ、そしてその後—」(藤川昌樹、日本建築学会大会建築歴史・意匠部門パネルディスカッション「歴史を活かしたまちづくり—伝建制度創設半世紀にむけて」2021年9月7日)
  - ・「現代の町並み保存と茨城県」(藤川昌樹、令和3年度茨城県都市計画セミナー、茨城県薬剤師会館大会議室〈オンラインに変更〉2022年2月8日)
- ◆ その他：

### 3. 学内運営

- ◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献：
  - ・システム情報系及びシステム情報工学研究群運営委員会委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
  - ・社会工学域長
  - ・社会工学学位プログラムリーダー
  - ・社会工学域関連施設委員長

### 4. 学外学外活動の社会貢献

- ・建築史学会編集副会長・常任委員
- ・日本建築学会員
- ・日本建築学会災害本委員会委員
- ・日本都市計画学会会員

#### 学外から委嘱された委員

- ・室戸市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員（高知県）
- ・茨城県まちづくりアドバイザー
- ・史跡真壁城跡整備検討委員会委員（桜川市）
- ・桜川市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員
- ・つくば市都市景観審議会委員
- ・土浦市都市計画審議会会長
- ・桜川市歴史的風致維持向上推進協議会会長
- ・土浦市文化財保護審議会委員
- ・つくば市文化財保護審議会会長
- ・笠間城跡調査指導委員会委員（笠間市）
- ・石岡市景観調査委員会委員長
- ・茨城県文化財保護審議会委員
- ・結城市景観審議会委員長・景観アドバイザー
- ・文化庁文化審議会文化財分科会第二専門調査会委員
- ・土浦市総合企画審議会委員長
- ・土浦市公共施設等総合管理計画策定委員会委員長
- ・土浦市文化財保存活用地域計画推進協議会委員
- ・石岡市文化財保存活用地域計画推進協議会委員

氏名	渡辺 俊	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム・環境科学学位プログラム (生命環境科学研究科)		
担当学類	社会工学類		
研究分野	建築情報学、都市情報学、空間情報科学、デザイン科学		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
  - 学類 空間デザイン論／都市計画情報実習／  
基本製図／住環境計画実習／設計演習 I／設計演習 II
  - 大学院 空間情報科学／地域データ解析
- ◆ 指導学生数：
  - 社会工学類 3人／社会システム工学専攻 7人／研究生 1人

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
  - 基盤研究(B) 創造性の論理的・技術的探求に基づくデザイン共創環境の構築と教育プログラムの開発
  - 挑戦的研究(萌芽) コンパクトシティを目指した都市デザイン戦略のための都市構造評価指標の探究
- ◆ 著書・論文等：
  - Akihiro Kawabe and Shun Watanabe : An analysis on urban shrinkage trends of all Japanese cities by detecting relative densely inhabited districts – Changes in urban form of Japanese cities in an era of shrinking population, part 2, Japan Architectural Review 2021 (DOI: 10.1002/2475-8876.12227)
  - 渡辺俊：3D 都市モデルを活用した GIS 教育の試行、第 44 回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集、日本建築学会、2021 年 12 月
  - 蘇佳璐、渡辺俊：発達障害における方向感覚と空間認知の調査試行、第 44 回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集、日本建築学会、2021 年 12 月
- ◆ 学会発表等：
  - 藤崎茜、渡辺、俊：京都市内にあるコンビニエンスストアの景観配慮の実態と景観に対する人々の認識、2021 年度日本建築学会大会（東海）学術講演会、2021 年 9 月
  - 蘇佳璐、渡辺、俊：PPGIS を用いた発達障害者向けの都市地図設計に関する研究、2021 年度日本建築学会大会（東海）学術講演会、2021 年 9 月

上野諒介、渡辺，俊：FROM COYAMACHI 静岡紺屋町名店街再開発計画、2021 年度日本建築学会大会（東海）建築デザイン発表会、2021 年 9 月

### 3. 学内運営

- ◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献：  
システム情報系技術室長  
教育社会連携推進室委員
- ◆ 学位プログラム等組織の業務への貢献（委員会等）：  
社会工学専攻 コンピュータ委員  
社会工学類 入試実施委員、コンピュータ委員

### 4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：  
日本建築学会学術推進委員会委員  
日本建築学会情報システム利用技術本委員会委員長  
日本建築学会デザイン数理知能研究小委員会委員  
日本建築学会情報システム利用技術シンポジウムWG委員  
日本建築学会情報システム利用技術シンポジウム論文WG委員  
国土交通省建築 BIM 推進会議委員  
他



氏名	雨宮 護	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	サービス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市計画、犯罪学、空間情報科学、環境心理学		

## 1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：都市計画入門／住環境計画概論／都市計画情報演習／現代まちづくり論／住環境計画演習／設計演習 I／設計演習 II／都市計画事例講義／都市数理／地球規模課題基礎実習／地球規模課題基礎演習

大学院：都市と環境／プレイスメイキング／ファシリテーター育成プログラム／ファシリテーター育成プレプログラム

◆ 指導学生数：

社会工学類 6 人／社会工学学位プログラム (前期) 6 人／サービス工学学位プログラム (前期) 2 人／社会工学専攻 (後期) 2 人

## 2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業 (科学研究費補助金) (基盤 B) 「地理空間ビッグデータを用いた犯罪の時空間分析と社会実験への展開」, 研究代表者 (2021 年度～2024 年度)
2. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) (基盤 C) 「警察の情報発信における「信頼」—行動科学・倫理学・政策科学からの学際的問題解決」 (代表：島田貴仁 (科学警察研究所犯罪行動科学部犯罪予防研究室長), 分担研究者, 2019 年度～2022 年度)
3. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業 (科学研究費補助金) (基盤 B) 「空間移動・輸送ルート設計の最適戦略に関する理論・応用研究」 (代表：鈴木勉 (筑波大学システム情報系教授), 分担研究者, 2019 年度～2021 年度)
4. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) (挑戦萌芽) 「集合住宅における子ども・女性に対する犯罪の実態分析と対策立案」 (代表：樋野公宏 (東京大学工学系研究科准教授)), 分担研究者 (2018 年度～2021 年度) ※ 期間延長

5. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤 B）「地理的犯罪予測の手法構築：学際研究と産官学連携による学術基盤の確立とシステム開発」，研究代表者（2017 年度～2021 年度）※期間延長

◆ 著書・論文等：

（査読付学術雑誌掲載論文）

1. Daisuke Takagi, Mamoru Amemiya, and Takahito Shimada (2022) What do security cameras provide for society? The influence of cameras in public spaces in Japan on perceived neighborhood cohesion and trust, *Journal of Experimental Criminology*, 18, 129-147. doi: 10.1007/s11292-020-09437-8 (IF=3.459; Five year IF=4.869 in 2020)
2. 長谷澤未来・雨宮護・讚井知（2021）：三大都市圏居住者の地方部への地域愛着と貢献行動意図の関連：非三大都市圏の大学在学時に親元を離れて大学周辺に居住した者に着目して，都市計画論文集，56(3)，pp.555-562.
3. 根本裕都・藤井さやか・佐野雅人・鈴木勉・雨宮護・大澤義明（2021）：COVID-19 による外出制限が人口流動に及ぼす影響：2020 年 4 月の緊急事態宣言期間中のつくば市の事例分析，都市計画論文集，56(3)，pp/1207-1214.
4. 讚井知・島田貴仁・雨宮護（2021）：詐欺電話接触時の夫婦間における相談行動意図の規定因，心理学研究，92(3)，167-177.
5. 橋村ちひろ・雨宮護・畑倫子・島田貴仁（2021）：COVID-19 対応下における未就学児の母親の公園利用変化と育児ストレスとの関連，ランドスケープ研究，84 巻 5 号，485-490.

（総説・報告）

（審査のない雑誌論文・紀要）

1. 島ノ江彩加・雨宮護・島田貴仁（2021）交番・駐在所の廃止と地域住民の犯罪不安・被害リスク認知との関係，都市計画報告集，20，pp.318-323
2. Xinrui Zheng, Ryo Amano, and Mamoru Amemiya (2021) Evaluating multiple greenness measures in Tokyo, 地理情報システム学会講演論文集，30，CD-ROM
3. 山根万由子・雨宮護・大山智也・島田貴仁（2021）都市活動が犯罪情勢に与える影響の解明：COVID-19 緊急事態宣言に着目した実証分析，地理情報システム学会講演論文集，30，CD-ROM

◆ 学会発表等：

1. 森崎有香・雨宮護・島田貴仁（2022）系統的社會観察におけるバーチャル観察の適用可能性の検証，第 15 回日本環境心理学会大会，オンライン，2022.3.12（梗概：環境心理学研究，10(1)，p.15）
2. Xinrui Zheng, Ryo Amano, and Mamoru Amemiya (2022) Methodology for applying a crowdsourced street-level imagery data to evaluate street-level greenness, Virtual

Paper Session, AAG2022, Online, February 25 – March 1.

3. 松原千波・森祐介・雨宮護・大澤義明 (2021) シルバー民主主義脱却のために選挙をリ・デザインする：茗溪学園オンライン選挙での試み，都市の OR ウィンターセミナー2021，オンライン，2021.12.18-19
4. 天野亮・雨宮護・高山範理 (2021) HMD を用いた 360 度映像観察による森林浴とオンサイト森林浴の回復効果の比較，日本造園学会関東支部大会，オンライン，2021.12.18 (梗概：2021 年度日本造園学会関東支部大会梗概集，39，72-73)
5. 横山司・雨宮護 (2021) 小規模公園の廃止プロセスの実態と評価：社会受容と地域活性化の視点から，日本造園学会関東支部大会，オンライン，2021.12.18 (梗概：2021 年度日本造園学会関東支部大会梗概集，39，32-33)
6. Xinrui Zheng, Ryo Amano, and Mamoru Amemiya (2021) Evaluating multiple greenness measures in Tokyo, CSIS DAYS 2021，オンライン，2021.11.20 (梗概：Research Abstracts on Spatial Information Science CSIS DAYS 2021, D10)
7. 田中大輔・雨宮護 (2021) 地方自治体が発行する自転車利用者向け観光地図の類型化：観光地図に掲載される地理空間情報に着目して，CSIS DAYS 2021，オンライン，2021.11.20 (梗概：Research Abstracts on Spatial Information Science CSIS DAYS 2021, C18)
8. 長谷澤未来・雨宮護・讃井知 (2021)：三大都市圏居住者の地方部への地域愛着と貢献行動意図の関連：非三大都市圏の大学在学時に親元を離れて大学周辺に居住した者に着目して，日本都市計画学会 2021 年度全国大会 (第 55 回論文発表会)，愛媛大学，2021.11.5-7
9. 根本裕都・藤井さやか・佐野雅人・鈴木勉・雨宮護・大澤義明 (2021)：COVID-19 による外出制限が人口流動に及ぼす影響：2020 年 4 月の緊急事態宣言期間中のつくば市の事例分析，日本都市計画学会 2021 年度全国大会 (第 55 回論文発表会)，愛媛大学，2021.11.5-7
10. Xinrui Zheng, Ryo Amano, and Mamoru Amemiya (2021) Evaluating multiple greenness measures in Tokyo, 第 30 回地理情報システム学会研究発表大会，オンライン，2021.10.30-31 (梗概：地理情報システム学会講演論文集，30，CD-ROM)
11. 山根万由子・雨宮護・大山智也・島田貴仁 (2021) 都市活動が犯罪情勢に与える影響の解明：COVID-19 緊急事態宣言に着目した実証分析，第 30 回地理情報システム学会研究発表大会，オンライン，2021.10.30-31 (梗概：地理情報システム学会講演論文集，30，CD-ROM)
12. 田中大輔・雨宮護 (2021) 地方自治体が発行する自転車利用者向け観光地図の類型化：観光地図に掲載される地理空間情報に着目して，第 30 回地理情報システム学会研究発表大会ポスターセッション，オンライン，2021.10.30-31
13. Masayuki Tani and Mamoru Amemiya (2021) The influence of individual

characteristics and socioeconomic factors of residential area on elderly parolee recidivism in Japan, ACS2020, Ryukoku University, Kyoto, June 18-21.

14. 橋村ちひろ・雨宮護・畑倫子・島田貴仁 (2021) : COVID-19 対応下における未就学児の母親の公園利用変化と育児ストレスとの関連, 2021 年度日本造園学会全国大会, オンライン (仙台), 2021.5.21-23.
15. Sayaka Fujii, Mamoru Amemiya, Kazuyoshi Watari, and O'neil Courtney Miller (2021) Campus Placemaking: Innovative Learning Spaces during-Post COVID-19, EDRA52, Virtual, May 19-23.
16. Naomi Shimpo, Xinrui Zheng, and Mamoru Amemiya (2021) Creating an Intercultural Garden to Promote Exchange Among Students from Different Countries - An Educational Workshop in Tsukuba, Japan, EDRA52, Virtual, May 19-23.
17. Xinrui Zheng and Mamoru Amemiya (2021) Rethinking walkable city in the post-corona era, Virtual Poster Session, AAG2021, Online, April 7-11.

◆ その他 :

### 3. 学内運営

◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献 :

1. システム情報工学研究群研究倫理審査委員会委員
2. 筑波トランスパシフィックプログラム実施委員

◆ 学位プログラム組織の業務への貢献 (委員会等) :

1. 大学院社会工学学位プログラム・サービス工学学位プログラム広報委員
2. 社会工学類広報委員
3. 社会工学データサイエンス運営委員会

### 4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動 :

(学会活動)

1. 日本都市計画学会表彰委員会委員 (2021 年度～)
2. 日本都市計画学会企画調査委員会研究交流事業小委員会委員 (2020 年度～)
3. 日本都市計画学会査読委員会委員 (2014 年度～)
4. 日本造園学会研究論文集校閲委員会委員 (2007 年度～)
5. 日本造園学会論文集委員会幹事 (2021 年度～)

(学外組織からの委嘱委員等)

1. 牛久市「都市計画審議会」副会長 (2019 年度～)
2. 牛久市「都市計画マスタープラン審議会」副会長 (2020 年度)

3. 守谷市「景観審議会」副会長（2021年度～）
4. 北区「景観づくり審議会」委員（2017年度～）
5. 足立区「防犯まちづくり推進アドバイザー」（2017年度～）
6. 市川市「空家等対策協議会」委員（2017年度～）
7. 八潮市「都市計画審議会」委員（2017年度～）
8. 大阪府警察「防犯対策高度化協働研究会」委員（2017年度～）
9. 福岡県警察「犯罪予防研究アドバイザー」（2014年度～）
10. つくば市「生活安全推進協議会」副会長（2016年度～）
11. つくば市「都市計画審議会」委員（2016年度～）
12. つくば市「明るいまちづくり協議会」副会長（2015年度～）
13. つくば市「研究学園中心地区の街路灯設置に向けた協議会」副会長（2015年度～）
14. 文部科学省科学技術政策研究所科学技術動向研究センター専門調査員（2013年度～）

（一般向け招待講演）

氏名	上市 秀雄	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学学位プログラム 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	意思決定、認知心理学、社会心理学		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
  - 学類 経済行動論／戦略行動システム演習
  - 大学院 消費者心理分析
- ◆ 指導学生数：
  - 社会工学類 6名
  - 社会工学学位プログラム 博士前期課程 5名
  - サービス工学学位プログラム 博士前期課程 1名
  - 社会工学学位プログラム 博士後期課程 4名（うち学位取得者1名）
  - 研究生 3名

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
  - 感情、特に後悔が意思決定に及ぼす影響の検討、ストレス対処、消費者心理など
- ◆ 著書・論文等：
  1. Shuto, M., Kim, Y., Okuyama, K., Ouchi, K., Ueichi, H., Nnadi, C., Larson, H. J., Perez, G. & Sasaki, S. (2021).  
 Understanding confidence in the human papillomavirus vaccine in Japan:  
 A web-based survey of mothers, female adolescents, and  
 healthcare professionals.  
*Human Vaccines & Immunotherapeutics*. [JCR 2020 Impact Factor=3.452]
  - ◆ 学会発表等：
    1. 上市秀雄・松川夏武・石渡崇晶 (2021).  
 大学生における情報、同調、認知要因が COVID 19 感染予防行動意図に及ぼす影響  
 日本心理学会第 85 回大会発表論文集. PL-002.
    2. 石渡崇晶・上市秀雄 (2021).  
 予期後悔傾向と新型コロナウイルス感染予防行動の関連性の検討  
 日本心理学会第 85 回大会発表論文集. PL-013.

3. 草野颯太・上市秀雄 (2021).

マンガ作品の選好に影響を与える要因の調査：マンガ制作経験者を対象として  
日本心理学会第 85 回大会発表論文集. PC-060.

4. 尾内一信・上市秀雄・首藤道子・金英珠・奥山ことば・佐々木津 (2021).

Vaccine confidence survey in Japan：日本における HPV ワクチンの信頼性に  
関する母親、思春期女性、医療従事者（HCP）を対象とした Web 調査  
第 95 回日本感染症学会学術講演会・第 69 回日本化学療法学会総  
合同学会. 0-131.

5. 上市秀雄（指定討論者） (2021).

「カスタマーハラスメント：心理学的アプローチの可能性を探る」  
日本応用心理学会公開シンポジウム 2021

### 3. 学内運営

◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献：

研究群企画室委員

◆ 学位プログラム等組織の業務への貢献（委員会等）：

学類カリキュラム委員、教学マネジメント委員、予算委  
員

### 4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

学員委員 心理学会 企画委員

学会誌査読

リスク研究学会誌、日本基礎心理学会  
講演会等

「後悔」をポジティブに活用するには：防災行動の意思決定とメタ認知  
よんなな防災会ナレッジユニット 行動防災チーム (2021/10/26)

氏 名	梅本 通孝	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	リスク・レジリエンス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担		
専攻（博士前期課程）	リスク・レジリエンス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類		
研究分野	都市地域の低頻度リスク対策		

## 1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類： 都市防災計画/都市・地域科学演習/都市計画事例講義

大学院： 都市リスクマネジメント論/レジリエント都市計画演習

◆ 指導学生数：

社会工学類 3人

リスク工学専攻 1人

リスク・レジリエンス工学学位プログラム 8人

## 2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

河川氾濫時の広域避難効果に関する研究

東アジア・東南アジア各国における風水害時情報伝達体制の国際比較に関する研究

被災地における非物的支援に関する研究

中国中山間地域におけるコミュニティ防災に関する研究

◆ 著書・論文等：

Mohamed Noby, Umemoto Michitaka, Omar Hamdy: Urban Risk Assessments: Framework for Identifying Land-uses Exposure of Coastal Cities to Sea Level Rise, a Case Study of Alexandria, SVU-International Journal of Engineering Sciences and Applications, Article 7, Vol. 3, Issue 1, pp.78-90, Feb. 2022.

Naoki ASANUMAN, Michitaka UMEMOTO: A Study on Information Behavior and Risk Perception of Residents in Located Area and Surrounding Area of Nuclear Power Plants: Comparison between Tokai Village, Mito City, Hitachi City and Naka City, 2021 International Conference of Asia-Pacific Planning Societies (ICAPPS) Conference Handbook, pp.168, 2021.8.

◆ 学会発表等：

趙旭青, 梅本通孝: 中国四川省都江堰市中山間地域集落における自治防災活動の課題に関する検討, 日本災害情報学会第24回学会大会, 2022.3.



門倉慧, 梅本通孝:熊本地震後の励まし活動における実現過程の把握, 日本災害情報学会第24回学会大会, 2022.3.

WANG HANFEI, 梅本通孝:東・東南アジア各国の水害情報伝達対策に基づく北京市への適用可能性の検討, 日本災害情報学会第24回学会大会, 2022.3.

池田侑輝, 梅本通孝:消防隊員の水災害活動経験談を活用した意思決定要因分析, 日本災害情報学会第24回学会大会, 2022.3.

- ◆ その他:

### 3. 学内運営

- ◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献:  
システム情報工学研究群 留学生委員会 委員
- ◆ 学位プログラム等組織の業務への貢献(委員会等):  
リスク・レジリエンス工学学位プログラム GP 達成度評価実施委員会 委員  
リスク・レジリエンス工学学位プログラム カリキュラム委員会 委員  
リスク・レジリエンス工学学位プログラム M1 学年主担当  
リスク・レジリエンス工学学位プログラム R2EC 対応委員会 委員  
リスク・レジリエンス工学学位プログラム 学務委員会 委員  
リスク・レジリエンス工学学位プログラム 表彰委員会 委員

### 4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動  
地域安全学会 理事  
日本建築学会防火委員会広域避難小委員会 委員  
地域安全学会論文集 査読者  
日本都市計画学会論文集 査読者  
Urban and Regional Planning Review 誌 査読者  
日本自然災害学会誌 査読者
- ◆ 学外から委嘱された委員  
鳥取県原子力安全顧問  
茨城県稲敷市都市計画審議会 会長  
茨城県潮来市第2期総合戦略有識者会議 委員
- ◆ 講演等  
梅本通孝:都市計画アプローチによる防災, 福島県立安積黎明高校課題探求シンポジウム, 講演・パネルディスカッション, 2021.12.1  
梅本通孝:防災対策のフレームの基本と肝要, 鳥取県令和3年度第1回原子力専門研修, 米子市・オンライン, 2021.11.17

氏 名	大久保 正勝	職 名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	サービス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	マクロ経済学, 計量経済学		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：  
学類 マクロ経済学／マクロ計量分析／社会工学演習／情報リテラシー演習  
大学院 資産評価論
- ◆ 指導学生数：  
社会工学類 0人／学位プログラム 0人

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：  
・科学研究費補助金 基盤研究 (C) 「モデル不確実性を考慮したマクロ経済モデルの実証的評価と分析手法の開発」(代表)  
・筑波大学システム情報系リサーチ・グループ「ビッグデータ時代における実証分析の理論と応用」(サポートメンバー)
- ◆ 著書・論文等：  
Okubo, Masakatsu (2022), “The Moment Restrictions for the Durable Consumption Model with Recursive Utility Revisited”, manuscript, University of Tsukuba.

## 3. 学内運営

- ◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献：  
共通科目「情報」専門部会委員
- ◆ 学位プログラム等組織の業務への貢献 (委員会等)：  
学類カリキュラム委員会委員、学類1年クラス担任

## 4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：なし

氏名	太田 充	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市経済学, 地域科学		

## 1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 都市経済学／地域科学演習／プログラミング入門／都市数理  
大学院 地域科学

◆ 指導学生数：

社会工学専攻 0 人／社会工学学位プログラム 13 人／サービス工学学位プログラム 2 人

## 2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・ 基盤研究 C「都市における環境リスクの軽減の経済効果に関する研究」(研究代表者)
- ・ 基盤研究 C「独占的競争下での環境オフセットの自発的供給に関する研究」(研究分担者)

◆ 著書・論文等：

- ・ 審査付論文

YOSHIDA, M., S. J. TURNBULL, AND M. OTA (2022): “Environmental offsets and production externalities under monopolistic competition,” *International Tax and Public Finance*, published online: 7 January, doi:10.1007/s10797-021-09699-6.

## 3. 学内運営

◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献：

全学 教職課程委員会委員

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等)：

教学マネジメント委員会委員長 (授業評価・FD) (大学院・学類)

## 4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：都市住宅学会理事会常務理事(業務執行理事)、都市住宅学会総務企画委員会委員長、都市住宅学編集委員会委員、都市住宅学学会賞委員会委員、都市住宅研究センター次長、日本不動産学会総務委員会委員

氏名	岡田 幸彦	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任 スポーツウェルネス学位プログラム 分担		
学位プログラム (博士前期課程)	サービス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	会計情報科学、サービス工学、社会工学		

## 1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：会計と経営/経営学/マネジメント演習

大学院：サービス会計（サービス工学学位プログラム）/技術経営（サービス工学学位プログラム）/課題解決型データ分析論特講1（スポーツウェルネス学位プログラム）/課題解決型データ分析論特講2（スポーツウェルネス学位プログラム）

学外：サービス（無形資産）会計（京都大学経営管理大学院）

◆ 指導学生数：

社会工学類 6 人/サービス工学学位プログラム（修士）15 人/社会工学学位プログラム（修士）2 人/社会工学学位プログラム（博士）4 人

## 2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・筑波大学人工知能科学センター 人工知能基盤研究部門 サービス工学分野長
- ・統計数理研究所 リスク解析戦略研究センター 客員准教授
- ・2020 年度 NEDO 委託事業「データコラボレーション解析による生産性向上を目指した次世代人工知能技術の研究開発」（中核研究者）

◆ 著書・論文等：

1. 秦涼太, 岡田幸彦, 山本亨輔：移動センシングを用いたシステム同定におけるパラメータ推定精度の数値的検討, 構造工学論文集A, 68A巻, 298～309頁, 2022年3月.  
<https://doi.org/10.11532/structcivil.68A.298> 査読有
2. 船先康平, 白井克佳, 岡田幸彦：わが国中央競技団体の組織能力とエリートスポーツシステムの関係に関する事例研究, 体育学研究, 67巻, 49～65頁, 2022年2月.  
<https://doi.org/10.5432/jjpehss.21072> 査読有
3. A. Imakura, H. Inaba, Y. Okada, and T. Sakurai, Interpretable Collaborative Data Analysis on Distributed Data, Expert Systems with Applications, Vol.177, pp.1-10, September 2021. <https://doi.org/10.1016/j.eswa.2021.114891> (IF: 6.954, CiteScore:

12.7 (top 2% in General Engineering), SJR: 1.368, SNIP: 3.079, GS h5-index: 118)  
査読有

4. 岡田幸彦, 小池由美香: Momentum Accounting研究の史的展開と将来の発展方向, 簿記研究, 4巻1号, 12~25頁, 2021年6月. [https://doi.org/10.32177/jjac.4.1\\_12](https://doi.org/10.32177/jjac.4.1_12) 査読有
5. Y. Takahashi, H. Chang, A. Nakai, R. Kagawa, H. Ando, A. Imakura, Y. Okada, H. Tsurushima, K. Suzuki, and T. Sakurai, Decentralized Learning with Virtual Patients for Medical Diagnosis of Diabetes, SN Computer Science, Vol.2, No.4, pp.1-10, April 2021. <https://doi.org/10.1007/s42979-021-00564-1> (GS h5-index: 11) 査読有
6. K. Tsukagoshi, H. Yonenoh, S. Kuno, and Y. Okada, A Bayesian Network Analysis of Frailty State Transitions among Community-dwelling Elderly Japanese, Proceedings of International Conference on Frailty and Sarcopenia Research 2021, U.S., 1 page, September 2021. (poster, online) 査読有
7. A. Yamazaki, N. Wakatsuki, K. Mizutani, Y. Okada, and K. Zempo, Effects of Audio-Visual Information on Interpersonal Distance in Real and Virtual Environments, Proceedings of INTERACT 2021 (LNCS 12936), Italy, pp.405-410, August-September 2021. (poster, online) 査読有
8. R. Shin, J. Inoue, Y. Okada, and K. Yamamoto, Numerical Study of the Effect of Measurement Noise on the Accuracy of Bridge Parameter Estimation in VBI System Identification, Proceedings of World Congress on Engineering 2021, U.K., 6 pages, July 2021. (oral, online) 査読有

◆ 学会発表等: TRIOS を参照

◆ その他:

・2021年9月8日(受賞式、講演有): 岡田幸彦, 革新的な工学教育「サービス工学学位プログラム」の創設と運営, 工学教育賞(業績部門), 公益社団法人日本工学教育協会.

・2021年7月: R. Shin, J. Inoue, Y. Okada, and K. Yamamoto, Numerical Study of the Effect of Measurement Noise on the Accuracy of Bridge Parameter Estimation in VBI System Identification, Best Paper Award of The 2021 International Conference of Applied and Engineering Mathematics, World Congress on Engineering 2021.

[http://www.iaeng.org/WCE2021/congress\\_awards.html](http://www.iaeng.org/WCE2021/congress_awards.html)

・2021年7月: R. Shin, K. Yamamoto, and Y. Okada, Field Experiments and Predicting using C-LSTM Networks of Bridge Position Estimation, Best Paper Award of The 2021 International Conference of Signal and Image Engineering, World Congress on Engineering 2021. [http://www.iaeng.org/WCE2021/congress\\_awards.html](http://www.iaeng.org/WCE2021/congress_awards.html)

・2021年5月: 山田博也, 岡田幸彦, 善甫啓一: 小売店舗における熟練販売員の音声模倣

スキルの効果, 大会優秀賞 (ポスター発表部門), サービス学会第 9 回国内大会.  
<http://ja.serviceology.org/introduction/award.html#domestic2021>

・2021 年 4 月: 岡田幸彦: サービス工学学位プログラム, 教育貢献賞, 筑波大学大学院システム情報工学研究群.

### 3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:  
教育イニシアティブ機構会議 構成員  
教学デザイン室 室員  
教学マネジメント室 室員  
理工学群広報委員会 委員  
人工知能科学センター運営委員会 委員  
筑波大学サービス工学ビッグデータ CoE コーディネーター
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等):  
社会工学類広報委員会 委員長  
大学院社会工学学位プログラム広報委員会 委員長  
教学マネジメント委員会 オブザーバー  
社会工学 DS 委員会 委員

### 4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動:
  - ・サービス学会 発起人・理事
  - ・インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブ 発起人・学会会員
  - ・公益財団法人清国奨学会 理事 (工学系学生への奨学事業、非常勤)
  - ・水戸信用金庫 理事 (非常勤)
  - ・日本サービス大賞 選考専門委員
  - ・放送大学「サービスサイエンス」 主任講師

氏名	奥島 真一郎	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学学位プログラム 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	国際総合学類 専任 社会工学類 兼任		
研究分野	環境経済学、エネルギー経済学、環境倫理		

## 1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 環境政策論（国際総合学類開講社会工学類共通）/国際学Ⅳ（専門導入科目）/国際学ゼミナールⅠ（国際総合学類）/独立論文（国際総合学類）/国際学ゼミナールⅡ（国際総合学類）/卒業論文（国際総合学類）

大学院 経済・政策分析（社会工学学位プログラム）

◆ 指導学生数：

国際総合学類 6人/社会工学専攻 3人

## 2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学費基盤研究（B）「低炭素化・エネルギー転換の包摂性評価」（代表）

科研費基盤研究（C）「環境・エネルギーに関する多次元貧困指標の開発と政策分析」（代表、期間延長）

科研費基盤研究（B）「放射性廃棄物処分問題に関する社会科学的総合研究」（分担）

◆ 著書・論文等：

“Energy poverty in Japan: Current trends and future challenges”（共著）in C. Rubio-Bellido and J. Solis-Guzman (eds.) *Energy Poverty Alleviation: New Approaches and Contexts*. Switzerland; Springer Nature, January 2022, pp. 174-183.

“Regional energy poverty reevaluated: A direct measurement approach applied to France and Japan”（共著）*Energy Economics*, 102, October 2021, 105491.

「公平なエネルギー転換：気候正義とエネルギー正義の観点から」（共著）小端拓郎・国立環境研究所編『都市の脱炭素化』、大河出版、2021年10月、pp.139-150.

“Energy poor need more energy, but do they need more carbon?: Evaluation of

people' s basic carbon needs” (単著) *Ecological Economics*, 187, September 2021, 107081.

“Prevalence of energy poverty in Japan: A comprehensive analysis of energy poverty vulnerabilities” (共著) *Renewable and Sustainable Energy Reviews*, 145, July 2021, 111006.

◆ 学会発表等：

「気候正義（気候倫理）とエネルギー正義：理論と実証」一橋大学経済研究所共同利用共同研究拠点事業プロジェクト研究「気候正義問題下の経済システム論」第2回研究会、2021年8月6日。

### 3. 学内運営

◆ 学位プログラム等組織の業務への貢献（委員会等）：

総合学域群第I類 5クラス担任

国際総合学類カリキュラム委員

国際総合学類シス情 TA 担当委員

大学院専攻広報委員

システム情報研究群広報委員

### 4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

Research Fellow, Asian Energy Studies Centre, Hong Kong Baptist University

一橋大学経済研究所共同利用共同研究拠点事業プロジェクト研究「気候正義問題下の経済システム論」メンバー

日本政策学生会議（ISFJ）論文審査員



氏名	作道真理	職名	准教授
学位プログラム（博士後期課程）	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム（博士前期課程）	社会工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	応用計量経済学		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：  
学類 線形代数1/公共システム演習/実証ミクロ経済学  
大学院 ミクロ計量経済学
- ◆ 指導学生数：  
社会工学類 4人  
社会工学専攻 3人

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：

科研費基盤研究C 課題番号 17K03748, 研究代表者  
TCER 特別プロジェクト研究助成, 研究代表者  
KIER 経済研究財団研究助成, 研究代表者  
ゆうちょ研究助成, 研究代表者  
TCER 個人研究助成, 研究代表者

- ◆ 著書・論文等：

“Seemingly Unrelated Interventions: Environmental Management Systems in the Workplace and Energy Saving Practices at Home,” with Toshi H. Arimura, Kazuyuki Iwata, and Hajime Katayama, *Environmental and Resource Economics*, Volume 80, Issue 4, December 2021, pp.761-794.

“Subjective Probabilistic Expectations, Household Air Pollution, and Health: Evidence from Cooking Fuel Use Patterns in West Bengal, India,” with Mriduchhanda Chattopadhyay, Toshi H. Arimura, Hajime Katayama, and Hide-Fumi Yokoo, *Resource and Energy Economics*, Volume 66, November 2021.

- ◆ 学会発表等：  
(招待講演) “Seemingly Unrelated Interventions: Environmental Management Systems in the Workplace and Energy Conservation Behaviors at Home,” 大阪大学経済学研究会 侍兼山セミナー, 2022年1月27日.  
(招待講演) “An Estimated Model of Social Norms in the Workplace,” 第22回ノンパラメトリック統計解析とベイズ統計研究会, 中央大学後楽園キャンパス (ハイブリッド形式), 2022年3月26-27日.
  
- ◆ その他：

### 3. 学内運営

- ◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献：  
国際戦略会議委員  
全学入試委員
  
- ◆ 学位プログラム等組織の業務への貢献  
(委員会等)：学類入試委員  
担任2年生  
新入生オリエンテーション委員  
数理・教育DS運営委員

### 4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：

## 社会工学域アニュアルレポート（2021年度分）

氏名	澤 亮治	職名	准教授
学位プログラム（博士後期課程）	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム（博士前期課程）	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	進化ゲーム理論、協力ゲーム、行動ゲーム理論		

### 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：  
学類 経済学の数理/社会工学実習/ゲーム論  
大学院 ゲーム理論/ミクロ経済学
- ◆ 指導学生数：  
社会工学類 4人  
社会工学学位プログラム（前期）5人 （後期）1人

### 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：  
科学研究費 若手研究「社会選択問題への進化ゲーム理論的アプローチ」（代表）  
課題番号：18K12740  
公益財団法人野村財団 社会科学研究助成「行動経済学の知見を利用した進化ゲーム理論による均衡選択分析」  
公益財団法人 KIER 経済研究財団研究助成「統計的推論を行うプレイヤーを考慮した進化動学」  
公益財団法人東京経済研究センター「進化動学に関する共同プロジェクトへの助成」
- ◆ 著書・論文等：  
Sawa, Ryoji, “A stochastic stability analysis with observation errors in normal form games”, Games and Economic Behavior, Vol.129, pp.570-589, 2021. (SJR: 2.29, SNIP: 1.25, IF: 1.29)  
小池 淳平, 澤 亮治: 有限オートマトンを用いた私的観測繰り返しゲームにおける進化的安定戦略分析, 情報処理学会論文誌, Vol.63, No.3, pp.773-786, 2022年3月.
- ◆ 学会発表等：
- ◆ その他：

### 3. 学内運営

- ◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献：

- ◆ 学位プログラム等組織の業務への貢献（委員会等）：  
社会工学・サービス工学両学位プログラムカリキュラム委員会委員  
社会工学類卒研配属マッチング委員会委員長  
社会工学類 4 年生担任

#### 4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：

氏名	高野 祐一	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	数理最適化 金融工学 機械学習		

## 1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 会計と経営／ファイナンス／マーケティング／数理工学モデル化演習／問題発見と解決

大学院 資産評価論／技術経営

◆ 指導学生数：

社会工学類 5人

社会工学学位プログラム (博士前期課程) 7人

社会工学学位プログラム (博士後期課程) 1人

## 2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 科学研究費 基盤研究 (C) 「混合整数最適化による次元縮約法の最良スパース推定」 (代表)
2. 科学研究費 基盤研究 (B) 「大規模データ時代のネットワーク最適化に対する実応用に向けた説得力のある手法開発」 (分担)
3. 科学研究費 基盤研究 (C) 「プロジェクトの見積り戦略と遂行体制・契約方式の研究」 (分担)
4. 科学研究費 挑戦的研究 (開拓) 「走行税課金による道路インフラ維持管理－EV 化と車両認証のデジタル時代を迎えて－」 (分担)
5. 科学研究費 基盤研究 (B) 「ロバストなデータ解析のための最適化モデリングの深化」 (分担)
6. 科学研究費 基盤研究 (B) 「錐最適化における半正定値錐の多面錐近似の理論の構築とその応用」 (分担)
7. 科学研究費 基盤研究 (A) 「機械学習システムの社会実装に向けた次世代最適化技法の研究」 (分担)
8. 共同研究 (株式会社ルリアン) 「相続工学に関する共同研究」 (分担)

◆ 著書・論文等：

1. 河上佳太, 工藤晃太, 川瀬元暉, 最首大輝, 山田直輝, 吉田晏大, 岩永二郎, 高野祐一: ランキング手法を用いたフィットネスクラブの分析. オペレーションズ・リサーチ: 経営の科学, 67 (2022), 73--80.
2. K. Kobayashi, Y. Takano, and K. Nakata: Bilevel cutting-plane algorithm for cardinality-constrained mean-CVaR portfolio optimization. Journal of Global Optimization, 81 (2021), 493--528.
3. K. Zhang, Y. Takano, Y. Wang, and A. Yoshise: Optimizing the strategic decisions for one-way station-based carsharing systems: A mean-CVaR approach. IEEE Access, 9 (2021), 79816--79828.
4. H. Saishu, K. Kudo, and Y. Takano: Sparse Poisson regression via mixed-integer optimization. PLOS ONE, 16 (2021), e0249916.
5. 河上佳太, 西村直樹, 白鳥友風, 工藤晃太, 松岡雄大, 最首大輝, 渡邊彰久, 高野祐一: 時間付加グラフのベクトル表現を用いたタクシー軌跡データの解析. オペレーションズ・リサーチ: 経営の科学, 66 (2021), 246--254.

◆ 学会発表等:

1. A. Watanabe, R. Tamura, Y. Takano, and R. Miyashiro: Branch-and-bound algorithm for optimal sparse canonical correlation analysis. INFORMS 2021 Annual Meeting, Online, October 24--27, 2021.
2. 最首大輝, 工藤晃太, 高野祐一: 切除平面法による Cox 比例ハザードモデルの特徴選択. 研究集会「最適化: モデリングとアルゴリズム」, 政策研究大学院大学 (ハイブリッド開催), 2022年3月22日~23日.
3. 高野祐一, 宮代隆平: 混合整数最適化による線形回帰モデルの最良変数選択. 科研費「機械学習システムの社会実装に向けた次世代最適化技法の研究」2021年度シンポジウム, オンライン開催, 2021年9月1日.

◆ その他:

1. 高野祐一: 筑波大学 若手教員奨励賞. 2021年11月1日.

### 3. 学内運営

◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献:

1. 人工知能科学センター構成員
2. 全学学群教職課程委員

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等):

1. 社会工学類カリキュラム委員
2. 社会工学データサイエンス委員
3. 社会工学/サービス工学学位プログラム広報委員

#### 4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

1. 日本オペレーションズ・リサーチ学会 数理計画（RAMP）研究部会 幹事
2. 日本オペレーションズ・リサーチ学会 機関誌編集委員

氏 名	フ ン ド ッ ク トゥアン	職 名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	サービス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	応用確率論, 応用確率過程, システムのモデル化・性能評価		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：  
応用確率論, 社会工学演習, 社会と最適化, 情報ネットワーク, 社会工学のための数学
- ◆ 指導学生数：12  
社会工学類 4人  
社会工学専攻 8人 (博士後期課程 1名, 修士課程 7名)

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：  
2018年4月～2022年3月：研究課題番号：18K18006 学術振興会・若手研究, 研究課題「処理能力可変型待ち行列システムの理論的深化と省エネデータセンターへの応用」**代表**  
  
2021年4月～2024年3月：研究課題番号：21K11765 日本学術振興会/科研費 基盤研究(C), 研究課題「理能力可変型待ち行列モデルの理論的発展と大規模省エネデータセンターへの応用」**代表**
- ◆ 著書・論文等：  
※査読付学術雑誌掲載論文、著書（専門書）、解説論文・総説論文などの実績  
編集論文誌特集号・編著書
  1. Phung-Duc, T., Ed., Special Issue of Annals of Operations Research on Queues and Related Stochastic Models, Annals of Operations Research, Vol. 310, No. 2, 2022.
  2. Ballarini, P. Castel, H., Dimitriou, I., Iacono, M., Phung-Duc, T. and Walraevens J., Performance Engineering and Stochastic Modeling: 17th European Workshop, EPEW 2021, and 26th International Conference, ASMTA 2021, Virtual Event, December 9--10 and December 13--14, 2021, Proceedings. Lecture Notes in Computer Science LNCS 13104, Springer, Cham, 2021.



査読付き論文 (学術雑誌掲載論文, 国際会議論文, 専門書の章)

1. Phung-Duc, T., Akutsu, K., Kawanishi, K., Salameh, O. and Wittevrongel, S., “Queueing Models for Cognitive Wireless Networks with Sensing Time of Secondary Users,” *Annals of Operations Research*, Vol. 310, No. 2, pp. 641–660, 2022.
2. Nakamura, A., Phung-Duc, T. and Ando, H., “Queueing Analysis of a Car/Ride-Share System,” *Annals of Operations Research*, Vol. 310, No. 2, pp. 661–682, 2022.
3. Akutsu, K., Phung-Duc, T., Lai, Y.-C. and Lin, Y.-D., “Analyzing Vertical and Horizontal Offloading in Federated Cloud and Edge Computing Systems,” *Telecommunication Systems*, Vol. 79, No. 3, pp. 447–459, 2022.
4. Nazarov, A., Phung-Duc, T., Paul, S. and Lizura, O., “Diffusion Limit for Single-Server Retrial Queues with Renewal Input and Outgoing Calls,” *Mathematics*, Vol. 10, No. 6, Article no. 948, 2022.
5. Nguyen, Q. H. and Phung-Duc, T., “Mixture Density Networks as a general framework for estimation and prediction of waiting time distributions in queueing systems,” *Proc. of EPEW2021, Lecture Notes in Computer Science, LNCS 13104*, pp. 148–161, 2021, Springer, Cham.
6. Sato, M., Kawamura, K., Kawanishi, K. and Phung-Duc, T., “Performance Models of NFV-based Hybrid Systems for Delay-sensitive Services,” *Proc. of ASMTA2021, Lecture Notes in Computer Science, LNCS 13104*, pp. 181–196, 2021, Springer, Cham.
7. Nakamura, A. and Phung-Duc, T., “Stationary Analysis of Infinite Server Queue with Batch Service,” *Proc. of ASMTA2021, Lecture Notes in Computer Science, LNCS 13104*, pp. 411–424, 2021, Springer, Cham.
8. Nazarov, A., Paul, S., Phung-Duc, T. and Morozova, M., “Analysis of tandem Retrial Queue with common orbit and Poisson arrival process,” *Proc. of ASMTA2021, Lecture Notes in Computer Science, LNCS 13104*, pp. 441–456, 2021, Springer, Cham.
9. Nakamura, A., Phung-Duc, T. and Ando, H., “Queueing Analysis of a Mixed Model of Public and Demand Responsive Transportations,” *Proc. of ASMTA2021, Lecture Notes in Computer Science, LNCS 13104*, pp. 457–471, 2021, Springer, Cham.
10. Nazarov, A. Paul, S., Phung-Duc, T. and Morozova, M., “Scaling limits of a tandem retrial queue with common orbit and Poisson arrival process,” In: Vishnevskiy V.M., Samouylov K.E., Kozyrev D.V. (eds) *Distributed Computer and Communication Networks: Control, Computation, Communications. DCCN 2021*.

- Lecture Notes in Computer Science, LNCS 13144, pp. 240--250, 2021, Springer, Cham.
11. Makino, Y., Phung-Duc, T. and Machida, F. (2021), "A Queueing Analysis of Multi-model Multi-input Machine Learning Systems," Proceedings of The 4th DSN Workshop on Dependable and Secure Machine Learning (DSN-DSML'21), Taipei, Taiwan, 21 June 2021.
  12. Nazarov, A., Paul, S., Phung-Duc, T. and Morozova, M. (2021), "Scaling limits of a tandem retrial queue with common orbit and Poisson arrival process," Proceedings of 24th International Conference on Distributed Computer and Communication Networks: Control, Computation, Communications (DCCN 2021), pp. 315--321, Moscow, Russia, September 20-24, 2021.
  13. Le, A.-T. and Phung-Duc, T., "Performance Analysis for Threshold-Based N-Systems with Heterogeneous Servers," Proceedings of 11th International Conference on Operations Research and Enterprise Systems (ICORES 2022), pp. 137--144, Online, February 3-5, 2022.
  14. Machida, Y. and Phung-Duc, T., "A Queueing Analysis of Multi-Type Servers and Multi-Type Customers System Based on Gas Stations," Proceedings of 11th International Conference on Operations Research and Enterprise Systems (ICORES 2022), pp. 145--152, Online, February 3-5, 2022.
  15. Nguyen, Q. H. and Phung-Duc, T., "Queueing Analysis and Nash Equilibria in an Unobservable Taxi-Passenger System with Two Types of Passengers," Proceedings of 11th International Conference on Operations Research and Enterprise Systems (ICORES 2022), pp. 48--55, Online, February 3-5, 2022.
  16. Nakamura, A., Phung-Duc, T. and Ando, H., "Queueing Model of Circular Demand Responsive Transportation System: Theoretical Solution and Heuristic Solution," Proceedings of 11th International Conference on Operations Research and Enterprise Systems (ICORES 2022), pp. 193--199, Online, February 3-5, 2022.

査読なし雑誌論文 (招待有)

1. Phung-Duc, T., "Queues: Theory and Applications," *Newsletter of the Vietnamese Mathematical Society*, Vol. 25, Nos. 3-4, pp. 31--43, 2021. (ベトナム語).
2. 中村彩音, フンドックトゥアン, 安東弘泰, 道路渋滞を考慮した Car/Ride-Share システムの待ち行列解析, オペレーションズ・リサーチ: 経営の科学, Vol. 66, No. 9, pp. 583-590, 2021.

◆ 国際学会発表

1. T. Phung-Duc, “Queues: Theory and Applications,” 2021 Vietnam Operations Research Network Annual Meeting, Vietnam Institute for Advanced Study in Mathematics, Hanoi, Vietnam, 26-27 November, 2021.
2. K. Abe, T. Phung-Duc, “A diffusion limit of cognitive wireless networks with sensing time of secondary users,” 13th International Workshop on Retrieval Queues and Related Topics (WRQ 2021), December 6-8, 2021, India.
3. T. Phung-Duc, “Queues with Adjustable Service Speed: Exact and Asymptotic Solutions,” 13th International Workshop on Retrieval Queues and Related Topics (WRQ 2021), December 6-8, 2021, India (**Plenary**).
4. Nakamura, T. Phung-Duc and H. Ando, Queueing Analysis of Car/Ride-Share System, EURO21, July 11-14 2021.
5. Q. H. Nguyen and T. Phung-Duc Equilibria of supply and demand in double-ended queueing systems, EURO21, July 11-14 2021.
6. Y. Sakuma, O. Boxma and T. Phung-Duc, Moments for the stationary workload of an M/PH/1 queue with workload-dependent processing speed and vacations, EURO21, July 11-14 2021.

◆ 国内学会発表等：

1. Ayane Nakamura, Tuan Phung-Duc, Hiroyasu Ando, Queueing Analysis and Price Mechanism of Car/Ride-Share System Considering Road Congestion, 第37回(2020年度)待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」(Online), 報文集, pp.89-98, Online, 2021年1月25-27日.
2. Hung Q. Nguyen, Tuan Phung-Duc, Customer joining behavior and performance analysis of the airport taxi-passenger queue with two types of customers, 第37回(2020年度)待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」, 報文集 pp.69-78, Online, 2021年1月25-27日.
3. Hung Q. Nguyen; Tuan Phung-Duc, Mixture Density Networks (MDNs) as a general framework for estimation of waiting time distributions in queueing systems: Two case studies, 第37回(2020年度)待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」報文集 pp.130-131, Online, 2021年1月25-27日.
4. 巻野 侑大, Tuan Phung-Duc, 町田 文雄, マルコフ連鎖を用いた多モデル多入力型機械学習システムの性能評価, 第37回(2020年度)待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」報文集 pp.79-88, Online, 2021年-01月25-27日.
5. 川村 航平; Tuan Phung-Duc, 河西 憲一, 5G ネットワークのモデル化と性能解析, 第37回(2020年度)待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」報文集, pp.134-135,

Online, 2021年1月25-27日.

- ◆ その他：  
なし

### 3. 学内運営

- ◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献：
  - 日越大学委員：2021年4月～2022年3月
- ◆ 学位プログラム等組織の業務への貢献（委員会等）：
  - 学類オリエンテーション委員長：2021年10月～2022年9月
  - 学生・留学生相談委員：2021年4月～2022年3月
  - 大学院入試委員：2021年4月～2022年3月

### 4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：

#### 学術論文誌の編集員

1. Editor for KSII Transactions on Internet and Information Systems (Korean Society for Internet Information) from January 2013～ February 2022
2. Editor for Journal of Platform Technology (ICT Platform Society) from November 2013～現在
3. Associate Editor for Queueing Models and Service Management (QMSM) from May 2017～現在
4. Area Editor for EAI Transactions on Scalable Information Systems from May 2018～現在
5. Associate Editor for Journal of the Operations Research Society of Japan from June 2019～現在
6. Editor for MDPI Mathematics from March 2021～現在

#### 国際会議の実行委員長 (General Chair)

1. 17th European Performance Engineering Workshop (EPEW 2021)
2. The 26th International Conference on Analytical & Stochastic Modelling Techniques & Applications (ASMTA 2021)

#### 国際会議のプログラム委員 (Technical Program Committee)

1. 18th International Conference on Quantitative Evaluation of Systems (QEST 2021)

#### 国内学会・研究集会の委員

1. 第38回（2021年度）待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」 実行委員

氏名	八森 正泰	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	離散数学、組合せ論、トポロジー的組合せ論		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：  
学類 微積分2 / 微積分3 / 離散数学 / 囲碁で培う思考力  
大学院 離散数理
- ◆ 指導学生数：  
社会工学類 5人  
社会工学専攻 (前期課程) 2人  
社会工学専攻 (後期課程) 2人

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：  
科学研究費 基盤研究 (B) 「大規模データ時代のネットワーク最適化に対する実応用に向けた説明力のある手法開発」 (分担、代表：繁野麻衣子)  
基盤研究 (B) 「錐最適化における半正定値錐の多面錐近似の理論の構築とその応用」 (分担、代表：吉瀬章子)  
二国間交流事業共同研究 (ロシアとの共同研究) 「デジタル指紋符号、多重接続通信路、及び組合せ探索問題」 (分担、代表：繆瑩)
- ◆ 著書・論文等：  
Masahiro Hachimori, Sequential partitions of nonpure simplicial complexes, *Graphs and Combinatorics* 37 (2021), 1891-1904.
- ◆ 学会発表等：  
日本数学会 2021 年度秋季総合分科会, 千葉大学 (オンライン), 2021 年 9 月 14-17 日  
「Nonpure な単体的複体における分割可能性の階層」

## 3. 学内運営

- ◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献：  
全学計算機システム仕様策定委員  
全学計算機システム仕様策定 WG

- ◆ 学位プログラム等組織の業務への貢献  
(委員会等)：学類 コンピュータ委員，運営委員大学院 コンピュータ委員

#### 4. 学外の社会貢献委員

- ◆ 各種活動：  
Graphs and Combinatorics 誌 Editorial Board  
組合せ数学セミナー (COMA ゼミ) 幹事  
JCCA メーリングリスト&ホームページ管理

氏名	原田 信行	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	中小企業経済学、計量経済学		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：  
学類 統計学／金融論  
大学院 企業評価論
- ◆ 指導学生数：  
社会工学学位プログラム 2人

## 2. 研究

## 3. 学内運営

- ◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献：  
筑波大学 学生生活支援室室員
- ◆ 学位プログラム等組織の業務への貢献（委員会等）：社会工学学位プログラム 広報委員会委員社会工学類 広報委員会委員  
社会工学類 卒業生連絡委員会委員  
社会工学類 3年生クラス担任

氏名	藤井さやか	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	サービス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任 BPGI 講義担当		
研究分野	都市計画, 住環境整備, まちづくり法制		

## 1. 教育

### ◆ 担当授業科目：

- 学類 土地利用計画／住環境計画実習／現代まちづくり論／都市計画事例講義／設計演習Ⅰ・Ⅱ／Instruction for the Seminars on Global Issues A-II and the Practical Training on Global Issues A-II
- 大学院 プレイスメイキング／住環境計画論／社会工学ワークショップⅠ・Ⅱ／社会工学ファシリテーター育成プログラムⅠ・Ⅱ（国際交流ワークショップA・B／まちづくりワークショップファシリテーター研修）

### ◆ 指導学生数：

- 社会工学類 3人
- 社会工学学位プログラム 10人

## 2. 研究

### ◆ 当該年度の研究活動概要：

- 令和3年度科学研究費・基盤研究（B）（代表），「社会的包摂プログラムを組み込んだ外国人集住地区再生手法の実態と日本への適用」（18H01601）
- 令和3年度科学研究費・基盤研究（B）（分担）（代表平井太郎），「超高層住宅の「二重の老い」の乗り越えを目指す学際的・国際的研究」（20H01562）
- 令和3年度科学研究費・基盤研究（C）（分担）（代表大澤昭彦），「景観・市街地環境の保全・形成手法としての絶対高さ制限の評価に関する研究」（18K04484）
- 2021-2022年度学術指導・株式会社一条工務店（代表），「つくば市みどりの分譲地のまちづくり提案について」
- 2021年度筑波大学・社会工学commons・データバンクプロジェクト（代表），「国際交流ワークショップ・都市開発プロジェクトデータベース」

### ◆ 著書・論文等：

- 尾澤俊，藤井さやか： 私有空間を利用した住民運営型の高齢者交流拠点づくり促進策の成果と課題：地方小都市での取り組みに着目して，都市計画論文集，56-3，



pp.1253-1260, 2021. (査読有)

- 根本裕都, 藤井さやか, 佐野雅人, 鈴木勉, 雨宮護, 大澤義明: COVID-19による外出制限が人口流動に及ぼす影響:2020年4月の緊急事態宣言期間中のつくば市の事例分析, 都市計画論文集, 56-3, pp.1207-1214, 2021 (査読有)
- 島田由美子, 藤井さやか: 3世代世帯が多い地域における祖父母の子育て支援に関する研究—茨城県下妻市を事例として—, 生活学論叢, Vol.38, pp.1-15, 2021. (査読有)
- 五位野寛人, 藤井さやか: 都市農地における体験農園と子ども食堂の連携に関する研究, 日本生活学会第48回研究発表大会資料集, A4-1, pp.33-34, 2021-06. (査読無)
- 島田由美子, 藤井さやか: 3世代世帯が多い地域における祖父母の子育て支援に関する研究—茨城県下妻市を対象として—, 日本生活学会第48回研究発表大会資料集, D1-2, pp.79-80, 2021-06. (査読無)
- O' Neil MILLER, Sayaka FUJII: The Role of Tsukuba Science City in the Promotion of Scientific Achievements for Japan's Revitalization, 28th International Conference of Asian-Pacific Planning Societies, 2021-08-22. (抄録査読有) 【Best Paper Presentation Award 受賞】
- Jooho PARK, Sayaka FUJII: Study on Living Lab for Sustainable Smart City Coping with Population Aging in Korea, 28th International Conference of Asian-Pacific Planning Societies, 2021-08-22. (抄録査読有)
- Sayaka FUJII, Mamoru AMEMIYA, Kazuyoshi WATARI, O' neil MILLER: Campus Placemaking: Innovative Learning Space during/post Covid-19, EDRA52, 2021-05-21. (抄録査読有)
- 古塩政由, 木幡浩, 古川隆三郎, 都築淳也, 藤井さやか: 市長座談会 ロケ誘致で引き出す「地域の魅力」, 市政, No.71-3, pp.6-11, 2022-03. (査読無)
- 藤井さやか: 郊外住宅地の多機能化に向けた課題と展望—「小さな多機能化」による暮らしやすさの向上(特集 変容する郊外—郊外の捉えなおしとこれからの可能性)(多機能化する郊外), 都市計画, No.355, pp.50-54, 2022-03. (査読無)
- 藤井さやか: 筑波研究学園都市の土地利用転換と住民活動: 未利用地・公務員宿舎跡地等の住環境と景観の継承に向けて (特集 住環境の魅力を高める地域のマネジメント手法), 住宅, Vol. 70-5, pp.21-24, 2021-05. (査読無)
- 藤井さやか: 変容する大規模団地 (特集 大都市における都市住宅の量と配置を考える), 都市住宅学, No.113, pp.61-66, 2021-04. (査読無)
- 藤井さやか: 集まらない日々のなかでまちと個人の関わりをとらえ直す, 日本建築学会建築計画委員会住宅地計画小委員会編『魅力ある住宅地と伴走する人々—コロナ禍で見た集住の価値—』研究懇談会資料集, pp.35-38, 2021-09. (査読無)

◆ 学会発表等:

- パネリスト, 「集まらない日々のなかでまちと個人の関わりをとらえ直す」, 日本建

築学会建築計画委員会住宅地計画小委員会研究懇談会『魅力ある住宅地と伴走する人々—コロナ禍で見た集住の価値—』, 2021年9月10日, オンライン開催.

- **Speaker & Facilitator: Expectations for the Super Science City Project, Tsukuba Conference 2021, 2021.9.30. Online.**
- 講演, 「景観まちづくりを通じて地域コミュニティをはぐくむ—「亀沢らしい」まちづくりへ—」, 北斎通りまちづくりの会. 意見交換会, 2021年11月26日, 亀沢三丁目町会会館.
- 報告, 「のびのび過ごせる団地空間の魅力—団地内屋外空間の利用実態調査—」, 『UDCTak 報告会』, 2021年7月7日, オンライン開催.

### 3. 学内運営

- ◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献：
  - 全学：研究戦略室室員／欧州地域アドバイザーボード構成員／キャンパスマスタープラン検討WG委員／「総合科目」専門部会／ボーフム大学国際交流協定・連絡責任者として協定更新
- ◆ 学位プログラム等組織の業務への貢献（委員会等）：
  - 社会工学・サービス工学学位プログラム：運営委員会委員／カリキュラム委員会委員
  - 社会工学類：入試実施委員会委員／建築士受験資格運営委員会委員

### 4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
  - 日本都市計画学会学術委員会委員
  - 日本建築学会住宅地計画小委員会幹事／日本建築学会コロナWGオブザーバー
  - 日本不動産学会事業企画委員会委員
  - 土木学会景観・デザイン委員会委員
- ◆ 講師等：
  - 講演・パネリスト, 「7章 移民大国になりつつある日本の多文化共生への道筋」, 『ネオリベリズム都市と社会格差』出版記念シンポジウム, 2021年3月15日, オンライン開催.
  - コーディネーター, 「市政・市長座談会 市民と進める本に親しむ地域づくり」, 2021年1月12日, オンライン開催.
  - 講演, 「結城のまちづくりの経緯と景観の現況」『結城市伝統的建造物群保存調査報告会』, 2020年9月13日, 結城市市民情報センター.
- ◆ 学外委員：
  - 内閣府総合特別区域評価・調査検討会委員／内閣府総合特別区域の専門家評価検討会委員

- 国土交通省国土政策局地域振興課地域づくり表彰審査会委員／国土技術政策総合研究所評価委員会第二部会委員／国土技術政策総合研究所技術提案評価審査会委員／国土交通省総合技術開発プロジェクト「成熟社会に対応した郊外住宅市街地の再生技術の開発」技術開発検討会委員
  - 東京都開発審査会委員／茨城県都市計画審議会委員／茨城県開発審査会委員／茨城県島名・福田坪特定土地区画整理審議会／茨城県上河原崎・中西特定土地区画整理審議会／千葉県県土整備公共事業評価審議会委員／柏都市計画事業柏北部中央地区一体型特定区画整理審議会委員
  - 板橋区都市計画審議会委員／板橋区老朽建築物等対策協議会副会長／アーバンデザインセンター高島平専門アドバイザー／墨田区都市計画審議会委員／墨田区都市計画審議会高度地区特例の認定及び許可に係る専門部会専門委員／墨田区建築審査会委員／大田区まちづくり認定審査会副会長／目黒区都市計画審議会委員／目黒区都市計画審議会都市計画 MP 部会委員／目黒区景観審議会委員
  - つくば市大規模事業評価委員会委員／つくば市公有地利活用方策検討会常任委員／つくば市都市計画課まちづくり専門家アドバイザー／つくば市スマートシティ協議会インフラ・都市デザイン分科会つくば中心市街地スマートプランニング研究体メンバー
  - 土浦市第9期総合企画審議会副会長／土浦市公共施設等総合管理計画策定委員会副会長／40) つくばみらい市総合計画審議会委員／鹿嶋市共創のまちづくり委員会委員長／柏市紛争調停委員会委員／八潮市公共施設マネジメント推進委員会副委員長
  - 国立研究開発法人建築研究所研究評価委員会住宅・都市分科会委員／国立研究開発法人建築研究所研究業績評価員
- ◆ その他
- 全国建築審査会貢献表彰，第68回全国建築審査会協議会，2021年10月28日。

氏名	山本 幸子	職名	准教授
学位プログラム（博士後期課程）	環境科学学位プログラム	専任	
	社会工学学位プログラム	兼任	
学位プログラム（博士前期課程）	環境科学学位プログラム	専任	
	社会工学学位プログラム	兼任	
担当学類	社会工学類	専任	
研究分野	建築計画，地域計画		

## 1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 住環境計画実習／設計演習Ⅱ／住環境計画概論／都市計画入門

大学院 住環境計画論／社会工学ワークショップⅠ・Ⅱ／社会工学ファシリテーター育成プログラムⅠ・Ⅱ／社会工学ファシリテーター育成プレプログラムⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ／  
Environmental Analysis and Planning／Introduction to Environmental Sciences／  
Exercises in Environmental Sciences

◆ 指導学生数：

社会工学類 3人

社会工学専攻 10人

## 2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- 1) 科学研究費基盤研究 B, 代表者：中園真人，中山間・島嶼地域における新たな運営主体による高齢者通所介護施設整備の展開可能性
- 2) 石岡市受託研究，代表者：藤川昌樹，研究題目：石岡市看板建築及び里山景観等調査研究
- 3) 関彰商事株式会社共同研究，代表者：大澤義明，研究題目：茨城版SDGsを推進する産学研究
- 4) 株式会社ルリアン共同研究，代表者：大澤義明，研究題目：相続工学に関する共同研究

◆ 著書・論文等：

- 1) 山本幸子，三島幸子，中園真人：木造民家を活用した高齢者通所介護施設の空間用途構成に関する研究（その1）：民家の平面構成と主用途の空間配置，日本建築学会計画系論文集，第793号，pp.521-532，2022.3
- 2) 福山夏映，山本幸子：現代建築への茅葺きの導入可能性に関する研究-神戸の茅葺き職人による施工事例を対象として-，日本建築学会技術報告集，pp.380-304，2022.2

- 3) 中園真人, 三島幸子, 山本幸子: 大規模高齢者通所介護施設における主室の用途構成と使われ方, 日本建築学会計画系論文集, 第 782 号, pp. 1212-1223, 2021.4

◆ 学会発表等:

- 1) 歌代友哉, 山本幸子: 木造公共建築の用途と建築規模による特徴把握と実現手法の分析 新建築掲載事例を対象として, 日本建築学会大会(東海) 学術講演会梗概集, pp.399-400, 2021.9
- 2) 稲石溪太, 山本幸子: 既存建築を活用した自立高齢者地域支援拠点の運営形態と平面構成-土浦市「生きがい対応型デイサービス事業」を対象として-日本建築学会大会(東海) 学術講演会梗概集, pp.765-766, 2021.9
- 3) 福山夏映, 山本幸子: 現代の茅葺き構法に関する研究-兵庫県神戸市の事例を対象として-, 日本建築学会大会(東海) 学術講演会梗概集, pp.447-448, 2021.9

◆ その他:

- 1) 「農村地域での研究・教育と実践」, 中国鉱業大学講演(オンライン), 2022年3月15日
- 2) つくばみらい市みらい平センタースタートアップイベント, パネルディスカッション パネラー(つくばみらい市), 2021年12月4日
- 3) 「つくばの地域づくり」, 根本健一展講演会(つくば市吉瀬), 2021年8月21日
- 4) 「八郷の魅力を活かした地域づくり」, えんじゅトークサロン(石岡市八郷), 2021年5月22日

### 3. 学内運営

- ◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献:
- ◆ 専攻組織の業務への貢献(委員会等):
  - 1) 社会工学類カリキュラム委員
  - 2) 社会工学学位プログラム施設委員
  - 3) 社会工学類建築士受験資格運営委員会委員

### 4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

- 1) 行方市過疎地域持続的発展計画策定検討委員会委員
- 2) 国土技術政策総合研究所技術提案評価審査会委員
- 3) 石岡市協働のまちづくり推進委員会
- 4) 茨城県古民家活用合同研究会座長
- 5) 石岡市景観調査委員会委員
- 6) 土浦市空家等対策協議会委員長
- 7) 石岡市空家等対策協議会委員
- 8) 石岡市都市計画審議会委員
- 9) つくば市ホテル等建築審議会委員
- 10) 日本建築学会住まい・まちづくり支援建築会議支援事業部会委員
- 11) 日本建築学会農村計画本委員会委員
- 12) 日本建築学会住宅系研究報告会運営代表幹事

氏名	和田 健太郎	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム, サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	交通工学, 土木計画学		

## 1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 交通計画, 都市計画演習, 都市数理, 線形代数3  
大学院 モビリティイノベーションの社会応用

◆ 指導学生数：

社会工学類 2名  
社会工学学位プログラム 2名

## 2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

日本学術振興会 科学研究費助成事業

- 高速道路の単路部ボトルネック現象に対する交通流理論の構築と制御手法の開発, 基盤研究 (C) (研究代表)
- 走行税課金による道路インフラ維持管理—EV化と車両認証のデジタル時代を迎えて—, 挑戦的研究 (開拓) (分担, 代表者: 大澤義明)
- MaaS+CV時代の次世代交通システムに向けたインフラと制度の設計, 基盤研究 (A) (分担, 代表者: 井料隆雅)
- バイオミメティクスに学ぶスマートな都市退化マネジメント, 基盤研究 (B) (分担, 代表者: 谷口守)
- 交通渋滞マネジメントのためのビリーフデザインアプローチ, 基盤研究 (B) (分担, 代表者: 福田大輔)
- 交通・物流システム効率化のための市場型マッチング・システムの設計・評価法構築, 基盤研究 (B) (分担, 代表者: 赤松隆)

その他

- AI計算リソースとしての実交通ダイナミクスの活用技術の開発, 科学技術振興機構 (JST) 未来社会創造事業 (探索型) (研究開発参加者, 代表者: 安東弘泰)

◆ 著書・論文等：

査読付学術雑誌掲載論文

- 和田健太郎：動的交通均衡配分理論の近年の進展，土木学会論文集 D3（土木計画学），Vol.76, No.5, I\_21-I\_39, 2021.（招待論文）
- Takashi Akamatsu, Kentaro Wada, Takamasa Iryo and Shunsuke Hayashi: A new look at departure time choice equilibrium models with heterogeneous users, Transportation Research Part B: Methodological, Vol.148, pp.152–182, 2021.
- Koki Satsukawa, Kentaro Wada, David Watling: Dynamic system optimal assignment with atomic users: Convergence and stability, Transportation Research Part B: Methodological, Vol.155, pp.188–209, 2022.
- 和田健太郎, 甲斐慎一郎, 堀口良太：高速道路サグ・トンネル部における渋滞発生後捌け交通量を改善する走行挙動，交通工学論文集, Vol.8, No.2, pp.A\_1–A\_8, 2022.

著書

- Kentaro Wada, Toru Seo and Yasuhiro Shiomi: Bottleneck, In: Vickerman, R. (Ed.), International Encyclopedia of Transportation, Vol.4, pp.134–142, Elsevier, 2021.
- Kentaro Wada, Toru Seo and Yasuhiro Shiomi: Flow Breakdown, In: Vickerman, R. (Ed.), International Encyclopedia of Transportation, Vol.4, pp.143–153, Elsevier, 2021.

◆ 学会発表等：

国内学会

- 岩見悠太郎, 和田健太郎：テレワークおよび時間集積の経済・不経済を考慮した通勤均衡モデル，土木計画学研究・講演集, Vol.63, PS1-3 (CD-ROM), 2021.
- 板橋昂汰, 和田健太郎：出発時刻選択とモード選択を考慮したタンデムボトルネックにおける動的交通量配分，土木計画学研究・講演集, Vol.63, PS1-5 (CD-ROM), 2021.
- 金崎圭吾, 和田健太郎：連続体交通流理論に基づく高速道路サグ部における渋滞発生現象の解析，土木計画学研究・講演集, Vol.63, PS1-6 (CD-ROM), 2021.
- 岸川知樹, 和田健太郎：高速な連結・解結を前提とした新たな高頻度鉄道運行スキーム，土木計画学研究・講演集, Vol.63, PS1-11 (CD-ROM), 2021.
- 和田健太郎, 甲斐慎一郎, 堀口良太：単路部ボトルネックにおける Capacity Drop を低減する走行挙動：連続体交通流理論に基づく一考察，交通工学研究発表会論文集, Vol.41, pp.511–517, 2021.
- 甲斐慎一郎, 和田健太郎, 堀口良太：連続体交通流理論に基づく追従モデルによる Capacity Drop 現象の再現，土木計画学研究・講演集, Vol.64, 38-03 (CD-ROM), 2021.



- **和田健太郎**, 渡邊大樹, 周毅愷, 赤松隆:シェア型自動運転車のための通行権取引制度の自律分散的なインプリメンテーション, 土木計画学研究・講演集, Vol.64, 21-01 (CD-ROM), 2021.
- 重見陸斗, 安東弘泰, **和田健太郎**: 車両検知器データを活用した線形モデルによる高速道路の渋滞発生予測, 複雑コミュニケーションサイエンス研究会, No.17, 2021.

◆ その他:

解説

- 佐津川功季, **和田健太郎**: 動的ネットワーク交通流解析と確率進化ゲーム理論, 第 33 回 RAMP シンポジウム論文集, pp.15-32, 2021. (招待論文)

受賞 (指導学生も含む)

- 研究奨励賞, 第 41 回交通工学研究発表会, 2021 年 8 月.
- 板橋昂汰, 優秀ポスター賞, 土木計画学研究委員会, 2021 年 6 月.
- 岸川知樹, 優秀同窓会賞, 筑波大学社工 都市計画同窓会, 2022 年 2 月.
- 岸川知樹, 理工学群長表彰, 筑波大学, 2022 年 3 月.
- 岸川知樹, 倉谷賞, 筑波社工会, 2022 年 3 月.
- 岸川知樹, つくばスカラシップ (大学院進学奨励奨学金), 筑波大学, 2022 年 3 月.

### 3. 学内運営

- ◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献:
  - 障害学生連絡窓口教員
- ◆ 学位プログラム等組織の業務への貢献 (委員会等):
  - 社会工学/サービス工学学位プログラム 入試実施委員会
  - 社会工学類 入試実施委員会
  - 社会工学類 2 年生クラス担任

### 4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動:
  - Editorial Board, International Journal of Intelligent Transportation Systems Research
  - 委員, 鉄道事業の事業評価に係る勉強会, 運輸総合研究所
  - 委員, JSTE シンポジウム運営小委員会, 交通工学研究会
  - 委員, 高速道路における交通ビッグデータの活用に関する調査研究会, 高速道路調査会
  - 副会長, 筑波山周辺渋滞対策協議会, 茨城県

- 委員, 学術小委員会, 土木計画学研究委員会
- 委員, 今後の交通管制のあり方に関する調査研究に係る検討委員会, UTMS 協会
- 委員, 国道 6 号小美玉道路検討会, 国土交通省関東地方整備局
- 委員, 新規出版企画委員会, 交通工学研究会
- 委員, 首都高の将来料金等研究会, 首都高速道路株式会社
- 委員, 第 20 回 ITS シンポジウム 2022 プログラム委員会, ITS Japan

(以上)

氏名	阿武秀和	職名	助教
学位プログラム(博士後期課程)	社会工学学位プログラム		
学位プログラム(博士前期課程)	社会工学学位プログラム、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	ミクロ経済学、マーケットデザイン		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：ミクロ経済学, 経済学の数理(以上、学類)、ミクロ経済学, ゲーム理論(大学院)
- ◆ 指導学生数：学類2名、大学院修士3名

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 

科学研究費 若手研究「公平な複数財配分の研究」(研究代表者)
- ◆ 著書・論文等：
 

A Unified Approach to Strategy-proofness of the Deferred-acceptance Rule and the Top-trading Cycles Rule (joint with Sui Takahashi), *Review of Economic Design*, Published online 2021 November 09.

A Decomposition of Strategy-proofness in Discrete Resource Allocation Problems (joint with Sui Takahashi), *Economics Bulletin*, Vol.42 No.1 pp. 49-59, February 20, 2022.

## 3. 学内運営

- ◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献：なし
- ◆ 学位プログラム等組織の業務への貢献(委員会等)：研究室配属マッチング委員、教学マネジメント委員会(授業評価アンケート担当)

## 4. 学外の社会貢献

なし

氏名	牛島 光一	職名	助教
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	応用計量経済学 (開発、教育、健康)		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：  
学類：統計学／都市経済学／都市数理／都市・地域科学演習  
大学院 経済・政策分析
- ◆ 指導学生数：  
社会工学類：5名  
社会工学専攻：修士6名

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
  1. 科学研究費 基盤研究 (B)「市場統合の経済効果とその経路依存性に関する研究—明治期の鉄道網建設を例として—」(代表)
  2. 科学研究費 挑戦的研究 (萌芽)「経済学の実証研究における衛星画像と機械学習の応用—アフリカの開発政策を事例に—」(代表)
  3. 科学研究費 基盤研究 (B)「交通と環境に関する新経済地理学的基盤研究」(分担者)
  4. 科学研究費 基盤研究 (A)「子どもの人的資本に係る科学的根拠の創出と実装：官学協働による政策評価過程の開発」(分担者)
  5. 科学研究費 基盤研究 (C)「都市における環境リスクの軽減の経済効果に関する研究」(分担者)
- ◆ 著書・論文等：
  1. K. Ushijima: The Impact of a Universal Health Scheme on Precautionary Savings: Evidence from Thailand, Economic Development and Cultural Change, 63(3):1203-1237, 2021. (online published in 2019)
- ◆ その他：

[研究会オーガナイザー]

  1. 社会工学データサイエンスセミナー(EBPM シリーズ第3回), 講演者: 島田貴仁 (科学警察研究所室長, 於: オンライン, 2021年9月16日)
  2. 社会工学データサイエンスセミナー(機械学習シリーズ), 講演者: 落合治 (宇宙航空

研究開発機構主幹，於：オンライン，2021年7月21日)

3. 社会工学データサイエンスセミナー(機械学習シリーズ)，講演者：日野英逸(統計数理研究所教授，於：オンライン，2021年6月29日～30日)
4. 社会工学データサイエンスセミナー(EBPMシリーズ第2回)，講演者：林岳彦(国立環境研究所主任研究員，於：オンライン，2021年6月24日)
5. 社会工学データサイエンスセミナー(EBPMシリーズ第1回)，講演者：青柳恵太郎(株式会社メトリクスワークコンサルタンツ代表取締役，於：オンライン，2021年6月3日)
6. 画像認識概論セミナー，講演者：藤吉弘亘(中部大学教授，於：オンライン，2021年5月7日)

### 3. 学内運営

- ◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献：
  - 福利厚生委員(全学)
  - [サークル顧問] FreeEducation(教育ボランティアサークル)
- ◆ 学位プログラム等組織の業務への貢献(委員会等)：
  - 就職委委員
  - 都市計画主専攻4年生担任
  - 社会工学データサイエンス・ケースバンクプロジェクト委員

### 4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：

氏名	EOM SUNYONG (嚴先鏞)	職名	助教
専攻 (博士後期課程)			
専攻 (博士前期課程)	社会工学学位プログラム (分担)		
担当学類	地球規模課題学位プログラム (学士) (専任)		
研究分野	都市解析, 空間情報科学, 土地利用計画, ビッグデータ解析		

## 1. 教育

◆ 担当授業科目：

【社会工学類】 都市解析

【地球規模課題学位プログラム (学士)】

Freshman Seminar, General Introduction to Global Issues,

Methodology for Global Issues, Literacy in Global Issues (Environment)

Seminars on Global Issues A-I/A-II, Practical Training on Global Issues A-I/A-II

Graduation Research I/II

## 2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

日本学術振興会科学研究費 (若手研究) 「土地利用・施設・交通計画の連携のための生活の利便性に基づいた計画支援手法の開発」 (代表)

東京大学空間情報科学研究センター共同研究 「都市の拠点集約と拠点間ネットワークの空間分析」

◆ 著書・論文等：

西堀泰英, 加藤秀樹, 嚴先鏞, 豊木博泰, 佐々木邦明: Wi-Fi パケットセンサーデータを用いたコロナ禍における中心市街地の人々の活動分析, 交通工学論文集, Vol.8, No.2, pp.B\_53-B\_62, 2022年2月.

L. Yang, S. Eom, and T. Suzuki, Measuring railway network performance considering accessibility levels in cities worldwide. Journal of Transport Geography, Vol.96(October), 103211. October 2021. IF:4.986

西堀泰英, 嚴先鏞, 佐々木邦明, 加藤秀樹: 交通ビッグデータを用いた地方都市中心市街地の人出等に対する COVID-19 感染拡大防止対策の影響分析, 都市計画論文集, Vol.56, No.3, pp.834-841, 2021年10月.

西堀泰英, 嚴先鏞, 佐々木邦明, 加藤秀樹: 交通ビッグデータを用いた地方都市中心市街地の人出等に対する COVID-19 感染拡大防止対策の影響分析, 都市計画論文集, Vol.56, No.3, pp.834-841, 2021年10月.

長谷川大輔, 嚴先鏞: ダイヤの接続性を考慮した地域公共交通網の性能評価手法に関する

研究, 都市計画論文集, Vol.56, No.3, pp.532-538, 2021 年 10 月.

定梶圭, 嚴先鏞, 鈴木勉: 施設集積に基づいた鉄道駅の類型化と拠点性に関する研究, 都市計画論文集, Vol.56, No.2, pp.397-402, 2021 年 10 月.

S. Eom, M. Jang, and N.-S. Ji, Human Mobility Change Pattern and Influencing Factors during COVID-19, from the Outbreak to the Deceleration Stage: A Study of Seoul Metropolitan City. *The Professional Geographer*, Vol.74, No.1, 1-15, September 2021. IF:2.383

宋蕙丞, 嚴先鏞: 生活インフラ徒歩拠点配置モデルの構築と評価: ソウル市道峰区を対象に (Development and Evaluation of Walking Core Allocation Model of Living Infrastructure: Case Study of Dobong-gu, Seoul), 国土計画, Vol.56, No.4, pp.74-87, 2021 年 5 月 (韓国語).

西堀泰英, 嚴先鏞: 中山間地における自動運転に対応した道路空間整備延長の分析~整備優先順位設定手法の検討~, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), Vol.76, No.5, pp. I\_937-I\_944, 2021 年 4 月.

H. Chang, S. Eom, Y. Makido, and D. Bae, Landscape and meteorological factors affecting flood damage in South Korea: A spatial approach, *Journal of Extreme Events*, 215001, pp1-23, April 2021.

K. Matsumoto, Y. Nakamine, S. Eom, and H. Kato, Demographic, social, economic, and regional factors affecting the diffusion of hybrid electric vehicles in Japan. *Energies*, Vol.14, No.8, April 2021.

◆ 学会発表等:

S. Eom, and E. Byun, Local Resource Allocation Model for Quarantine Facility in Response to Infectious Diseases, 2021 年度 東京大学空間情報科学研究センター全国共同利用研究発表大会 (CSIS DAYS 2021), 2021 年 11 月. (オンライン)

佐野雅人, 嚴先鏞, 鈴木勉: 広域サービス圏の分布から見た圏域の空間単位, 2021 年度 東京大学空間情報科学研究センター全国共同利用研究発表大会 (CSIS DAYS 2021) 2021 年 11 月. (オンライン)

嚴先鏞, 長谷川大輔, 相尚寿: 滞在人口から見た商業集積地区における活性度の評価, 地理情報システム学会講演論文集, 2021 年 10 月. (オンライン)

末松菜々子, 嚴先鏞, 鈴木勉: センサ付き計測自転車による自転車走行空間の評価, 地理情報システム学会講演論文集 (ポスター), 2021 年 10 月. (オンライン)

佐野雅人, 嚴先鏞, 鈴木勉: 都市計画・行政サービス広域圏の分布から見た圏域の空間単位, 地理情報システム学会講演論文集 (ポスター), 2021 年 10 月. (オンライン)

榎本俊祐, 嚴先鏞, 鈴木勉: 社会コストを最小化する拠点と公共交通路線の同時配置, 地理情報システム学会講演論文集, 2021 年 10 月. (オンライン)

S. Eom, and E. Byun, 感染症拡大における生活治療センター運営のための資源配分手法に関する研究, 大韓国土・都市計画学会秋季学術大会, 2021年10月(韓国語). (オンライン)

S. Eom, and D. Hasegawa, Urban Core and Facility Location Model for Shrinking Cities, the International Federation of Operational Research Societies, September 2021. (online)

B. Lu, S. Eom, and T. Suzuki, Evacuees flow management simulation in the underground shopping streets, 2021 International Conference of Asia-Pacific Planning Societies (ICAPPS 2021), August 2021. (online)

Y. Huang, S. Eom, and T. Suzuki, Selecting jogging routes considering joggers' preference: Evidence from Downtown Tokyo, International Conference on Transport & Health, June 2021. (online)

L. Yang, S. Eom, and T. Suzuki: Measuring Transit-Oriented Development Degree Based on the Railway Transit Network Performance Considering Population and Facility Distribution, 13th World Congress of the Regional Science Association International, May, 2021. (online)

宋蕙丞, 嚴先鏞, 徒歩と公共交通のアクセシビリティを考慮した生活インフラ拠点配置, 大韓国土・都市計画学会春季学術大会, 2021年4月(韓国語). (オンライン)

◆ その他 :

第30回地理情報システム学会研究発表大会ポスターセッション賞(共同, 2件)

### 3. 学内運営

◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献 :

地球規模課題学位プログラム(学士) 運営委員会委員

地球規模課題学位プログラム(学士) カリキュラム委員会委員

地球規模課題学位プログラム(学士) 広報委員会委員

地球規模課題学位プログラム(学士) 入試委員会委員

### 4. 学外の社会貢献

◆ 学会活動 :

日本建築学会 地域包摂型まちづくり [若手奨励] 特別研究委員会委員

◆ 高大連携活動

◆ 外部講演<sup>19)</sup> All Japan High School Forum 2021 Advisor

2022. 1. 29 データに基づいた問題の発見から解決まで、挑戦してみませんか? Hack My



Tsukuba

- 2022. 1. 13 COVID-19 における Human mobility モニタリングと施設計画, 南山大学
- 2021. 12. 6 Urban diagnosis and spatial planning based on spatiotemporal data, BK21  
Four 国際学术交流セミナー, Hanyang University, Seoul, Korea.
- 2021. 11. 19 Human mobility change under COVID-19: Possibility and limitation of big  
data, International academic seminar on COVID-19 and Urban Future  
Hanyang University, Seoul, Korea.

氏名	折原 正訓	職名	助教
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	企業金融, 税制		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：  
学類 計量分析システム演習／金融リスク管理論/経済学の実証
- ◆ 指導学生数：  
社会工学類 1人

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：  
科学研究費若手研究「企業統治と企業価値：準自然実験アプローチを用いた実証研究」(代表)
- ◆ 著書・論文等：  
Orihara, M. and A. Eshraghi, “Corporate Governance Compliance and Herding,” *International Review of Financial Analysis* 80(102029).  
Kasahara A. and M. Orihara, “Family firms’ Dividend Policies: Evidence from a Japanese Tax Reform,” *Finance Research Letters* 45(102199).
- ◆ 学会発表等：  
“COVID-19: Firm Value and Pre-Existing Corporate Governance Regulations,”  
Bolzano-Padova Accounting Summer Camp

## 3. 学内運営

- ◆ 学位プログラム等組織の業務への貢献 (委員会等)：  
論文委員

## 4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：  
経済産業研究所 (RIETI) 「これからの法人に対する課税の方向性」プロジェクトメンバー

日本証券経済研究所 証券税制研究会 委員

社会工学域アニュアルレポート（2021年度分）

氏名	金澤 輝代士	職名	助教
専攻（博士後期課程）	社会工学学位プログラム		
専攻（博士前期課程）	社会工学学位プログラム		
担当学類	社会工学類		
研究分野	確率過程，統計物理学，金融データ解析，経済物理学		

## 1. 教育

◆ 担当授業科目：

1. 学類 ファイナンス：理論と実践（春 C）
2. 学類 社会工学英語（秋 AB）
3. 学類 社会と最適化（秋 AB）
4. 学類 データ解析（秋 AB）
5. 大学院 社会工学のための数学（春 AB）

◆ 指導学生数：

社会工学類 3人  
社会工学学位プログラム 2人

## 2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 科研費新学術研究（公募班，研究代表者，直接経費の配分総額 220 万円）  
2020 年 4 月～2022 年 3 月  
「アクティブマターにおける異常拡散現象を記述する微視的数理基盤の創出」
2. JST さきがけ（研究代表者，直接経費の配分総額 4,160 万円）  
2020 年 11 月～2024 年 3 月  
「確率過程の縮約理論を用いた社会シミュレータの高速化」
3. 科研費 基盤研究(B)（研究代表者，直接経費の配分総額 1330 万円）  
2021 年 4 月～2026 年 3 月  
「金融市場マイクロデータ解析による HFT の実態調査と流動性シミュレーターの構築」

◆ 著書・論文等：

1. K. Kanazawa and D. Sornette, Physical Review Letters **127**, 188301 (2021)
2. M. Jusup, P. Holme, K. Kanazawa et al., Physics Reports **948** 1 (2022)
3. K. Kanazawa and D. Sornette, arXiv:2110.01523 (2022)

◆ 学会発表等：

1. “Power-law intensity distributions in linear and nonlinear self-excited Hawkes processes”  
K. Kanazawa and D. Sornette, International Conference on Computational Social Science (IC2S2 2021), 2021 年 7 月

2. “Lévy flight in active matter from its microscopic dynamics”  
K. Kanazawa, 2021 NCTS Physics in Complex Systems Workshop (invite), 2021 年 10 月
3. “Power-law relations in the intensity distribution for the linear and nonlinear Hawkes processes”  
K. Kanazawa and D. Sornette, CCS 2021 Satellite on Econophysics, 2021 年 10 月
4. “Classification of Power law Relations in the Intensity Distribution for a Large Class of Self-excited Nonlinear Hawkes Processes”  
K. Kanazawa and D. Sornette, Conference on Complex Systems 2021, 2021 年 10 月
5. 「マルコフ埋め込み法を利用した非線形ホークス過程の漸近解法」  
金澤輝代士, D. Sornette, 第 64 回自動制御連合講演会, 2021 年 11 月
6. “Field master equation for non-Markovian stochastic processes and its application to linear and nonlinear Hawkes processes”  
K. Kanazawa, 駆動散逸系の非平衡現象に関する理論的研究, 2021 年 12 月
7. 「非線形ホークス過程における強度分布のべき則：場の理論的な解法」  
金澤輝代士, D. Sornette, ネットワーク科学研究会 2021, 2021 年 12 月
8. 「株式市場での成行注文の長期相関性とトレーダーの分割発注行動の関係について」  
金澤輝代士, 佐藤優輝, 2021 年度 CIGS 経済・社会との分野横断的研究会,  
2021 年 12 月
9. 「金融市場における注文流の長期相関は何故生じるのか？：マイクロ起源の実証分析」  
佐藤優輝, 金澤輝代士, 第 1 回計算社会科学大会, 2022 年 2 月
10. 「非マルコフ確率過程の標準解法は何か？：非線形ホークス過程とその一般化」  
金澤輝代士, D. Sornette, Data-driven Mathematical Science : 経済物理学とその周辺,  
2022 年 3 月
11. 「取引者の注文分割行動と売買符号時系列の長期記憶性に関する実証分析」  
佐藤優輝, 金澤輝代士, Data-driven Mathematical Science : 経済物理学とその周辺,  
2022 年 3 月
12. 「東京証券取引所における注文分割行動に関する戦略クラスタリング」  
佐藤優輝, 金澤輝代士, 第 28 回 人工知能学会 金融情報学研究会 (SIG-FIN),  
2022 年 3 月
13. “Ubiquitous power law intensity distributions in the self-excited nonlinear Hawkes processes”  
K. Kanazawa, D. Sornette, APS March Meeting 2022, 2022 年 3 月
14. 「非マルコフ点過程のマスター方程式の標準形：一般化ランジュバン方程式の漸近的導出」  
金澤輝代士, Didier Sornette, 日本物理学会 第 77 回年次大会, 2022 年 3 月
15. 「売買符号時系列の長期記憶性とそのマイクロ構造の究明」  
佐藤優輝, 金澤輝代士, 2021 年度 MIMS 現象数理学研究拠点 共同研究集会

「社会物理学とその周辺」, 2022年3月

- ◆ その他：特になし

### 3. 学内運営

- ◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献：特になし
- ◆ 学位プログラム等組織の業務への貢献（委員会等）：
  1. 論文委員（サービス工学担当）
  2. 広報委員

### 4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
  1. Journal of Statistical Mechanics（査読, 1回）
  2. Physical Review Letters（査読, 2回）
  3. Physical Review E（査読, 4回）
  4. Journal of the Physical Society of Japan（査読, 1回）
  5. Physica A（査読, 1回）
  6. The Journal of Physical Chemistry Letters（査読, 1回）
  7. Swiss National Science Foundation（グラント査読, 1回）

氏 名	木下 陽平	職 名	助教
学位プログラム (博士後期課程)	リスク・レジリエンス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担		
学位プログラム (博士前期課程)	リスク・レジリエンス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	測地学、地球物理学、リモートセンシング		

## 1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類： 線形代数 2, 線形代数 3, 都市環境評価論, 都市計画マスタープラン演習, 都市計画インターンシップ

大学院： リスク・レジリエンス工学学位プログラム演習, レジリエント都市計画演習, リスク工学基礎, リスク・レジリエンス工学学位プログラム PBL 演習, 都市リスクマネジメント論, 災害リスク・レジリエンス論

◆ 指導学生数：

社会工学類 1名

リスク・レジリエンス工学学位プログラム博士前期課程 3名

## 2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 若手研究「GNSS 観測と気象モデリングの融合による先進的 InSAR 大気補正手法の開発」

◆ 著書・論文等：

K. Matsuzawa, Y. Kinoshita, Error Evaluation of L-Band InSAR Precipitable Water Vapor Measurements by Comparison with GNSS Observations in Japan, *Remote Sensing*, 13(23), 2021.

◆ 学会発表等：

- Yohei Kinoshita, Developing InSAR atmospheric delay correction model based on GEONET ZTD and its gradient, EGU2021, Online, 28/04/2021
- 伊藤奎政, 木下陽平, Sentinel-1 強度画像を用いた土砂移動による道路閉塞の検出, 日本リモートセンシング学会第 70 回学術講演会, オンライン, 18/05/2021
- Yohei Kinoshita, Developing InSAR Atmospheric Delay Correction Model Based on GEONET ZTD and Its Gradient, FRINGE2021, Online, 31/05/2021

- 木下陽平, GNSS を用いた InSAR 大気遅延補正モデル開発の進捗, JpGU 2021, オンライン, 05/06/2021
  - 伊藤奎政, 木下陽平, Sentinel-1 強度画像を用いた土砂移動による道路閉塞の検出, JpGU2021, オンライン, 05/06/2021
  - 松沢啓太, 木下陽平, GNSS 観測との比較による日本内 L-band InSAR 可降水量推定の誤差評価, JpGU2021, オンライン, 05/06/2021
  - Yohei Kinoshita, Progress of Slip distribution estimation on 2018 Boso SSE based on InSAR observations, International Joint Workshop On Slow Earthquake 2021, オンライン, 14/09/2021
  - (招待講演) Yohei Kinoshita, Atmospheric noise mitigation in SAR interferometry: current state of progress, The 14th SEGJ International Symposium, オンライン, 18/10/2021
  - Yohei Kinoshita, Developing InSAR atmospheric delay model by combining GNSS ZTD with ZTD gradient and numerical weather model, JAXA PI workshop 2021, 09/11/2021
  - 伊藤奎政, 木下陽平, Sentinel-1 強度画像を用いた機械学習による土砂移動の検出の試み, 日本リモートセンシング学会第 71 回学術講演会, オンライン, 15/11/2021
  - 松沢啓太, 木下陽平, 日本における GNSS 観測との比較による L-band InSAR 可降水量測定の誤差評価, 日本リモートセンシング学会第 71 回学術講演会, オンライン, 16/11/2021
  - 木下陽平, GNSS と数値気象モデルの水平風データを融合した InSAR 大気遅延モデルの開発, 日本測地学会第 136 回講演会, オンライン, 18/11/2021
  - Yohei Kinoshita, Progress of developing InSAR atmospheric delay correction model based on GNSS ZTD and Its gradient, AGU Fall Meeting 2021, Online, 17/12/2021
- ◆ その他：  
無し

### 3. 学内運営

- ◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献：  
スポーツデイ委員会委員
- ◆ 学位プログラム等組織の業務への貢献  
(委員会等)  
社会工学類 広報委員会委員, 3 年生クラス担任  
リスク・レジリエンス工学学位プログラム 広報委員会委員, 総務委員会委員, カリキュラム委員会委員, 修士課程 1 年生副担任



#### 4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

学術誌査読： Remote Sensing 4 件

Atmosphere 1 件

JAXA/EORC 第3回地球観測研究公募 6 件

日本測地学会 評議員

日本測地学会 JpGU プログラム委員

InSAR 地殻変動研究コミュニティ「PIXEL」 コアメンバー

日本地球惑星科学連合 「SAR」セッション 主コンビーナー

日本リモートセンシング学会 JpGU 小委員会 委員

氏名	黒瀬 雄大	職名	助教
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム サービス工学学位プログラム		
担当学類	社会工学類		
研究分野	統計、計量経済学		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
  - 学類 データ解析／プログラミング入門 A／プログラミング入門 B／プログラミング入門／プログラミング実習
  - 大学院 統計分析／ファイナンス：理論と実践
- ◆ 指導学生数：
  - 学類 2名

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
  - 科学研究費 若手研究 「多変量／高次元の潜在変数をもつ時系列モデルの効率的ベイズ推測」(研究代表)
  - 科学研究費 基盤研究(A) 「経済・金融多変量データのベイズモデリングと政策・行動の確率的評価」(研究分担)
- ◆ 学会発表等：
  - 黒瀬雄大, ボラティリティ推定：収益率と取引価格レンジの同時モデリング, 2021年度統計関連学会連合大会, オンライン.

## 3. 学内運営

- ◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献：
  - システム情報系 施設安全衛生管理・省エネルギー委員会 委員
- ◆ 学位プログラム等組織の業務への貢献 (委員会等)：
  - 社会工学類 3年次クラス担任 / 就職委員会 委員
  - 社会工学／サービス工学学位プログラム カリキュラム委員会 委員
  - 社会工学域 施設委員会 委員

## 4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
  - 学術誌査読

氏名	佐野 幸恵	職名	助教
専攻 (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
専攻 (博士前期課程)	社会工学学位プログラム、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	社会経済物理、計算社会科学、ウェブサイエンス		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
  - 学類：数学リテラシー1、プログラミング入門A、プログラミング入門B、プログラミング入門、プログラミング実習、学問への誘い(社会工学類担当分)
  - 大学院：社会シミュレーション
- ◆ 指導学生数：合計 9名
  - 社会工学類 2人
  - 社会工学学位P (前期) 4人・サービス工学学位P (前期) 2人
  - 社会工学学位P (後期) 1人

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
  - 科学研究費 若手研究「多層ネットワークを用いたワクチン忌避に対する実証的研究」(代表)
  - 科学研究費 基盤研究(C)「勤労世代における風疹ワクチン接種の決定要因に関する研究」(分担)
- ◆ 著書・論文等：
  1. Q. Wu, Y. Sano, H. Takayasu, and M. Takayasu,  
 “Classification of endogenous and exogenous bursts in collective emotions based on Weibo comments during COVID-19,” *Scientific Reports*, vol.12, article number 3120 (2022). [査読あり論文]
  2. 礪波 亜希, 吉田 光男, 佐野 幸恵,  
 “日本におけるオンライン・ハラスメントの現状と対策：Twitter での女性記者のツイート「炎上」を例に,” *F1000Research* vol. 10, article number 1164 (2022). [査読あり論文]
  3. Y. Sano, H. A Torii, Y. Onoue, and K. Uno,  
 “Simulation of information spreading on Twitter concerning radiation after the Fukushima nuclear power plant accident,” *Frontiers in Physics*, vol.9, article number 640733 (2021). [査読あり論文]

4. 佐野 幸恵, 水野 誠,  
“Chapter 3 集団の感情と持続的な熱狂——どう変わっていくのか,”  
水野 誠, 稲水 伸行, 笹原 和俊編著「プロ野球「熱狂」のメカニズム:ファン行動とマネジメントの計算社会科学」(東京大学出版会 2021). [書籍の一部]
5. 佐野 幸恵, 鳥居 寛之,  
“SNS データを用いた情報拡散シミュレーション,” シミュレーション, vol. 40(3),  
pp.137-143 (2021). [解説論文 (査読なし・招待)]

◆ 学会発表等：\*登壇分のみ

1. 佐野 幸恵, 堀 愛,  
“風疹に関する SNS 書き込み推移の解析,”  
第 80 回 日本公衆衛生学会総会大会, オンライン, 12/21-23 (2021). [ポスター応募]
2. 佐野 幸恵,  
“SNS 上の情報の流れの数理的分析,”  
電気通信サービスにおける消費者問題に関する研究会, オンライン, 12/15 (2021). [招待講演]
3. 佐野 幸恵,  
“謝辞からみる学术界のネットワーク,”  
ネットワーク科学セミナー, オンライン, 12/11, 12 (2021). [招待講演]
4. 佐野 幸恵,  
“Twitter 研究の実際: 収集から分析まで,”  
新潟大学 第 27 回ビッグデータアクティベーション(BDA)研究会, オンライン, 11/30  
(2021). [招待講演]

◆ その他：

1. BEST FACULTY MEMBER 2021 (研究)・筑波大学

◆ 学内運営

◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献：

- ・情報ガバナンス基盤室 室員
- ・THE・QS 世界大学ランキングにおける有効指標を踏まえた大学力強化に係るタスクフォース 構成員

◆ 学位プログラム等組織の業務への貢献 (委員会等)：

- ・専攻 入試実施委員会 委員
- ・社工データサイエンス委員会 委員
- ・情報学群・社会工学類 「プログラミング入門」WG 委員

## 1. 学外の社会貢献

- ◆ 日本物理学会：
  - ・ 研究費配分に関する教育研究環境検討委員会 オブザーバ
  - ・ 男女共同参画推進委員会 オブザーバ
- ◆ その他
  - ・ 一般財団法人 統計質保証推進協会 統計検定  
データサイエンス発展及び応用（CBT）問題策定委員会 委員
  - ・ 独立行政法人日本学術振興会 男女共同参画推進アドバイザー
  - ・ 茨城県南生涯学習センター 運営協議会 委員
  - ・ 日本経済新聞主催 第9回 星新一賞 審査員

氏名	Tran Lam Anh Duong	職名	助教
専攻（博士後期課程）	社会工学学位プログラム 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学学位プログラム、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	国際経済学、経済成長、所得分配		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
  - 学類：国際金融論/マクロ経済学/計量分析システム演習
  - 大学院前期課程：経済・政策分析

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
  - 公益財団法人ヒロセ国際奨学財団（研究助成）「経済のグローバル化が市場の不完全性を通じて所得の不平等に与える影響の分析」（代表）
- ◆ 学会発表等：
  - Tran L.A.D. (2021) Foreign Direct Investment and Wealth Distribution Dynamics, Virtual 96th Annual Western Economic Association International Conference
- ◆ その他
  - 受賞：The Journal of International Trade & Economic Development 誌より Best Paper Prize 2021  
※ Tran L.A.D., Effect of International Trade on Wage Inequality with Endogenous Technology Choice, *The Journal of International Trade & Economic Development*, 30(1), 1-26 (2021)

## 3. 学内運営

- ◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献：
  - 日越大学 修士課程公共政策プログラム（ベトナム）：授業 (Macroeconomics for Public Policy)、運営
  - 施設安全衛生管理 委員
- ◆ 学位プログラム等組織の業務への貢献（委員会等）：
  - 社会工学学位プログラム 施設委員会 委員

## 4. 学外の社会貢献

- 国際奨学財団における委員会活動：公益財団法人ジャパンマテリアル国際奨学財団 選考委員（2019年4月－現在）
- 国際会議・シンポジウムのオーガナイザー：The 2nd Vietnam Symposium on International Business 科学委員（2021年7月，Banking University of Ho Chi Minh City, HCMC, Vietnam）
- 非常勤講師の活動：放送大学東京多摩学習センター：マクロ経済分析（2021年10月）